

Forum on



2007

Information Technology

第6回情報科学技術フォーラム

プログラム

インフォメーション	1
交通案内図	2
キャンパス図	4
プログラム概要	7
講演論文集の内容	11
各種イベントのご案内	12
会場別スケジュール	13
イベント企画講演概要	16
展示会のご案内	47
一般講演プログラム	50
FIT委員名簿	77

平成19年9月5日(水)～7日(金)
中京大学豊田キャンパス(愛知県豊田市貝津町床立101)

懇親会 9月6日(木) 18:00より
19号館2F プラザ・リスタ(会場キャンパス内)
FIT2007本部 21号館3F 2133教室
電話・FAX : (0565)46-2118

【共催】



社団法人 情報処理学会

Information Processing Society of Japan



社団法人 電子情報通信学会

The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

情報・システムソサイエティ(ISS)
Information and Systems Society

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)
Human Communication Group

【協賛】



中京大学

Chukyo University

ーインフォメーションー

■総受付(インフォメーションコーナー) 19号館3F プロムナード

受付時間：5日(水)9:00-17:00 6日(木)9:00-17:00 7日(金)9:00-15:00
各種受付, 講演論文集・CD-ROM販売, 問合せ窓口

■FIT2007本部・手荷物預かり 21号館3F 2133教室

臨時電話(FAX兼用)0565-46-2118(会期中のみ)

※荷物は2号館1F(バス停横)の手荷物ロッカーも使用できます。 使用時間：8:00～20:00

使用方法(カギのかけ方)

- ①ツマミをOPEN(右)にする
- ②ダイヤルを回し暗証番号をセットする
- ③ツマミをCLOSE(左)にする
- ④暗証番号を確認してからダイヤルの数字を変える

使用方法(カギのあけ方)

- ①ダイヤルを回してセットした暗証番号に合わせる
- ②ツマミをOPEN(右)にするとカギが開きます

■聴講参加費[プログラム・参加章・CD-ROM付き](税込)

会 員：8,500円 非会員：17,000円 学生：無料(プログラム・参加章のみ)

■講演論文集・CD-ROM(税込)

講演論文集セット(全論文集・CD-ROM・カバー付き)：個人・法人共57,000円

講演論文集各分冊：個人購入10,000円／法人購入15,000円

講演論文集CD-ROM：個人購入8,000円／法人購入55,000円／学割会場販売：2,500円

※CD-ROMには一般講演全論文とプログラム収録

■懇親会

日時：9月6日(木) 18:00-20:00

会場：19号館2F プラザ・リスタ

参加費(税込)：社会人5,000円 学生3,000円

■アイスアリーナ「オーロラリンク」見学会

日時：9月6日(木) 15:30-17:30

詳細は会期中総受付にてお知らせします。(整理券を配布予定です)

■お知らせ事項

〔連絡掲示板〕

FITに関する周知および伝言等は, 総受付前に設置する「連絡掲示板」に掲示しますのでご注意ください。
各会場への個別の連絡や館内アナウンス等は致しません。

〔無線LANコーナー〕

19号館 2F～3F

19号館においてNATを介したインターネット接続環境がご利用頂けます。無線LAN(802.11aもしくは802.11g)に接続できるパソコンをご用意ください。ご希望の方は総受付(19号館3Fプロムナード)に「無線LAN使用の手引」がございますのでお持ち下さい。なお電源はご提供いたしておりません。

〔食堂〕

2号館1F食堂(カフェテリア・ルパ)

営業時間 11:00～14:00

19号館2Fフードコート(プラザ・リスタ)

営業時間 11:00～14:00

〔売店〕

2号館1F生協[購買](プラザ・アン)

営業時間 11:30～16:00

19号館1F生協[書籍](プラザ・ドウ)

営業時間 11:30～16:00

〔喫煙について〕

大学構内は禁煙です。喫煙は指定の喫煙場所(中京大学豊田キャンパス図参照)でお願いします。

■今後のFIT・大会情報

FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム

会期：2008年9月2日(火)～4日(木)

会場：慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス(神奈川県藤沢市)

第70回全国大会(情報処理学会)

会期：2008年3月13日(木)～15日(木)

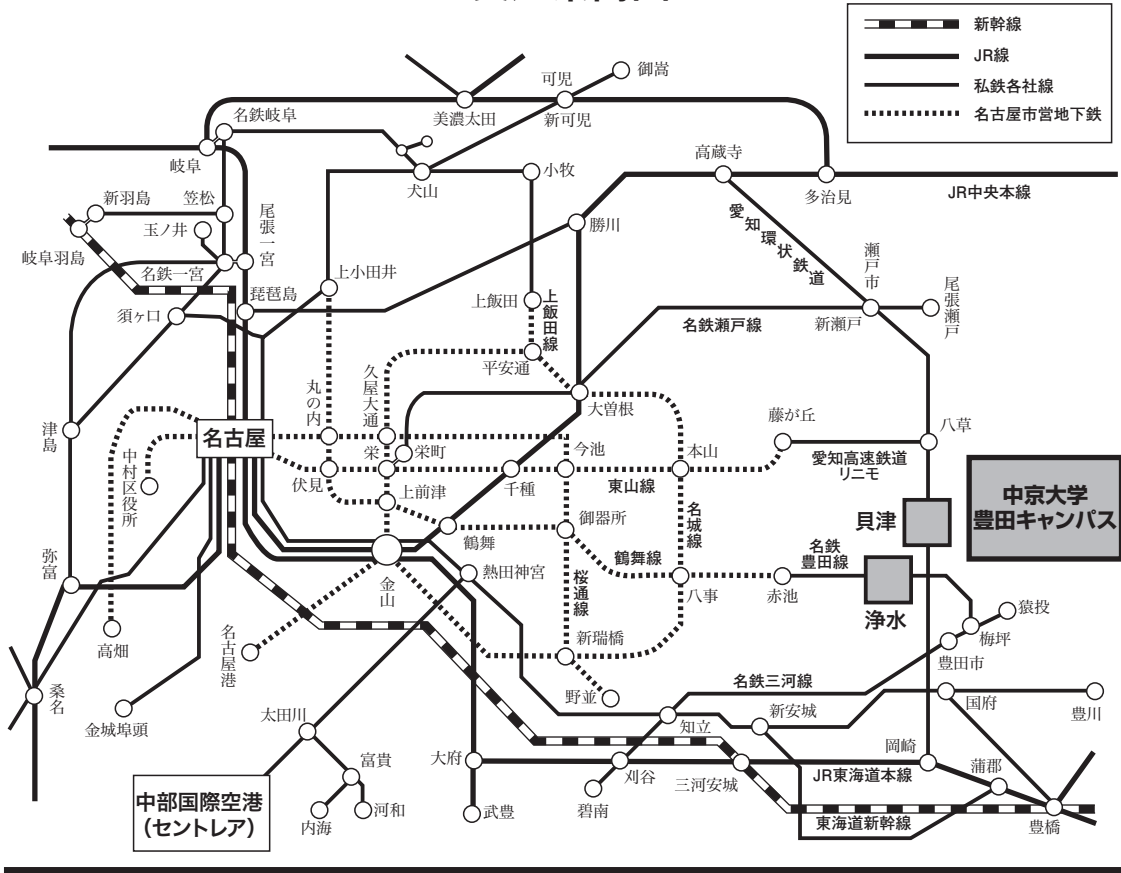
会場：筑波大学 筑波キャンパス(茨城県つくば市)

2007年総合大会(電子情報通信学会)

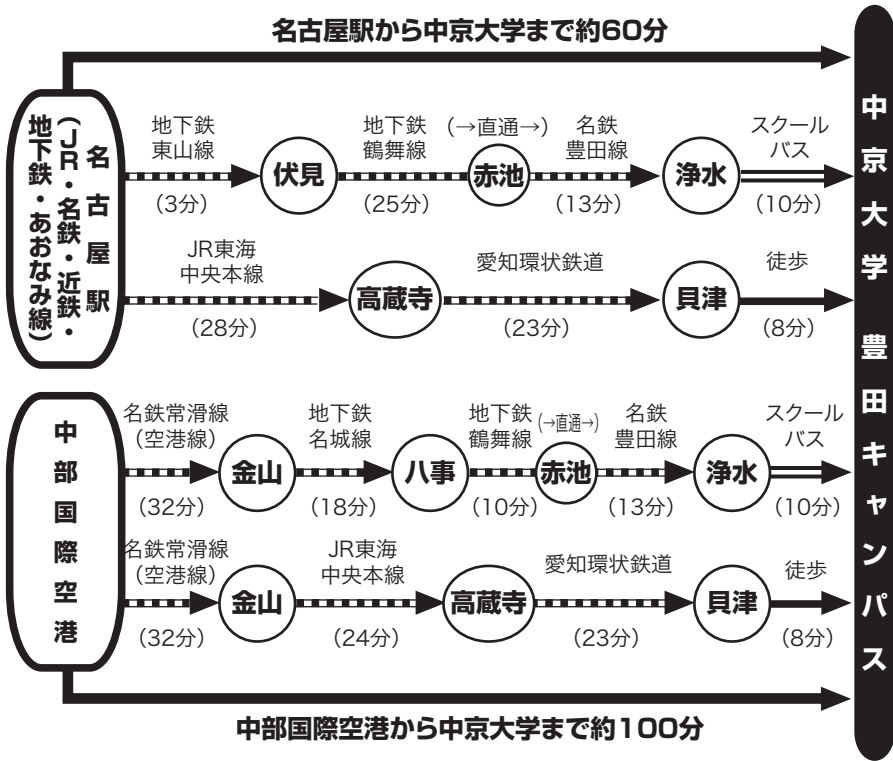
会期：2008年3月18日(火)～21日(金)

会場：北九州学術研究都市三大学合同(福岡県北九州市)

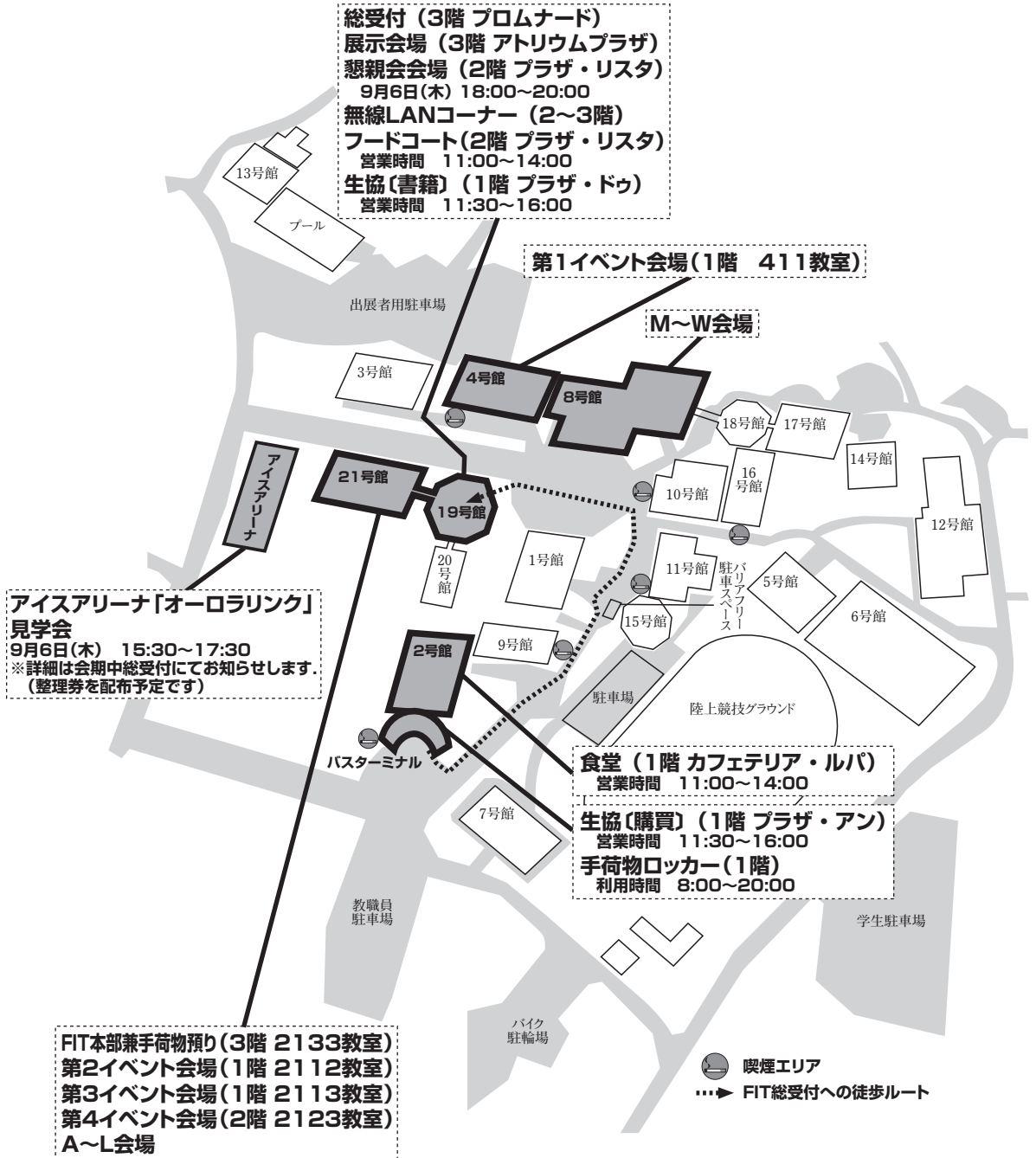
交通案内図



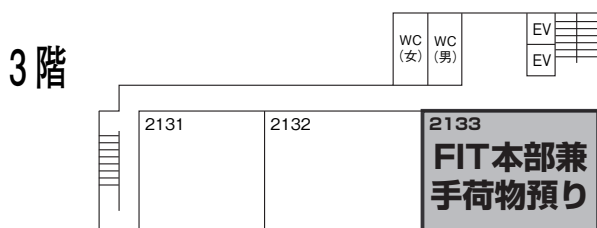
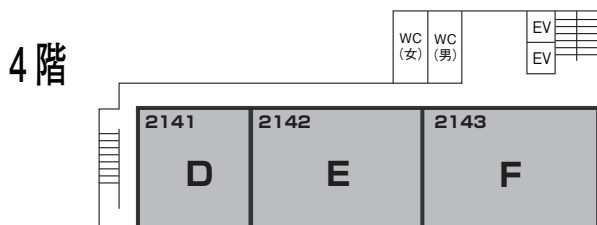
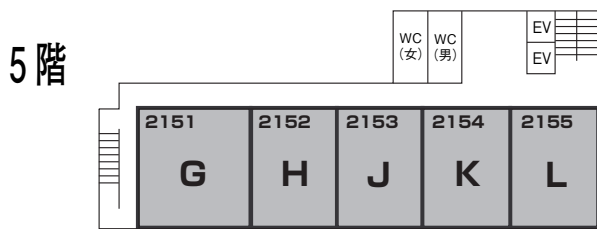
名古屋駅から中京大学まで約60分



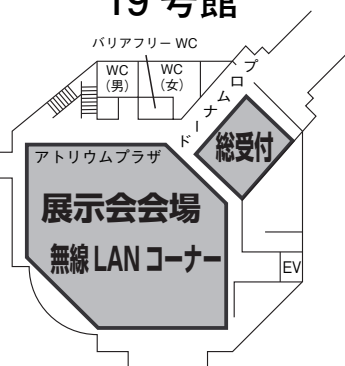
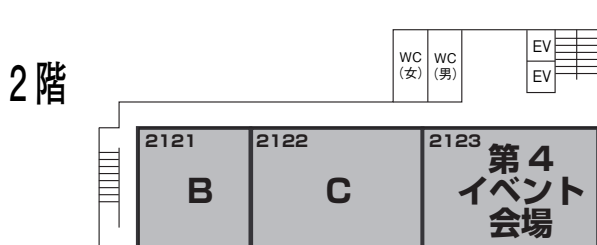
中京大学豊田キャンパス図



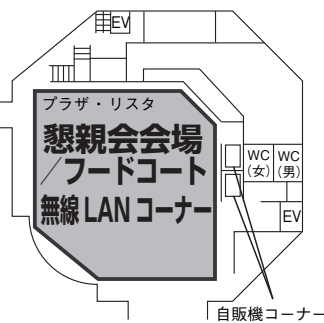
21号館



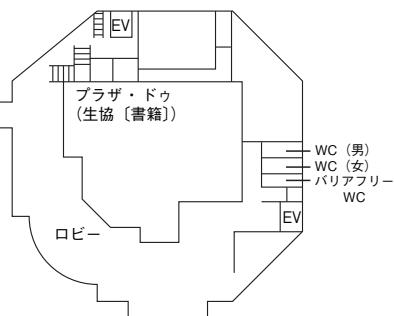
19号館



※19号館2階プラザ・リスタ, 3階アトリウムプラザの2箇所で無線LANによる接続が可能です。

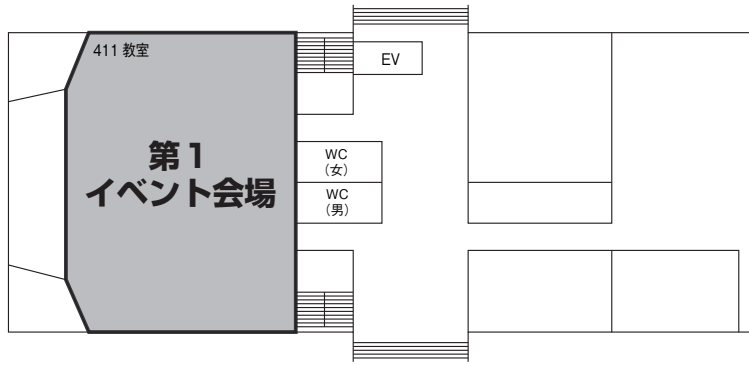


※メインの食堂は2号館1階にございます。



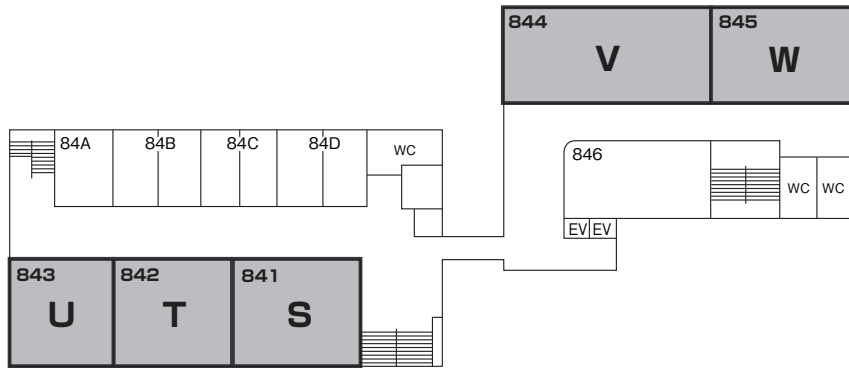
4号館

1階

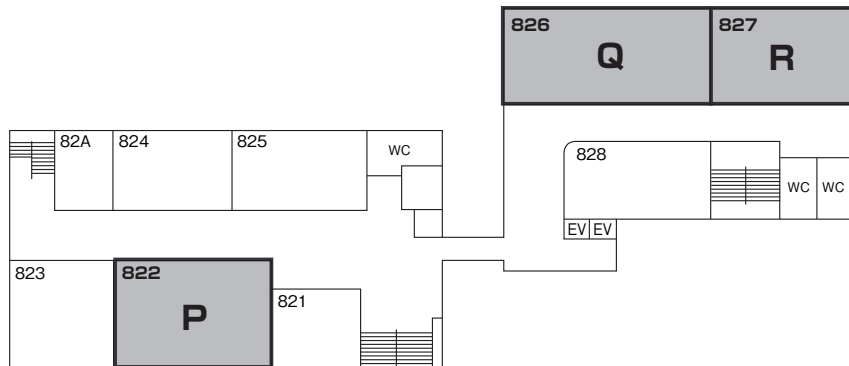


8号館

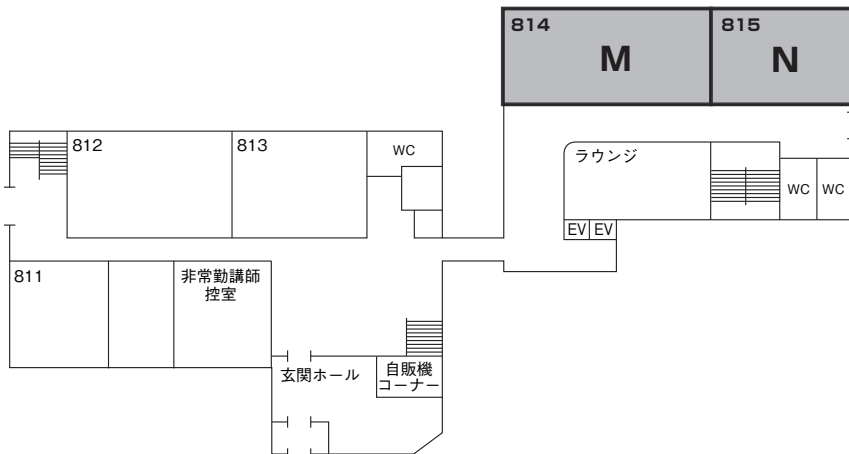
4階



2階



1階



FIT2007 プログラム概要

日	会場 時間	第1イベント会場 4号館1階 411教室	第2イベント会場 21号館1階 2112教室	第3イベント会場 21号館1階 2113教室	第4イベント会場 21号館2階 2123教室	展示会場 19号館3階 アトリウムプラザ
9月5日 (水)	10:00	10:00 - 12:00 ここまで使える 数理計画法 17	10:00 - 12:00 情報爆発時代のデータベース-センサネットワーク技術がもたらすデータベース技術の新展開と応用- 本イベント協賛：文部科学省 科学研究費補助金特定領域研究 「情報爆発IT基盤」 23	10:00 - 12:00 FIT2007 論文賞セッション (午前の部 4件)	10:00 - 12:00 人の居場所を探る -情報過多の ネット時代における 個性化現象- 37	展 示 会
	12:00					
	13:00	13:00 - 15:50 パターン認識・ メディア理解 アルゴリズムコンテスト	13:00 - 17:30 知財戦略を俯瞰する -技術経営から支援技術、 知の構造化まで- 本イベント共催： 社団法人 日本知財学会	13:00 - 17:00 FIT2007 論文賞セッション (午後の部 6件)	13:00 - 17:30 近未来技術と情報科学 -次世代ロボット技術を 展望する-	
	15:00 15:30					
17:30	19	24	38	47		
9月6日 (木)	10:00	/	10:00 - 12:00 教育・情報システム 論文執筆ワークショップ (午前の部) 27	10:00 - 12:00 ロボットや機械との コミュニケーション -人間らしさ、 機械らしさとは?- 32	10:00 - 12:00 近未来技術と情報科学 -スポーツと情報技術- 41	展 示 会
	12:00					
	13:00	17	/	/	/	
	13:50	17	/	/	/	
	14:00	14:00 - 15:15 船井業績賞受賞記念講演 村井 純 (慶應義塾) 人と社会、そして、 コンピュータとネットワーク 16	/	/	/	
	15:15		/	/	/	
15:30	15:30 - 17:30 船井業績賞記念 パネル討論 グローバル情報社会： 日本での研究の 責任と役割 16	15:30 - 17:30 教育・情報システム 論文執筆ワークショップ (午後の部) 28	/	/	/	
17:30			28	/	/	47
9月7日 (金)	10:00	10:00 - 12:00 良い論文を書くためには、 伝わる日本語文章を 書くためには 20	10:00 - 12:00 大学の理系学部等における 障害のある学生の支援	10:00 - 12:00 電子市場構築技術と その応用 (午前の部) 34	10:00 - 12:00 近未来技術と情報科学 -中京大学ハイテク リサーチ・センターの 取り組み- 42	展 示 会
	12:00					
	13:00	13:00 - 16:00 HPCから 組込みシステムまで、 カスタムコンピューティングの 世界 21	13:00 - 16:00 eポートフォリオによる 新たな教育・学習環境の 構築と実践 31	13:00 - 15:50 電子市場構築技術と その応用 (午後の部) 35	13:00 - 16:00 近未来技術と情報科学 -クリエイティブな 『ものづくり』を支える スキルとテクノロジー 44	
16:00	21					35

※右下の数字は当プログラム冊子の掲載ページ番号です。

日	会場 時間	A 21号館1階 2111教室	B 21号館2階 2121教室	C 21号館2階 2122教室	D 21号館4階 2141教室	E 21号館4階 2142教室	F 21号館4階 2143教室	G 21号館5階 2151教室
9月5日(水)	10:00	数理モデル化と問題解決(1) 北 栄輔 (名大) A分野 50	/	/	サーバ・情報システム 上田真由美 (名大) D分野 54	情報検索 原田 隆史 (慶大) D分野 54	質問応答・推論 永井 秀利 (九工大) E分野 55	言語資源 増市 博 (富士ゼロックス) E分野 55
	13:00	数理モデル化と問題解決(2) 栗原 聡 (阪大) A分野 50	高性能計算 藤井 昭宏 (工学院大) B分野 51	組込みシステムとコデザイン 曾 剛 (名大) C分野 52	データ管理 小柳 滋 (立命館大) D分野 54	データ探索・情報検索 酒井 哲也 (ニューズウォッチ) D分野 54	文書分類・マイニング 白井 清昭 (北陸先端大) E分野 55	多言語処理 中岩 浩巳 (NTT) E分野 56
	15:30	数理モデル化と問題解決(3) 堀田 一弘 (電通大) A分野 50	OS一般 光来 健一 (東工大) B分野 51	システムLSI設計技術 小松 聡 (東大) C分野 52	データベース 佐藤 秀樹 (大同工大) D分野 54	音楽情報処理 梶 克彦 (NTT) E分野 56	要約 村田 真樹 (NICT) E分野 56	データマイニング 岩沼 宏治 (山梨大) F分野 58
9月6日(木)	10:00	アルゴリズム 梅谷 俊治 (電通大) A分野 50	要求分析 小林 隆志 (名大) B分野 51	計算機アーキテクチャ 小林良太郎 (名大) C分野 52	ユーザ支援・推薦(1) 伊藤 秀昭 (中京大) D分野 54	ブログマイニング 山田 一郎 (NHK技研) E分野 56	音声・信号処理 山下 洋一 (立命館大) E分野 56	マルチエージェントシステム 松原 繁夫 (京大) F分野 58
	13:00	/	/	/	/	/	/	/
	13:50	/	/	/	/	/	/	/
	14:00	/	/	/	/	/	/	/
	15:15	/	/	/	/	/	/	/
15:30	アルゴリズムとコンピュータシミュレーション 宮崎 修一 (京大) A分野 50	ソフトウェア開発(1) 山本晋一郎 (愛知県大) B分野 51	リコンフィギャラブルシステム 久我 守弘 (熊本大) C分野 52	ユーザ支援・推薦(2) 石川 佳治 (名大) D分野 55	情報・知識抽出 山本 和英 (長岡技科大) E分野 56	音声認識・音源方向推定 速水 悟 (岐阜大) E分野 57	マルチエージェント理論 伊藤 孝行 (名工大) F分野 59	
17:30	/	/	/	/	/	/	/	
9月7日(金)	10:00	プログラミング(1) 中村 正樹 (北陸先端大) A分野 50	ソフトウェア開発(2) 福田 直樹 (静岡大) B分野 51	計算機システムの高性能化 森 敦司 (富士通研) C分野 53	クラスタリング・分類 高橋 直久 (名工大) D分野 55	意見・評判分析 奥村 明俊 (NEC) E分野 57	音声対話・理解 大淵 康成 (日立) E分野 57	ゲーム 西野 哲朗 (電通大) F分野 59
	13:00	プログラミング(2) 西崎 真也 (東工大) A分野 51	Webコンテンツ 中挟知延子 (東洋大) B分野 52	デバイスガブルシステム 岩崎 一彦 (首都大) C分野 53	Web 島川 博光 (立命館大) D分野 55	対話 松原 茂樹 (名大) E分野 57	音声システム・鳥類音声 駒谷 和範 (京大) E分野 57	推論と学習 鍋島 英知 (山梨大) F分野 59

プログラム概要

H 21号館5階 2152教室	J 21号館5階 2153教室	K 21号館5階 2154教室	L 21号館5階 2155教室	M 8号館1階 814教室	N 8号館1階 815教室	P 8号館2階 822教室
強化学習 大須賀昭彦 (電通大) F分野 58	ニューロ コンピューティング (1) 麻生 英樹 (産総研) G分野 59	パターン認識基礎 堀池 聡 (兵庫大) H分野 61	動画像解析と 追跡 岡田 稔 (早大) H分野 61	H264(1) 坂東 幸浩 (NTT) I分野 63	レンダリングと GPU 馬場 雅志 (広島市大) I分野 63	感性・感情 西野由利恵 (NICT/ATR) J分野 66
Web インテリジェンス 北村 泰彦 (関西学院大) F分野 58	ニューロ コンピューティング (2) 相原 威 (玉川大) G分野 60	顔画像解析(1) Simon Clippingdale (NHK技研) H分野 61	特徴抽出と 対象検出 森 健策 (名大) H分野 61	H264(2) 小池 淳 (KDDI研) I分野 63	モデリング技法 水野 慎士 (豊橋技科大) I分野 64	ヒューマン ファクター 矢野 澄男 (NICT/ATR) J分野 66
人工生命と シミュレーション 鍋島 英知 (山梨大) F分野 58	ニューロ コンピューティング (3) 工藤 博章 (名大) G分野 60	顔画像解析(2) 加藤 邦人 (岐阜大) H分野 61	画像検索と 特徴量 渡辺弥寿夫 (金沢工大) H分野 61	3次元テレビ・ ホログラム 甲藤 二郎 (早大) I分野 64	CG応用と 制作支援 宮崎 慎也 (中京大) I分野 64	動作理解・計測 朝倉 暢彦 (金沢工大) J分野 66
AI応用システム 服部 宏充 (京大) F分野 58	ニューロ コンピューティング (4) 和久屋 寛 (佐賀大) G分野 60	人物画像処理(1) 藤吉 弘亘 (中部大) H分野 62	3次元解析(1) 岩堀 祐之 (中部大) H分野 62	画像符号化・ 変換 橋本 真幸 (KDDI研) I分野 64	画像理解 高木 真一 (早大) I分野 64	コミュニケーション (1) 重信 智宏 (NICT) J分野 67
/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/
遺伝的 アルゴリズム 堀井 宏祐 (山梨大) F分野 59	文字認識 渡邊 豊英 (名大) H分野 62	人物画像処理(2) 嶋田 晋 (中京大) H分野 62	3次元解析(2) 天野 敏之 (奈良先端大) H分野 62	画像符号化・ 高品質化 八島 由幸 (NTT) I分野 65	アニメーションと シミュレーション 田崎 大輔 (早大) I分野 65	コミュニケーション (2) 松田 昌史 (NTT) J分野 67
ME・バイオ情報 関嶋 政和 (産総研) G分野 60	画像解析と修復 山崎 俊彦 (東大) H分野 62	スポーツ映像解析 三浦 純 (豊橋技科大) H分野 63	情報システムを 支える情報技術 富澤 眞樹 (前橋工大) O分野 76	電子すかし・ スクランブル 如澤 裕尚 (NTTレゾナント) I分野 65	画像処理・計測 内海 章 (ATR) I分野 65	ロボット/ アバタHCI(1) 水口 充 (NICT) J分野 67
ME・医用画像 北坂 孝幸 (名大) G分野 60	VRと インタラクション 佐藤 智和 (奈良先端大) H分野 63	映像メディア 北原 格 (筑波大) H分野 63	映像理解・ オーサリング 米山 暁夫 (KDDI研) I分野 65	3D・多視点・ 自由視点 藤井 俊彰 (名大) I分野 65	画像処理の CG応用とNPR 斎藤 隆文 (農工大) I分野 66	ロボット/ アバタHCI(2) 竹内 勇剛 (静岡大) J分野 67

FIT2007 プログラム概要

日	会場 時間	Q 8号館2階 826教室	R 8号館2階 827教室	S 8号館4階 841教室	T 8号館4階 842教室	U 8号館4階 843教室	V 8号館4階 844教室	W 8号館4階 845教室
9月5日 (水)	10:00	操作支援 岩爪 道昭 (NICT) J分野 66	教育学工(1) 中村 直人 (千葉工大) K分野 68	大規模・広域 ネットワーク システム 長谷川明生 (中京大) L分野 70	ネットワーク・ ロボット 篠沢 一彦 (ATR) L分野 70	コミュニティ形成と 情報共有 宗森 純 (和歌山大) M分野 72	アドホック・ ネットワーク 内藤 克浩 (三重大) M分野 72	授業支援方法論 田中 雅章 (鈴鹿短大) N分野 74
	13:00	文字入力と ポインティング 青木 恒 (東芝) J分野 66	教育学工(2) 香山 瑞恵 (信州大) K分野 68	ネットワーク アプリケーション (1) 梶田 将司 (名大) L分野 70	分散処理 重野 寛 (慶大) M分野 72	対話と コラボレーション 金子 聡 (日本IBMサービス) M分野 72	無線通信とセンサ 藤野 信次 (富士通研) M分野 72	情報教育支援 システム(1) 紅林 秀治 (静岡大) N分野 75
	15:30	ユーザインタフェース 構築と応用 三浦 元喜 (北陸先端大) J分野 67	マルチメディア・ 仮想環境基礎(1) 上田 博唯 (京産大) K分野 68	ネットワーク アプリケーション (2) 吉田 和幸 (大分大) L分野 70	ITS 奥田 隆史 (愛知県大) M分野 72	情報共有と ユーザ認証 井上 智雄 (筑波大/ 国立情報学研) M分野 73	モバイル・ アプリケーション 渡邊 晃 (名城大) M分野 73	図式・ マルチメディアの 利用 立田 ルミ (獨協大) N分野 75
9月6日 (木)	10:00	教育学工(3) 赤倉 貴子 (東理大) K分野 68	マルチメディア・ 仮想環境基礎(2) 柳田 康幸 (名城大) K分野 68	セキュリティ システム 三宅 優 (KDDI研) L分野 70	ユビキタス ネットワーク 井上 雅裕 (芝浦工大) M分野 73	P2P 植田 和憲 (高知工大) M分野 73	学習者支援環境 高岡 詠子 (千歳科技大) N分野 75	
	13:00							
	13:50							
	14:00							
	15:15							
15:30	教育学工(4)／ 福祉情報工学(1) 樋口 宜男 (立命館大) K分野 69	分散システムと P2P 榊田 秀夫 (京都工繊大) L分野 70	ネットワーク・ セキュリティ 小川 隆一 (NEC) L分野 71	ユビキタス アプリケーション 河口 信夫 (名大) M分野 73	モバイルと サービス 竹下 敦 (NTTドコモ) M分野 74	情報教育支援 システム(2) 坂東 宏和 (桜美林大) N分野 75	システムのプロセス &モデリング 岩田 祐一 (NTT東日本) O分野 76	
17:30								
9月7日 (金)	10:00	教育学工(5) 小尻 智子 (名大) K分野 69	ネットワークの 品質評価と QoS制御 地引 昌弘 (NEC) L分野 71	暗号・要素技術 鈴木幸太郎 (NTT) L分野 71	RFID・位置情報 祓川 友宏 (静岡大) M分野 74	無線ネットワークと プロトコル 重安 哲也 (広島国際大) M分野 74	プログラミング教育 西田 知博 (大阪学院大) N分野 75	オフィス 情報システム 福田 洋治 (愛知教育大) O分野 76
	13:00	福祉情報工学(2) 中山 剛 (身体障害者 リハビリテーション研) K分野 69	ネットワークの 管理と監視 山井 成良 (岡山大) L分野 71	認証 加藤 岳久 (東芝ソリューション) L分野 71	センサ・状況認識 岩崎 敦 (九大) M分野 74	ユビキタス フレームワーク 北形 元 (東北大) M分野 74	デジタル知財・ 人文系応用 亀山 渉 (早大) N分野 75	社会と 情報システム 金田 重郎 (同志社大) O分野 76
	16:00							

講演論文集の内容

発行日 平成 19 年 8 月 22 日

情報科学技術レターズ（査読付き論文）

採録論文

一般講演論文集 第 1 分冊

分野 A：モデル・アルゴリズム・プログラミング

分野 B：ソフトウェア

分野 C：ハードウェア・アーキテクチャ

一般講演論文集 第 2 分冊

分野 D：データベース

分野 E：自然言語・音声・音楽

分野 F：人工知能・ゲーム

分野 G：生体情報科学

一般講演論文集 第 3 分冊

分野 H：画像認識・メディア理解

分野 I：グラフィクス・画像

分野 J：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

分野 K：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

一般講演論文集 第 4 分冊

分野 L：ネットワーク・セキュリティ

分野 M：ユビキタス・モバイルコンピューティング

分野 N：教育・人文科学

分野 O：情報システム

講演論文集 CD-ROM

上記全論文およびプログラムを収録

ー各種イベントのご案内ー

■船井業績賞受賞記念講演

第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室) 6日 (木) 14:00-15:15
 「人と社会, そして, コンピュータとネットワーク」
 村井 純 (慶應義塾常任理事/慶應義塾大学環境情報学部 教授)

■船井業績賞記念パネル討論

第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室) 6日 (木) 15:30-17:30
 「グローバル情報社会: 日本での研究の責任と役割」

■FIT 学術賞表彰式

第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室) 6日 (木) 13:00-13:50
 ・FIT2007 船井業績賞 ・FIT2007 船井ベストペーパー賞 ・FIT2007 論文賞
 ・FIT2006 ヤングリサーチャー賞

■イベント企画

第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室)

- ・5日 (水) 10:00-12:00 ここまで使える数理計画法
- ・5日 (水) 13:00-16:00 パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト
- ・7日 (金) 10:00-12:00 良い論文を書くためには, 伝わる日本語文章を書くためには
- ・7日 (金) 13:00-16:00 HPC から組込みシステムまで, カスタムコンピューティングの世界

第2 イベント会場 (21号館 1F 教室 2112教室)

- ・5日 (水) 10:00-12:00 情報爆発時代のデータベース
ーセンサネットワーク技術がもたらすデータベース技術の新展開と応用ー
- ・5日 (水) 13:00-17:30 知財戦略を俯瞰するー技術経営から支援技術, 知の構造化までー
- ・6日 (木) 10:00-12:00, 15:30-17:30 教育・情報システム論文執筆ワークショップ
- ・7日 (金) 10:00-12:00 大学の理系学部等における障害のある学生の支援
- ・7日 (金) 13:00-16:00 eポートフォリオによる新たな教育・学習環境の構築と実践

第3 イベント会場 (21号館 1F 2113教室)

- ・5日 (水) 10:00-16:00 FIT2007 論文賞セッション
- ・6日 (木) 10:00-12:00 ロボットや機械とのコミュニケーション
ー人間らしさ, 機械らしさとは?ー
- ・7日 (金) 10:00-15:50 電子市場構築技術とその応用

第4 イベント会場 (21号館 2F 2123教室)

- ・5日 (水) 10:00-12:00 人の居場所を探るー情報過多のネット時代における個倍化現象ー
- ・5日 (水) 13:00-17:30 近未来技術と情報科学ー次世代ロボット技術を展望するー
- ・6日 (木) 10:00-12:00 近未来技術と情報科学ースポーツと情報技術ー
- ・7日 (金) 10:00-12:00 近未来技術と情報科学
ー中京大学ハイテク・リサーチ・センターの取り組みー
- ・7日 (金) 13:00-16:00 近未来技術と情報科学
ークリエイティブな「ものづくり」を支えるスキルとテクノロジー

■展示会

展示会場 (19号館 3F アトリウムプラザ) 5日 (水) ~ 7日 (金)

出展企業・団体 (五十音順)

- ・NEC ソフトウェア中部
- ・スマッツ株式会社
- ・株式会社ソリトシステムズ
- ・中部テレコミュニケーション株式会社
- ・電子システム株式会社
- ・東海ものづくり創生協議会
- デジタルコンテンツビジネス研究会
- ・株式会社ナック イメージテクノロジー
- ・日商エレクトロニクス株式会社
- ・日本事務光機株式会社
- ・株式会社バッファロー
- ・株式会社ビジネスデザイン研究所
- ・船井電機株式会社
- ・三菱電機株式会社
- ・株式会社ユニメック/中京大学
- ・株式会社ロゼフテクノロジー

－会場別スケジュール－

一般講演会場 (8号館, 21号館)	
5日(水) 10:00～12:00, 13:00～15:00, 15:30～17:30	6日(木) 10:00～12:00, 15:30～17:30
7日(金) 10:00～12:00, 13:00～16:00	

懇親会会場 (19号館 2F プラザ・リスタ)	
6日(木) 18:00～20:00	

第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室)		
日	時間	内 容
5 日 (水)	ここまで使える数理計画法	
	10:00-11:00	講演1「数理計画法を用いた問題解決の事例－南山大学プロジェクトN」 鈴木敦夫(南山大)
	11:00-12:00	講演2「ここまで解ける整数計画法」 ○松井知己(中央大), 宮代隆平(農工大) ○印が講演者
	パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト	
	13:00-13:05	開会挨拶 馬場口登(阪大)
	13:05-13:15	課題概要説明, 審査結果発表 玉木 徹(広島大)
	13:15-13:20	入賞者表彰
13:20-14:50	入賞者によるアルゴリズム紹介	
15:00-15:50	講演「画像関連問題に対するアルゴリズム工学的アプローチ」 浅野哲夫(北陸先端大)	
FIT 学術賞表彰式		
6 日 (木)	13:00-13:50	FIT2006 ヤングリサーチアワード 表彰 FIT2007 論文賞 表彰 FIT2007 船井ベストペーパー賞 表彰 FIT2007 船井業績賞 表彰
	船井業績賞受賞記念講演	
7 日 (金)	14:00-15:15	人と社会, そして, コンピュータとネットワーク 村井 純(慶應義塾常任理事/慶應義塾大学環境情報学部 教授)
	船井業績賞記念パネル討論	
7 日 (金)	15:30-17:30	パネル討論「グローバル情報社会: 日本での研究の責任と役割」 司 会: 砂原秀樹(奈良先端大) 特別ゲスト: 村井 純(慶大) パネリスト: 後藤滋樹(早大), 下條真司(阪大), 近山 隆(東大), 古川 亨(慶大)
	良い論文を書くためには, 伝わる日本語文章を書くためには	
	10:00-11:00	講演1「良い学術論文を書く・書かせる基本指針」 岡田 稔(早大)
	11:00-12:00	講演2「他人に伝わる日本語文章を書くには」 阿部圭一(愛知工大)
	HPC から組み込みシステムまで, カスタムコンピューティングの世界	
	13:00-13:35	講演1「理論宇宙物理学でのハイパフォーマンスコンピューティング事例」 濱田 剛(理研)
	13:35-14:10	講演2「ReCSiP: FPGAを用いた生化学シミュレータ」 長名保範(慶大)
14:10-14:45	講演3「FPGAの部分再構成を利用したコンテンツ配信システム」 堀 洋平(産総研)	
14:50-15:25	講演4「マトリクス型超並列プロセッサMX1とその応用事例」 水本勝也(ルネサステクノロジ)	
15:25-16:00	講演5「カーチュア向けリコンフィギュラブルアーキテクチャ」 小曾根真(三洋電機)	

第2 イベント会場 (21号館 1F 2112教室)		
日	時間	内 容
5 日 (水)	情報爆発時代のデータベース－センサネットワーク技術がもたらすデータベース技術の新展開と応用－ 【本イベント協賛】文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発 IT 基盤」	
	10:00-10:30	講演1「センサネットワークの技術動向」 鈴木 敬(日立)
	10:30-11:00	講演2「センサデータベースとは: 基本概念と研究動向」 川島英之(筑波大)
	11:00-12:00	パネル討論「情報爆発時代のセンサデータベース: 技術的課題と今後の展開」 司 会: 石川佳治(名大) パネリスト: 川島英之(筑波大), 鈴木 敬(日立), 原 隆浩(阪大), 福永 茂(沖電気)
6 日 (木)	知財戦略を俯瞰する－技術経営から支援技術, 知の構造化まで－ 【本イベント共催】社団法人 日本知財学会	
	13:00-13:40	講演1「知的財産推進計画 2007 の概要」 山本雅史(内閣官房知的財産戦略推進事務局)
	13:40-14:20	講演2「企業の知財戦略と標準化戦略」 名取勝也(日本 IBM)
	14:20-15:00	講演3「IT 分野における大学知財戦略」 堀 建二(電通大)
	15:10-15:50	講演4「特許の権利化を戦略的に行うために」 加藤浩一郎(金沢工大)
	15:50-16:20	講演5「特許工学とその支援技術」 谷川英和(IRD 国際特許事務所)
	16:20-16:50	講演6「特許活用を支援する特許文書解析技術」 小西一也(NTT データ)
	16:50-17:30	講演7「知の構造化と知財戦略」 松島克守(東大)

第2 イベント会場 (21 号館 1F 2112 教室)		
日	時間	内容
6 日 (木)	教育・情報システム論文執筆ワークショップ	
	10:00-10:25	「論文執筆に関する基本事項」 辻 秀一 (東海大)
	10:25-11:00	「IS 特集号の総括」 金田重郎 (同志社大)
	11:00-11:30	「教育特集の総括」 中森真理雄 (農工大)
	11:30-12:00	「論文作成の課題, そして質疑応答」 神沼靖子
	15:30-16:30	「論文作成の課題, そして査読とは」 *当日配布資料をもとに実習
16:30-17:30	質疑応答	
7 日	大学の理系学部等における障害のある学生の支援	
	10:00-10:05	「企画の趣旨説明」 渡辺哲也 (国立特別支援教育総研)
	10:05-10:25	講演1「視覚障害のある学生の受け入れについて」 鈴木昌和 (九大)
	10:25-10:45	講演2「聴覚障害のある学生の受け入れについて」 荒井隆行 (上智大)
	10:45-11:05	講演3「肢体不自由のある学生の受け入れについて」 鎌田一雄 (宇都宮大)
	11:05-11:25	講演4「発達障害のある学生の受け入れについて」 堂平良一 (佐世保工業高専)
	11:25-11:40	講演5「高等教育機関における障害学生の実態と障害学生修学支援ネットワーク事業等について」 谷川 敦 (日本学生支援機構)
11:40-12:00	全体質疑応答	
(金)	eポートフォリオによる新たな教育・学習環境の構築と実践	
	13:00-13:10	イントロダクション
	13:10-13:50	講演1「児童・生徒のポートフォリオ学習からティーチング・ポートフォリオまで -システム開発・実践事例・普及-」 東原義訓, 谷塚光典 (信州大)
	13:50-14:30	講演2「eポートフォリオを活用したマルチキャリアパス支援」 小川賀代 (日本女子大)
	14:40-15:20	講演3「Sakai and Open Source Portfolio」 梶田将司 (名大)
	15:20-16:00	総合討論

第3 イベント会場 (21 号館 1F 2113 教室)		
日	時間	内容
5 日	FIT2007 論文賞セッション (午前の部)	
	10:00-10:30	講演1「Analysis of an Edge Coloring Algorithm Using Chernoff Bounds」 謝 旭珍 (名大)
	10:30-11:00	講演2「自動メモ化プロセッサの消費エネルギー評価」 鳥崎裕介 (名工大)
	11:00-11:30	講演3「Relative Innovator の発見によるパーソナライズ手法の提案」 川前徳章 (NTT)
	11:30-12:00	講演4「大規模自律エージェントシステムにおける契約ネットプロトコルの効率特性」 菅原俊治 (早大)
(水)	FIT2007 論文賞セッション (午後の部)	
	13:00-13:30	講演5「ノイズのある環境下でオンライン学習が可能な自己増殖型ニューラルネットワークを用いた連想記憶モデル」 須藤明人 (東工大)
	13:30-14:00	講演6「低品質文字列を認識するための文字間空隙特徴の利用」 石田皓之 (名大)
	14:00-14:30	講演7「"No news is good news" 規準を利用した行動教示の学習」 田中一晶 (京都工繊大)
	14:30-15:00	講演8「OS 資源ビューの仮想化を用いた分散システムテストベッド」 西川賀樹 (東大)
	15:00-15:30	講演9「P2P ネットワークのための分散ハッシュ型認証手法」 武田敦志 (東北文化学園大)
15:30-16:00	講演10「視覚障害者向け案内システムの実証的評価」 深澤紀子 (鉄道総研)	
16:00-17:00	選考会議	
6 日 (木)	ロボットや機械とのコミュニケーション -人間らしさ, 機械らしさとは?-	
	10:00-10:30	講演1「ヒトとモノの中間的な存在がもつ力-子どもの視点からヒトらしさ・機械らしさを考える-」 小嶋秀樹 (NICT)
	10:30-11:00	講演2「人間らしいコミュニケーションを目指す-マルチ・チャネルを活かしたコミュニケーションカー-」 大坊郁夫 (阪大)
	11:00-11:30	講演3「HAI: ヒューマンエージェントインタラクション-人にやさしく協調できる機械を目指して-」 山田誠二 (国立情報学研)
11:30-12:00	パネル討論「機械やロボットとのコミュニケーション-何度も使いたくなるインターフェイスを目指して-」 司 会: 伊藤敏彦 (北大) パネリスト: 小嶋秀樹 (NICT), 大坊郁夫 (阪大), 山田誠二 (国立情報学研)	
7 日 (金)	電子市場構築技術とその応用	
	10:00-10:10	講演1「電子市場構築技術とその応用」 横尾 真 (九大)
	10:10-11:00	講演2「電子市場構築技術の理論: オークション理論」 横尾 真 (九大), 松原繁夫 (京大)
	11:10-12:00	講演3「電子市場構築技術の応用システム」 伊藤孝行 (名工大), 武藤良英 (まいべすと)
	13:00-13:50	講演4「電子市場の計算機シミュレーション」 ・電子市場シミュレーション-人工市場シミュレーションからサービスへ 和泉 潔 (産総研) ・異なる戦略を持つエージェントによるオークションシミュレーション 水田秀行 (日本 IBM) ・大規模マルチエージェントシミュレーション環境のためのクラスタ機構 山本 学 (日本 IBM)
	14:00-14:50	講演5「予測市場とその可能性」 山口 浩 (駒沢大)
15:00-15:50	講演6「Web サービスに基づく電子市場構築技術」 福田直樹 (静岡大)	

第4 イベント会場 (21 号館 2F 2123 教室)		
日	時間	内容
5	人の居場所を探る ー情報過多のネット時代における個倍化現象ー	
	10:00-10:10	開会挨拶 全 柄東 (千葉大)
	10:10-11:00	講演1「遂に開かれた3次元世界への扉, “Second Life ×メタバースビジネス”とは? ーバーチャルリアリティのコンテンツマーケティングー」 大槻透世二 (サイバーアドベンチャー)
	11:00-11:50	講演2「共有する集合知, インターネット紀元後社会の行方 ープレゼンスの共有が生むインターネット・テレバシー機能ー」 神田敏晶 (KandaNewsNetwork, Inc.)
	11:50-12:00	閉会挨拶 田中英彦 (情報セキュリティ大)
日	近未来技術と情報科学 ー次世代ロボット技術を展望するー	
	13:00-13:20	講演1「身体性技術 (Technologies of Embodiment)」 福村晃夫 (名大/中京大)
	13:20-14:10	講演2「ロボットソフトウェアアーキテクチャを考える」 永嶋史朗 (富士通研)
	14:20-15:10	講演3「ヒトに優しい介護支援ロボットの設計と評価」 羅 志偉 (神戸大)
	15:20-16:10	講演4「NECにおけるパーソナルロボットの研究開発 ーパーソナルロボット PaPeRo や CG PaPeRo で目指す人にやさしいインタフェースー」 藤田善弘 (NEC)
(水)	16:30-17:30	パネル討論「近未来ロボティクスと情報科学」 司 会: 伊藤英則 (名工大) パネリスト: 永嶋史朗 (富士通研) [知能ロボット], 羅 志偉 (神戸大) [福祉ロボット], 藤田善弘 (NEC) [コミュニケーションロボット], 清水 優 (中京大) [レスキューロボット], 青木公也 (中京大) [ロボットビジョン], 加納政芳 (中京大) [感性ロボット], 藤原孝幸 (中京大) [エンターテインメント (似顔絵) ロボット]
6	近未来技術と情報科学 ースポーツと情報科学ー *○印が講演者	
	10:00-10:05	企画者挨拶
	10:05-10:30	講演1「蛍狩りカメラを用いたアスリートの運動解析システムの提案」 ○藤原孝幸 (中京大), 室伏広治 (中京大/ミズノ), 湯浅影元 (中京大), 興水大和 (中京大)
	10:30-10:55	講演2「スポーツ放送のための多視点カメラシステムの応用」 ○斎藤英雄, 林 邦彦, 植松裕子 (慶大), 川本哲也 (中京テレビ), 窪川直毅, 藤原 徹 (日本テレビ放送網)
	11:00-11:25	講演3「スポーツ競技における運動情報の可視化」 ○瀧 剛志 (中京大), 長谷川純一 (中京大), 北川 薫 (中京大)
(木)	11:25-11:50	講演4「スポーツの技の習得のためのメタ認知的言語化: 学習方法論 (how) を探究する実践」 ○諏訪正樹 (中京大)
	11:50-12:00	総括質疑
7	近未来技術と情報科学 ー中京大学ハイテク・リサーチ・センターの取り組みー *○印が講演者	
	10:00-10:15	シンポジウム概要説明 三宅なほみ (中京大)
	10:15-10:45	講演1「顔・顔部品の階層的トラッキング技術開発とアイコンタクト顔メディア創出の研究」 ○興水大和 (中京大), 舟橋琢磨 (中京大), 藤原孝幸 (中京大)
	10:45-11:15	講演2「3次元仮想化空間を用いた知的活動支援システムの開発」 ○長谷川純一 (中京大), 瀧剛志 (中京大), 渡辺恵人 (中京大)
	11:15-11:45	講演3「マルチメディア情報の共有による協調的知的創造活動支援に関する基盤研究」 ○三宅なほみ (中京大), 白水 始 (中京大)
日	11:45-12:00	全体討論「今後の重要テーマを探る」
8	近未来技術と情報科学 ークリエイティブな「ものづくり」を支えるスキルとテクノロジーー	
	13:00-13:05	企画者挨拶 興膳生二郎 (中京大)
	13:05-13:55	講演1「自動車デザイン開発における『ものづくりの想い』実現に向けて」 沖 勝之 (トヨタ自動車)
	13:55-14:25	講演2「知能化する自動車」 浅見 謙 (トヨタテクニカルディベロップメント)
	14:30-15:00	講演3「3次元CADを活用した航空機開発の取り組み」 渡辺光浩 (三菱重工)
	15:00-15:30	講演4「現代ものづくりに生きる「機巧(からくり)」について」 末松良一 (豊田高専)
(金)	15:30-16:00	講演5「ものづくり支援のためのいくつかの試み」 興膳生二郎 (中京大)

イベント企画 講演概要

船井業績賞受賞記念講演：人と社会、そして、コンピュータとネットワーク 9月6日（木）14:00-15:15 [第1イベント会場（4号館1F 411教室）]

[講演概要]

コンピュータはその名前通り、計算する機械として登場し、オペレーティングシステムやその他の基盤のソフトウェアにより、人の知的活動を支援する技術として発展してきた。一方、コンピュータを相互に接続するネットワーク技術は、デジタルデータを交換し共有するための独立した技術として発展を遂げてきた。汎用オペレーティングシステムとネットワークのそれぞれに関する研究開発は1970年代から本格的に広がった。これらは、1980年代にはワークステーションベースの分散システムとしての完全な融合を果たし、1990年代には、インターネットとしてグローバルな情報共有のための分散処理基盤を確立した。今世紀に入り、デジタル情報が光の速度で共有できるグローバルな環境が整いつつある。コンピュータとネットワークを要素とし、世界の市民とグローバルな情報社会の具体的な要求と期待に応える、新しいアーキテクチャへ向けた研究開発の方向性を議論する。



村井 純（慶應義塾常任理事／慶應義塾大学環境情報学部教授）

現任：学校法人慶應義塾常任理事。現職：慶應義塾大学環境情報学部教授。1955年生まれ。1984年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。1987年博士号取得。1984年東京工業大学総合情報処理センター助手。1987年東京大学大型計算機センター助手。1990年慶應義塾大学環境情報学部助教授を経て1997年より教授。1999-2005年慶應義塾大学SFC研究所所長。

1984年JUNETを設立。1988年WIDEプロジェクトを設立し、今日までその代表として指導にあたる。

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター理事長。

著書「インターネット」、「インターネットII」（岩波新書）、「インターネットの不思議、探検隊！」（太郎次郎社エディタス）。監訳「インターネットシステムハンドブック」（株式会社インプレス）、「IPv6:次世代インターネットプロトコル」（プレントイスホール）、「アンワイアード 果てしなきインターネットの未来—4Gへのシナリオ」（株式会社インプレス）他。

船井業績賞受賞記念パネル討論： グローバル情報社会：日本での研究の責任と役割 9月6日（木）15:30-17:30 [第1イベント会場（4号館1F 411教室）]

[討論概要]

インターネットの浸透により、情報に関わる研究活動のグローバル化が進んでいる。こうした背景の元、研究活動そのものだけでなく社会的貢献、経済活動への展開、人材育成といった面での日本の責任と役割を見直さなければならない時期にきている。このパネルでは第一線の研究現場で活躍しているながら、社会・経済活動や人材育成の現場でも幅広く活動しておられる方々を迎えて、日本の果たすべき責任と役割を考える。

特別ゲスト：村井 純（慶應義塾常任理事／慶應義塾大学環境情報学部教授）

写真および略歴は「船井業績賞受賞記念講演：人と社会、そして、コンピュータとネットワーク」を参照



司 会：砂原 秀樹（奈良先端大）

奈良先端科学技術大学院大学情報科学科学研究科。1960年兵庫県生まれ。88年慶應義塾大学理工学部博士課程修了。電気通信大学情報工学科助手。94年奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター助教授を経て、2001年から教授。2005年情報科学研究科教授村井純（慶應義塾大学環境情報学部教授）らとともに、1984年からJUNET、1988年からWIDEプロジェクトを通じて、日本におけるインターネットの構築とその研究に従事。

現在は、自動車や様々なセンサをインターネットに接続して新たな情報通信基盤を構築するプロジェクトを進行中。



パネリスト：後藤 滋樹（早大）

1971年東京大学理学部数学科卒。1973年同大学院修士課程修了。1973年から1996年まで電電公社（NTT）の研究所に勤務。この間に1984～1985年米国スタンフォード大学客員研究員。1991年工学博士（東京大学）。1996年早稲田大学理工学部教授となり現在に至る。国立情報学研究所客員教授。総務省情報通信審議会委員。（社）JPNIC理事長、APAN副議長。情報処理学会フェロー。



パネリスト：下條 真司 (阪大)

1986年3月 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻(後期課程)修了(最終学歴)。同年4月 大阪大学基礎工学部助手。1989年2月 大阪大学大型計算機センター講師。1991年4月 大阪大学大型計算機センター助教授。1998年4月 大阪大学大型計算機センター教授。2000年4月 大阪大学サイバーメディアセンター教授副センター長。2005年8月 大阪大学サイバーメディアセンター教授 センター長。特定非営利活動法人バイオグリッドセンター関西理事長、日本学術会議連携会員。

1995年10月 郵政大臣表彰(大阪大学大型計算機センター)。2001年6月 情報通信月間推進協会会長表彰 志田林三郎賞。2001年7月 日本医用画像工学会 論文賞。2005年11月 大阪科学賞。

情報処理学会(国際担当理事)・電子情報通信学会(正員)・IEEE(Computer Society)(Member)・ACM(Member)・日本学術振興会インターネット技術第163委員会・(Internet Technology Research Committee (ITRC))(委員長)。電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会(専門委員)。



パネリスト：近山 隆 (東大)

1977年東京大学工学部計数工学科卒。1982年同大学院工学系研究科情報工学専門課程博士課程修了。工学博士。同年(株)富士通入社後、(財)新世代コンピュータ技術開発機構に転出、第五世代コンピュータプロジェクトに参加。1995年東京大学工学系研究科助教授。1996年同教授。現在同新領域創成科学研究科基盤情報学専攻教授。プログラミング言語と処理系・開発環境、並列分散処理、機械学習と応用等の研究に従事。



パネリスト：古川 享 (慶大)

1978年2月株式会社アスキー入社。1979年(株)アスキー出版にて、月刊誌アスキーの副編集長。1980年(株)アスキーにてソフトウェア開発部門を創設。1981年(株)アスキー・マイクロソフトにて副社長。1984年(株)アスキー、ソフトウェア開発本部にて、4.2BSD版のUNIXを日本語化。1986年5月マイクロソフト株式会社設立。初代表取締役社長に就任。1991年同社代表取締役会長兼、米国マイクロソフト社極東開発本部長に就任。2000年4月米国マイクロソフト社 コンシューマ戦略担当バイスプレジデントに就任。2002年米国マイクロソフト社 アドバンスド・ストラテジー&ポリシー担当バイスプレジデントに就任。2004年マイクロソフト株式会社 最高技術責任者を兼務。2005年6月マイクロソフトを退社。2006年4月慶應義塾大学デジタルメディアコンテンツ統合研究機構、教授。

アスキー、マイクロソフト株式会社を経て現職。現在、教育の現場で何か新しいことをやりつつ、新規技術、通信・放送に対する私見を展開中。

FIT 学術賞表彰式

9月6日(木) 13:00-13:50 [第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室)]

- ・FIT2006 ヤングリサーチ賞 表彰
- ・FIT2007 論文賞 表彰
- ・FIT2007 船井ベストペーパー賞 表彰
- ・FIT2007 船井業績賞 表彰

ここまで使える数理計画法

9月5日(水) 10:00-12:00 [第1 イベント会場 (4号館 1F 411教室)]

[企画概要]

計算機の急激な性能向上と、それを上回る数理計画法の飛躍的な進歩により、多くの分野において実際に現れる大規模かつ複雑な問題を解くための環境が整いつつある。そこで、本チュートリアルでは、数理計画法の現状と展望を紹介することで、さまざまな分野の研究者の方々に、数理計画法が「使える道具」であることを認識していただき、より一層活用していただくことを目的としている。今回は、(1)数理計画法の適用事例、(2)数理計画法ソフトウェアの現状、(3)数理計画問題へのモデル化の話題を中心としたチュートリアルを予定している。



司 会：梅谷 俊治 (電通大)

1998年大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。2002年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程退学。博士(情報学)。現在、電気通信大学電気通信学部システム工学科助教。

主として、アルゴリズム、組合せ最適化、数理計画法、およびそれらの手法の実実問題への適用に関する研究に従事。

情報処理学会、日本オペレーションズリサーチ学会、スケジューリング学会、INFORMS、MPS各会員。

● [10:00-11:00] 講演 1 「数理計画法を用いた問題解決の事例－南山大学プロジェクト N」

【講演概要】

南山大学では2005年にオペレーションズ・リサーチ（OR）を用いた大学業務の改善プロジェクトを開始した。われわれは、南山大学の頭文字をとって、このプロジェクトを「プロジェクト N」と呼んでいる。

プロジェクト N のメンバーは、OR、統計学を専門とする教員4名と事務職員5名である。

プロジェクト N では、図書館雑誌の見直し、東海地震注意情報発令時の避難計画の策定、インターンシップ報告会のスケジューリング問題、入試監督割当の自動作成問題など、数多くの問題を取り扱い、実際の業務の改善に役立っている。その中でも、実際の問題を数理計画法のモデルとして定式化し、そのモデルの最適解を市販の最適化ソフトウェアによって求める方法は大きな成果をあげている。

この方法によると、オペレーションズ・リサーチや統計学をほとんど知らない事務職員でも、ORの専門家の助言に従って、実際問題を解決することができる。本講演ではその事例を挙げ、さらにこの手法が大学だけでなく、多くの企業でも適用可能であることを紹介する。



鈴木 敦夫（南山大）

東京大学工学部計数工学科卒。同大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了，工学博士。

東京大学工学部計数工学科助手，南山大学経営学部教授などを経て，現在，南山大学数情報学部教授。

専門はオペレーションズ・リサーチ。南山大学でのORを用いた業務改善で，2005年，INFORMS (Institute for Operations Research and the Management Sciences), Franz Edelman Finalist 賞，2007年度日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞受賞。

● [11:00-12:00] 講演 2 「ここまで解ける整数計画」

【講演概要】

近年の計算機パワーの増大により，様々な分野において以前には計算不可能であった大規模な問題が扱えるようになってきている。さらに数理計画の世界では，最適化アルゴリズムそのものがハードウェアの進歩に勝るとも劣らない速度で進化しており，最先端のアルゴリズムを実装した最適化ソルバーの性能は数年前に比べて飛躍的に向上している。

本発表では整数計画問題を取り上げ，モデル化の基本的なテクニックを紹介するとともに，整数計画モデルがうまく解けない場合の基本的な対処方法について述べる。

また，ベンチマークを通して現在の最適化ソルバーの性能を紹介する。

「整数計画を使おうと思うが，どのくらいの規模の問題まで解けるのかが知りたい」，「以前に整数計画問題としてモデル化したが，計算時間がかかりすぎた」という方に，本発表が参考になれば幸いである。



松井 知己（中央大）

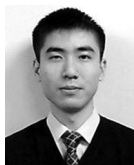
1990年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了。

1990年東京理科大学理工学部助手。

1992年東京大学工学部講師。

2001年東京大学大学院情報理工学系研究科助教授。

2006年中央大学理工学部情報工学科教授。



宮代 隆平（農工大）

2004年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。

2004年東京農工大学共生科学技術研究部助手。

2007年東京農工大学共生科学技術研究院助教。

パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト 9月5日(水) 13:00-15:50 [第1イベント会場(4号館1F 411教室)]

本イベント企画では、「ジグソーパズルを完成させよう!—マッチングによる画像復元—」と題した第11回パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテストの入賞者の発表、表彰式、および受賞者自身によるアルゴリズム発表をおこなう。本コンテストは、パターン認識・メディア理解(PRMU)研究専門委員会が、当該研究分野における若手研究者の育成と研究会活動の活性化を目的として1997年度より、秋の大会併催事業としてを実施している。本事業は、若手研究者およびこれから研究者を目指す学生(主に、高専、学部・大学院生)を主たる対象に、具体的な課題を解決することの楽しさを通じて研究の面白さを体験してもらうことを目指している。募集にあたってはWeb(<http://www.eml.hiroshima-u.ac.jp/alcon2007/>)でサンプルプログラム・画像データを公開してアルゴリズムを実装したプログラムの提出を求め、このプログラムの処理結果や計算時間等を参考に、審査委員会でアルゴリズムの新規性や性能を審査し、優秀なプログラムを選定している。応募対象者が若手研究者や学生であることから、アルゴリズムの完璧さや複雑さよりも、若手研究者や学生ならではの素朴なアイデアを積極的に評価する方針を採っている。



司 会：天野 敏之 (奈良先端大)

2000年大阪大学大学院博士後期課程修了。2000年名古屋工業大学電気情報工学科助手。
2007年奈良先端科学技術大学院大学情報科学科助教。
2006年9月より電子情報通信学会パターン認識・メディア理解専門委員。
距離画像計測応用、固有空間法を用いた画像処理等に従事。
2000年電子情報通信学会学術奨励賞、2006年PRMU主催MIRU2006インタラクティブセッション優秀賞受賞。

● [13:00-13:05] 開会挨拶



馬場口 登 (阪大)

1979年大阪大学工学部通信工学科卒業。1981年同大学院前期課程修了。
1996年-1997年カリフォルニア大学サンディエゴ校文部省在外研究員。
現在、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授。
2007年より電子情報通信学会パターン認識・メディア理解専門委員会委員長。
映像メディア処理に関する研究に従事。PCM2006Best Paper Award, 2006年ISS活動功労賞受賞。

● [13:05-13:15] 課題概要説明, 審査結果発表



玉木 徹 (広島大)

2001年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程後期課程了。
同年、新潟大学工学部情報工学科助手。
2003年同大学院自然科学研究科助手。
2005年広島大学大学院工学研究科情報工学専攻助教授。2007年同准教授。
画像認識、コンピュータビジョンの研究・教育に従事。博士(工学)。

● [13:15-13:20] 入賞者表彰

● [13:20-14:50] 入賞者によるアルゴリズム紹介

● [15:00-15:50] 講演「画像関連問題に対するアルゴリズム工学的アプローチ」

[講演概要]

本講演では、画像に関連する幾つかの問題に対するアルゴリズム工学的なアプローチを紹介する。画像の2値化は最も基本的な問題であるが、これを線形時間の距離変換アルゴリズムと組み合わせると、指紋画像の2値化に効果的であることを示す。また、同じ最適化基準を画像の領域分割に適用できることを示す。さらに、印刷のために多値画像を2値化するデジタルハーフトーニングは様々な様々な最適化問題に関連しているが、それらの計算複雑度について紹介すると共に、制約条件をうまく緩和すると多項式時間で解ける問題があることも示す。



浅野 哲夫 (北陸先端大)

1949年9月生まれ。大阪大学基礎工学部電気工学科を卒業後同大学院の博士課程を修了。
大阪電気通信大学を経て、現在は北陸先端科学技術大学院大学の教授。VLSIのレイアウト設計に関する研究を経て、最近の20年以上は計算幾何学の研究に従事。計算幾何学に関する3国際誌などのエディタを務める。
2001年にACM学会より、2005年には情報処理学会よりフェローの称号を贈られる。

良い論文を書くためには、伝わる日本語文章を書くためには 9月7日(金) 10:00-12:00 [第1イベント会場(4号館1F 411教室)]

【企画概要】

日本語でいかに明快な文章を書くかを基本テーマに、学生から研究指導者に渡る幅広い層を対象に、2件の講演からなる講演会を実施する。前半では、学術論文の書き方について、学生を対象に良い論文を書くための基本指針、指導者を対象にいかにそれを学生に実践させるか、という2つの観点から講演をいただく。後半では、論文からさらに一般の文章を対象を広げて、事実や主張が伝わりやすい一般的な文章の書き方について講演をいただく。それぞれの講演の中で、講演者とフロアの間での質疑の時間を設ける。



司 会：横矢 直和 (奈良先端大)

1974年大阪大学基礎工学部情報工学科卒。1979年同大学大学院基礎工学研究科物理系博士後期課程了。工博。同年通産省電子技術総合研究所入所。1986～1987年マッギル大学客員教授。1993年奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授。1994年より同大学情報科学研究科教授。電子情報通信学会 ISS 副会長・PRMU 研究専門委員長、情報処理学会 CVIM 研究会主査・同論文誌編集委員長、日本 VR 学会理事・複合現実感研究委員会委員長、日本学術会議連携会員等歴任。情報処理学会論文賞受賞(2回)。

● [10:00-11:00] 講演1「良い学術論文を書く・書かせる基本指針」

【講演概要】

研究者にとって学術論文は研究成果を世に還元するための最も重要な手段・媒体であり、文書作成技術はそのための大切な技能である。特に科学技術論文では、通常生活で目にする文書に対しては、その書き方が内容・構成・文体・書法を始めとしてかなり異なる。大学院学生や若手研究者など、初めて書く機会を与えられた者にとっては敷居が高く、科学技術論文特有の不文律のようなものまで存在する。さらに科学技術論文には、読者の目に触れる前に査読というスクリーニング過程があり、問題を更に複雑化している。本講演では、特に大学院学生等の初めて学術論文を「書く立場」の方、および、そのような方を指導する教官・上司など、学術論文を「書かせる立場」の方を対象とする。査読論文として必要な「新規性・有効性・信頼性」を如何に表現するか、という基本問題を含み、良い科学技術論文の書き方、読み手に伝わる文章の書き方、の基本指針について紹介する。



岡田 稔 (早大)

1984年名古屋工業大学工学部電気工学科卒業。1989年名古屋大学大学院工学研究科博士課程情報工学専攻了。工博。日本学術振興会特別研究員、名古屋大学助手・助教授、ミシガン大学客員准教授、中部大学教授を経て、現在、早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授。画像の認識理解、コンピュータグラフィックスの基礎理論と応用に関する研究に従事。IEEE、ACM、Eurographics、電子情報通信学会、情報処理学会等会員。市村賞、情報処理学会研究賞、情報処理学会優秀教育賞、FIT2006論文賞等各受賞。

● [11:00-12:00] 講演2「他人に伝わる日本語文章を書くには」

【講演概要】

講演1では、「良い学術論文を書く・書かせる」ことに焦点が絞られていたが、講演2ではそれを広げて「他人に伝わりやすい文章を書く」技術全般を扱う。ただし、伝える情報は、事実と意見だけで、感情や感動は対象としない。

研究者・技術者・教員・学生であっても、日常的に論文だけでなく、仕事のうえでさまざまな文章を書いているのが普通であろう。この講演では、それらの文章に共通する「書きかた」の技術を論じたい。そのとき、「うまい」文章(名文)をめざすのではなく、「伝わる」文章(明文)をめざす技術を重点的に取りあげる。

伝わる文章を書くには、まず人と人とのコミュニケーションの過程を振り返る必要がある。つまり、「伝わる」とはどういうことかを考える。ついで、伝わりやすい文章の基本として、「トップダウン記述」や「重点先行主義」で書くことを勧める。その後、文章および文書を作成する過程全体を眺めて、各段階でいくつかの技術を提案する。



阿部 圭一 (愛知工大)

1968年名古屋大学大学院博士課程了。工学博士。名古屋大学工学部、静岡大学工学部を経て、1995年静岡大学情報学部教授。1999年まで同学部長。2006年から愛知工業大学経営情報科学部教授。この間、構造的パターン認識および画像処理アルゴリズムの研究に従事。IAPR Fellow、電子情報通信学会フェロー。

現在、日本社会情報学会(JSIS)会長。著書「ソフトウェア入門 第2版」「プログラミング」「明文術 伝わる日本語の書きかた」ほか。

HPC から組み込みシステムまで、カスタムコンピューティングの世界

9月7日（金）13:00-16:00 [第1 イベント会場（4号館1F 411教室）]

【企画概要】

最近、リコンフィギャラブルLSIや超並列細粒度プロセッサなどの新しいデバイスを活用したカスタムコンピューティングが各分野で注目を集めている。例えば、組み込みシステムは家電機器・情報通信機器・工業制御機器・医療機器などの在りとあらゆる分野の電子制御機器の総称であるが、高い付加価値を実現するための専用処理エンジンの開発などが活発に行われている。これら組み込みシステム向けやハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）向けの専用処理エンジンやアクセラレータは規模および性質いづれの面からも非常に多種多様であり、汎用コンピュータ向けプロセッサに比べて独自の世界を生み出している。

本チュートリアルでは、我が国が得意とするデジタル家電向けの組み込みシステムや、宇宙や生化学の分野を対象とするハイパフォーマンスコンピューティングシステムなど、各所で開発されている代表的なカスタムコンピューティング事例について開発者をお招きして解説いただき、新たなデバイス技術を活用することによって新たなステージへ脱皮しようとしているカスタムコンピューティングの最前線を俯瞰する。



司 会：末吉 敏則（熊本大）

1976年九大・工・情報卒。1978年同大学院修士課程了。同年九大・工・助手。同大学院助教授、九工大助教授を経て、1997年熊本大・工・教授。2006年改組により同大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻教授。工博。現在、電子情報通信学会コンピュータシステム研究専門委員会委員長、同リコンフィギャラブルシステム研究専門委員会委員（前委員長）、特定非営利活動法人FPGAコンソーシアム理事長。九大客員教授。電子情報通信学会、情報処理学会、電気学会、IEEE各会員。

● [13:00-13:35] 講演1「理論宇宙物理学でのハイパフォーマンスコンピューティング事例」

【講演概要】

球状星団や銀河、銀河団といった多数の恒星からなる天体の時間進化や構造形成を理解するためには、計算機を用いて数値的にシミュレーションすることが重要であると考えられています。このような天体の様々な現象をより詳しく理解するためには、高性能な計算機システムを用いて精密なシミュレーションを行います。そのためこの分野では非常に高性能な計算機システムを利用してシミュレーションを行うことが一般的になりつつあります。本講演では最近までハイパフォーマンスコンピューティング分野では計算デバイスとしてはほとんど使われなかったFPGA（Field Programmable Gate Array）やGPU（Graphics Processing Unit）が、天体の計算ではじめて実用化されつつある現状についてご紹介したいと思います。



濱田 剛（理研）

1974年北海道生まれ。東京大学在学中からFPGAを用いた多体シミュレーション専用計算機PROGRAPEの開発と効率的なプログラミングモデルの構築に従事。最近ではGPUを用いた多体シミュレーションシステムの開発にも従事。FPGAとGPU（さらにはMany-core CPUも！）のアーキテクチャを意識せずに統一的にソフトウェアを記述可能なプログラミングモデルがいとも簡単に構築できることに気づき、それをコンパイラとして実現することに全精力を注いでいる。

2004年東京大学大学院総合文化研究科博士課程中退。博士（教養）。

● [13:35-14:10] 講演2「ReCSiP: FPGAを用いた生化学シミュレータ」

【講演概要】

近年では、他の理工学分野と同様に生命科学においても、モデリングとシミュレーションが、システムの理解のための重要なツールとして用いられるようになっていく。代表的なものに細胞内の化学反応のモデルが挙げられるが、これはひとつの系にさまざまな微分方程式と多くのパラメータを含んでおり、モデルのパラメータフィッティング等に困難を伴う。ReCSiPはFPGAを用いてこれを高速に実現するためのシステムである。



長名 保範（慶大）

2001年慶應義塾大学理工学部情報工学科卒業、

2003年同大学院理工学研究科前期博士課程修了、

2006年同後期博士課程修了。博士（工学）。

現在、同大学理工学部生命情報学科特別研究助教。

バイオインフォマティクス・計算機システム等の研究に従事。

● [14:10-14:45] 講演3「FPGAの部分再構成を利用したコンテンツ配信システム」

【講演概要】

デバイス全体を停止することなく、特定部分のみを書き換える「部分再構成」の機能を備えたFPGAが市販されている。この機能を利用することで、用途や環境に合わせて回路が切り替わる柔軟なシステムの実現、回路面積や消費電力の削減、不具合や脆弱性の出荷後の修正などが可能になると期待されている。本講演では、FPGAの部分再構成機能の概要や利点について説明し、その応用例として、部分再構成を利用して安全にデジタルコンテンツを配信するシステムを紹介する。このコンテンツ配信システムでは、コンテンツとともに部分回路がダウンロードされ、端末側の回路と結合する。部分回路を書き換えることで、暗号アルゴリズムやエンコード方式の異なるコンテンツも、同じハードウェアで再生することができる。また、部分回路と端末回路が正しく結合されなければコンテンツが再生できない点に着目し、回路のかみ合わせを端末認証に利用している。



堀 洋平 (産総研)

1999年筑波大・第三・工シス卒。2004年同大学院博士課程了。博士(工学)。

同年(独)産業技術総合研究所情報処理研究部門(現、情報技術研究部門)特別研究員。

多目的映像表示装置、コンテンツ保護システムなどの研究開発を行う。

現在、FPGAの部分再構成を利用したりコンフィギュラブルシステム、LSIの耐タンパー性評価に関する研究に従事。

● [14:50-15:25] 講演4「マトリクス型超並列プロセッサMX1とその応用例」

【講演概要】

デジタル家電機器の進展やブロードバンドネットワークの普及にともなう、画像・動画・音声などのマルチメディアデータの容量拡大や、人の顔や道路の白線などの画像を認識し、個体認証や運転制御に活かすような新たなサービスの登場は、マルチメディア信号処理能力の飛躍的な向上を求めている。このようなマルチメディア信号処理をターゲットに、SoCへの組み込みが可能なレベルの面積・低消費電力を実現し、かつ高い演算処理性能とプログラマビリティを兼ね備えたプロセッサ"MX-1"を開発した。MX-1は、マトリクス型の細粒度超並列SIMD構造の新アーキテクチャを採用しており、フィルタリング処理、フーリエ処理、マトリクス演算、ソーティング、イメージ処理等に適している。本講演では、プログラマブルデバイスでありながら小面積かつ高い演算処理エネルギー効率を実現するMX-1について応用例を交えながら紹介する。



水本 勝也 (ルネサステクノロジ)

1990年東海大学工学部電子工学科卒業、1992年同大学院工学研究科博士前期課程修了。

1992年三菱電機(株)入社。EDAツールの研究・開発、シリアル通信インタフェースの開発に従事。

2003年(株)ルネサステクノロジに転籍。

現在、システムソリューション統括本部システムコア技術統括部CPU開発第二部にてMX-1の開発に従事。

● [15:25-16:00] 講演5「カーチューナ向けリコンフィギュラブルアーキテクチャ」

【講演概要】

日本では2003年に地上デジタルテレビ放送が開始され、カーナビの地上デジタルテレビ搭載率は年々高まっている。カーチューナLSIでは、近年、アナログFM/AM放送受信処理のデジタル化に加え、このような新しい放送に柔軟に対応できるようにするために、受信処理のソフトウェア化を進めている。しかしながら、カーチューナLSIに用いられている既存のDSPは、その処理性能の限界によりオーディオ処理などの比較的軽い処理にしか対応できない。そこで、三洋電機では、DSPに代わるカーチューナに適した小型で高性能なプロセッサとしてALUアレイアーキテクチャによるリコンフィギュラブルプロセッサの開発を行っている。本講演では、カーチューナの現状と今後の展望、ならびに三洋電機のカーチューナ向けリコンフィギュラブルプロセッサについて述べる。



小曾根 真 (三洋電機)

2000年神戸大学工学部電気工学科卒業。2002年同大学院修士課程修了。同年三洋電機株式会社入社。

以来、同社研究開発本部デジタルシステム研究所にてリコンフィギュラブルプロセッサの研究開発に従事。

現在、同研究所主任研究員。

2006年度電子情報通信学会ソフトウェア無線研究会研究論文賞受賞。

電子情報通信学会会員。

情報爆発時代のデータベース ーセンサネットワーク技術がもたらすデータベース技術の新展開と応用ー

本イベント協賛：文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発 IT 基盤」
9月5日（水）10:00-12:00 [第2 イベント会場（21号館1F 2112教室）]

【企画概要】

センサ機器の普及やセンサネットワーク技術の発展、ユビキタスコンピューティングの拡がりを受けて、ここ数年、データベースの研究分野では、センサネットワーク環境におけるデータベース技術の開発が盛んに進められている。本企画では、センサ機器・センサネットワーク技術の現状を踏まえて、今後のセンサデータベースの研究・開発における課題、および、新たな応用の可能性などについて2件の講演と講演内容を起点としたパネルを開催する。



司 会：石川 佳治（名大）

筑波大学博士課程工学研究科単位取得退学。

筑波大学博士（工学）。

奈良先端科学技術大学院大学助手、筑波大学講師・助教授を経て、現在名古屋大学情報連携基盤センター教授。データベース、情報検索、ウェブ情報システムなどに興味を持つ。

● [10:00-10:30] 講演1「センサネットワークの技術動向」

【講演概要】

センサネットワークは10年に満たない若い研究分野である。無線、ネットワーク、ヒューマン・インタフェースから半導体技術まで幅広い研究分野から注目される技術である。既に製品として顧客サイトで運用が始まっている例もあるが、「センサネットワーク」という新しい市場があるわけもなく、マーケットとしては手探りも続いている。

本講演では、企業の立場からセンサネットワークに対する期待と最新の技術に関してまとめ、今後の展開などについて、事例なども含めて紹介する。



鈴木 敬（日立）

1984年早稲田大学理工学部電子通信学科卒、1989年同理工学研究科博士課程修了。同年（株）日立製作所入社。中央研究所にてLSIの設計自動化の研究に従事。カリフォルニア大学パークレー校客員研究員（1994）。

LSI設計再利用、HW/SW協調設計技術の研究、マイクロプロセッサの開発等に従事した後、2002年よりセンサネットワークの研究に従事。

現在、中央研究所センサネットワーク戦略プロジェクト、プロジェクトリーダー。

● [10:30-11:00] 講演2「センサデータベースとは：基本概念と研究動向」

【講演概要】

ここ数年、センサデータベースに関する研究が非常に盛んとなっている。本講演では、センサデータベースの基本概念、基礎となる技術、研究の動向などについて解説を行う。また、大規模センサ情報処理における技術的課題などについても述べる。



川島 英之（筑波大）

慶應義塾大学大学院開放環境科学修了。博士（工学）。

慶大助手を経て、現在は筑波大学大学院システム情報工学科講師。

専門はセンサネットワークとデータベースシステム。

2006年度IPA未踏ソフトウェア創造事業採択者。

● [11:00-12:00] パネル討論「情報爆発時代のセンサデータベース：技術的課題と今後の展開」

【討論概要】

このパネルでは、先の2つの講演内容を踏まえて、センサネットワークに関する研究開発に携わる企業の研究者とセンサデータベースの大学の研究者に、それぞれの立場からの討論をお願いする。特に、情報爆発時代の大量センサデータ処理、センサデータベース技術開発の方向性について、多方面から議論を行う予定である。

司 会：石川 佳治（名大）

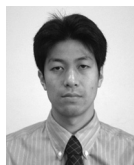
写真および略歴は「情報爆発時代のデータベースーセンサネットワーク技術がもたらすデータベース技術の新展開と応用ー」司会紹介を参照。

パネリスト：川島 英之（筑波大）

写真および略歴は「講演2：センサデータベースとは：基本概念と研究動向」を参照。

パネリスト：鈴木 敬（日立）

写真および略歴は「講演1：センサネットワークの技術動向」を参照。

**パネリスト：原 隆浩（阪大）**

1995年大阪大学工学部情報システム工学科卒業。1997年同大学院工学研究科博士前期課程修了。同年、同大学院工学研究科情報システム工学専攻助手、2004年より同大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻准教授となり、現在に至る。工学博士。2000年電気通信普及財団テレコムシステム技術賞受賞。2003年情報処理学会研究開発奨励賞受賞。データベースシステム、モバイルコンピューティングに興味を持つ。

IEEE, ACM, 電子情報通信学会, 情報処理学会, 日本データベース学会の各会員。

**パネリスト：福永 茂（沖電気）**

1991年3月大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻修了。1991年4月沖電気工業（株）入社、関西総合研究所（現ユビキタスシステムラボラトリ）配属。以来、2000年までは、動画像符号化、エラー耐性の技術開発に従事し、その間、MPEG会合でエラー耐性主観テスト議長や、VM文書メインエディタを歴任するなど、MPEG-4の標準化に貢献。2001年以降、センサネットワーク、アドホックネットワーク、セキュリティ、自律分散、位置推定などの技術開発に従事。2007年からセンサネットワークベンチャーユニットにて、ZigBee関連機器の開発に従事。IEEE802.15.4dタスクグループのVice Chair & Secretaryを務めるなど、ZigBee、IEEE802の標準化にも貢献。電子情報通信学会、IEEE各会員。

知財戦略を俯瞰するー技術経営から支援技術、知の構造化までー

本イベント共催：社団法人 日本知財学会

9月5日（水）13:00-17:30 [第2イベント会場（21号館1F 2112教室）]

【企画概要】

グローバルな経済活動の進展に伴い、知的財産の重要性が一層高まっている中で、我が国では、知財戦略が国家戦略の一つとして推進されてきている。研究者・技術者にとって、知財、特に特許を意識せずには仕事ができない、また、経営戦略の一環として、知財は極めて重要な位置を占めている。知財戦略には、国家としての推進戦略、企業あるいは大学における戦略、創造・保護・活用サイクルに応じた施策、標準化戦略との関係、知財人材の育成、そして、これらの戦略・施策を円滑に遂行するための支援技術等、様々な視点がある。さらに、財となる「知」そのものに関する議論も、イノベーション創出に向けた重要な視点の一つである。本シンポジウムでは、これらの知財戦略に関連する視点の全てをカバーするテーマを設定し、知財の中でも特に、情報科学技術分野の特許を中心に、各テーマの最前線で活躍されている方々による講演を行う。これらの講演を通して、参加される方々がご自身で考えられ、議論されることにより、今後の研究開発や技術経営等の活動に役立てて頂ければ幸いである。

**司 会：山下 博之（JST）**

1981年京都大学大学院修士課程（情報工学専攻）修了。同年、日本電信電話公社（現NTT）入社。

以後、研究所において、高機能通信プロトコル、分散協調処理、著作権管理、コンテンツ流通等に関する研究開発・標準化活動に従事。

2003年10月に（株）NTTデータに転籍。2004年1月より科学技術振興調整費プログラムオフィサーとして（独）科学技術振興機構に向向中。IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

● [13:00-13:40] 講演1「知的財産推進計画2007の概要」

【講演概要】

2003年に知財の国家戦略である知的財産推進計画が初めて策定されて以来、我が国の知財戦略は5年目を迎えました。この間、経済成長におけるイノベーションの役割の増大、コンテンツの文化的・経済的価値の高まりなど、我が国を取り巻く環境は大きく変化してきています。

5月31日に知的財産戦略本部において「知的財産推進計画2007」が決定されました。知財戦略の推進によるこれまでの成果をご紹介しますとともに、イノベーションの促進、知財の保護、中小企業・地域経済への支援、コンテンツ大国の実現などの観点から、最近の取組や今後の課題等について説明します。

**山本 雅史（内閣官房知的財産戦略推進事務局）**

1981年3月東京大学法学部卒業。同年4月通商産業省入省。1991年4月在メキシコ日本国大使館一等書記官。

1995年5月特許庁総務部総務課工業所有権制度改正審議室長。

1998年6月資源エネルギー庁石油部流通課液化石油ガス企画官。1999年8月内閣法制局第四部参事官。

2004年6月経済産業省中小企業庁事業環境部企画課長。2006年7月特許庁総務部総務課長。

2007年7月内閣官房知的財産戦略推進事務局参事官（現職）

● [13:40-14:20] 講演2「企業の知財戦略と標準化戦略」

【講演概要】

本講においては、近時における社会のイノベーション促進の観点による知的財産戦略の展望の変化（Proprietary 戦略から Open 戦略へ）を概観したのち、かかるイノベーション促進の観点から IBM において実施されている知的財産戦略（オープン・スタンダードへのサポートならびに特許品質の維持活動など）について解説する。また近年において知的財産戦略における重要な課題となっている標準化に関連する活動に係わる知的財産の管理について概観ののち、標準化関連活動における懸案（RAND 条件によりライセンスの表明と事後のライセンス拒絶など）に関するわが国における近時の動向（経済産業省ならびに公正取引委員会による対応など）について解説する。



名取 勝也（日本 IBM）

1982年慶應義塾大学経済学部卒業。1983年司法試験合格。1986年弁護士登録（第二東京弁護士会）榊田江尻（現あさひ）法律事務所入所。1990年ワシントン大学ロー・スクール（シアトル）卒業、法学修士号（LL.M.）取得。1990年～1991年 Davis Wright Tremaine 法律事務所（シアトル）勤務。1992年～1993年 Wilmer, Cutler & Pickering 法律事務所（ワシントン DC）勤務（part-time）。1993年ジョージタウン大学ビジネス・スクール卒業。経営学修士号（M.B.A.）取得。1993年～1994年 エッソ石油株式会社法務部弁護士。1995年～1997年アップルコンピュータ株式会社法務・渉外本部長。1997年～2002年サン・マイクロシステムズ株式会社取締役法務本部長。2002年～2003年株式会社ファーストリテイリング執行役員法務部長、店舗開発部長、社会環境室長。2004年1月日本 IBM 理事法務・知的財産担当に就任。2004年3月執行役員法務・知的財産担当。2005年4月取締役執行役員法務・知的財産担当。

● [14:20-15:00] 講演3「IT分野における大学知財戦略」

【講演概要】

大学では多岐に亘る先端的研究が行われているが、果たしてIT分野における大学の知的財産、たとえば大学で創作されたIT関連発明とその特許権、コンピュータープログラム等のソフトウェアなどはどのような価値があり、どのように活用すべきか、この問題を論じるために、大学等技術移転促進法や知的財産基本法を始めとする近年の産学官連携と知的財産施策、および大学の現状の主要ポイントを簡単に紹介し、次に日米大学における最近の主要発明、特許とライセンス実績、大学発ベンチャー、主要企業の研究開発費と特許出願数、ライセンス収入、最近の大きな知的財産紛争事件等について、統計と具体的事例を示す。その上で今後IT分野における産学官連携、技術移転、知的財産活用の方角について、電気通信大学知的財産本部の活動の紹介も含めて意見を述べたい。



堀 建二（電通大）

1961年東京大学工学部電気工学科卒業。1965年スタンフォード大学工学部電気工学科修士課程修了。1961年ソニー株式会社入社。総合研究所副所長兼映像技術研究所長、知的財産権本部長、ソニー米国研究所長、1991年取締役、1997年執行役員常務。2003年電気通信大学知的財産本部副本部長。日本弁理士会外部意見聴取会委員、同知的財産政策諮問会議委員。ソニー教育財団子ども科学教育プログラム審査委員。

● [15:10-15:50] 講演4「特許の権利化を戦略的に行うために」

【講演概要】

日本は世界有数の特許大国であるにも関わらず、現状においては、登録されている特許のうち半数近くの特許が未活用という状況を招いている。この原因の一つとして、多くの企業において、特許戦略あるいは特許活用という観点を考慮して、特許の権利化を行っていないのではないか、という点が考えられる。本講演では、このような特許の権利化を戦略的に行うための具体的な方策として、特許戦略実現のための発明評価の重要性について述べる。さらに特許戦略とリンクさせて発明評価どのように行うべきかという点について、ポイントとなる点を指摘し、その具体的な評価手法等について説明する。



加藤 浩一郎（金沢工大）

上智大学大学院修了。日本アイ・ピー・エム（株）システム部門においてシステムエンジニア、知的財産部門において主任弁理士、課長、社外活動として日本知的財産協会ソフトウェア委員会委員等を経て、2004年より金沢工業大学大学院工学研究科知的創造システム専攻（東京・虎ノ門キャンパス）教授。著書：「ソフトウェア知的財産－法律から実務まで－」（発明協会）、「知的財産戦略&管理ハンドブック」（発明協会）他。

● [15:50-16:20] 講演5「特許工学とその支援技術」

[講演概要]

発明の着想から特許の権利化、消滅までに至る特許ライフサイクルを工学的に支援する「特許工学」について説明する。特許工学は、特許ライフサイクルの各フェーズを分析して得られた「方法論」、方法論の支援を行う「ツール」、および方法論とツールの普及のための「教育」の三点を研究領域とする。

また、ソフトウェア工学やデータベースや自然言語処理技術などの情報技術を、特許ライフサイクルに適用し、特許活動を支援する特許工学支援ツールの事例について述べる。特許工学支援ツールとして、特許明細書を半自動生成する「特許明細書半自動生成ツール」、一般的に読みにくいとされる特許明細書を読みやすくする「特許読解支援ツール」、特許明細書の品質を推定する「特許明細書品質評価ツール」、特許価値を自動算定する「特許価値評価ツール」などについて詳細に説明する。さらに、複数のツールを連携した統合特許工学支援ツールについても言及する。



谷川 英和 (IRD 国際特許事務所)

IRD 国際特許事務所 所長・弁理士博士 (情報学)。

1986年松下電器産業株式会社入社、情報通信技術の研究開発に従事。1996年同社知的財産権部門転属。

1999年弁理士試験合格。2002年IRD 国際特許事務所設立。

2003年4月～2007年3月京都大学情報学研究科 COE 研究員。

2003年に「特許工学」を提唱。2007年3月京都大学から博士号 (情報学) を授与。

2007年4月～京都大学非常勤講師。

● [16:20-16:50] 講演6「特許活用を支援する特許文書解析技術」

[講演概要]

特許権の取得やビジネスでの利用といった特許活用において、様々な場面で特許調査が必要になる。特許調査は、特許文書の検索や分類、発明内容の傾向分析など、高いスキルと長大な時間を要する作業である。そのため、特許活用を効率化するために、特許調査を容易にする機能の実現が重要になる。

本講演では、特許文書の複雑なテキストを高精度に解析する特許文書解析技術と、それを適用した特許調査支援機能を紹介する。



小西 一也 (NTT データ)

1995年茨城大学工学部情報工学科卒業。

1997年同大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了。

同年、NTT データ通信株式会社入社。2000年日本電信電話株式会社 NTT サイバースペース研究所。

2003年より株式会社 NTT データ技術開発本部所属。

特許文書解析技術の開発に従事。

● [16:50-17:30] 講演7「知の構造化と知財戦略」

[講演概要]

情報化時代は情報爆発の時代でもある。学術研究分野では研究の深化で縦割り構造の中に膨大な情報が発信され蓄積されている。知の爆発は知識の総量の増加という正の側面と同時に、研究者が細分化する専門分野の中で自己の研究のごく周辺部の知識すら十分に把握できず、周辺分野あるいは異分野の知の進展を取り込んだイノベーションの機会を潜在的に失っているという負の側面を持つ。また、学術研究成果は環境や医療といった課題解決の知恵として社会に還元されなければならないが、縦割り構造の中で爆発する知識はその期待に応えにくい。「知の構造化」の研究は学術知識を俯瞰的に認識する必要性から推進されておりその手法は、課題解決の現場への寄与のみならず知財の活用という知財戦略にも有効である。本講演では現在東京大学で推進されている、「知の構造化」プロジェクトから学術知識俯瞰マップの研究手法と例を紹介し、その応用について論ずる。



松島 克守 (東大)

航空機エンジンの生産技術者を経て、東京大学で生産システムの知能化の研究に従事。

西ドイツ・フンボルト財団の奨学研究員としてベルリン工大で研究に従事。

その後、日本IBMでマーケティングの責任者を経験し、ブライズウォーターハウス経営コンサルタント部門 (現IBM ビジネスコンサルティング) の日本法人の常務取締役。99年8月より東京大学工学系研究科教授。

研究活動として、知の構造化、地域クラスター形成論、企業価値の実証研究を行っている。

教育・情報システム論文執筆ワークショップ

9月6日(木) 10:00-12:00, 15:30-17:30 [第2イベント会場 (21号館 1F 2112教室)]

[企画概要]

教育システムや情報システムの分野では、開発したシステムや事例研究を論文としてまとめるとき、論文の構成や評価の書き方について悩むことが多い。また、研究発表会で好評であった論文を、ジャーナル論文として投稿したが不採録となったというケースが少なくない。本チュートリアルでは、教育・情報システムに関する実務面での実績のある人、これから教育・情報システム関連の研究をしようとする人を対象に、論文の書き方について考える。チュートリアルでは、論文の基本事項を確認し、ジャーナル論文と研究発表会の予稿集論文との違いについて説明し、事例研究を論文にする方法や評価・考察の仕方、実務データを抽象化する工夫などについて、講師とともに考えていく。



司 会：富澤 眞樹 (前橋工科大)

1987年東京農工大学工学部数理工学専攻卒業。

1994年同大学院工学研究科電子情報工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。

1994年同大助手。1997年前橋工科大学工学部情報工学科講師。

2006年同大工学部生命情報工学科講師(学科改編名称変更)。情報処理学会会員。

2006年度から情報処理学会情報システムと社会環境研究会幹事。

● [10:00-10:25] 講演1「論文執筆に関する基本事項」

[講演概要]

「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内をもとに、論文作成についての基本的な内容について説明する。これらは、発行の目的、掲載記事の種類、投稿手続き、投稿原稿の取扱い、論文投稿形式などである。特に投稿原稿の取扱いにおける、新規性や有効性などの不備のために不採録となる場合についての説明を行う。さらに、情報システム論文は、社会や企業の業務についての膨大な「文脈」を抜きにしてはシステムや研究の価値説明できないという、特徴を持っている。そのため、この分野の新規性、有効性、信頼性についての評価は難しい。

このような情報システム論文の特徴と評価基準について解説する。



辻 秀一 (東海大)

1969年大阪大学基礎工学部電気工学科卒業。1974年同大学院基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。

1974年～2000年、三菱電機(株)に勤務。

この間、研究所および開発部門にて、ヒューマンインタフェースや人工知能システムなどの研究開発に従事。

1997年～2000年、電子商取引実証推進協議会へ出向。2000年4月より東海大学に勤務。

現在、情報理工学部情報メディア学科教授。

● [10:25-11:00] 講演2「IS特集号の総括」



金田 重郎 (同志社大)

1974年3月京都大学工学部電気第二学科卒業。1976年3月京都大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了。

1976年4月日本電信電話公社・武蔵野電気通信研究所・入所。1974年11月工学博士(京都大学)。1997年4月

同志社大学大学院総合政策科学研究科教授・同工学部教授。現在に至る。

電電公社仕様の大型汎用電子計算機(DIPS-11)主記憶装置の実用化、並びに、主記憶用誤り検出訂正符号の研究に従事した後、音声認識技術の通信サービス適用法の研究を行う。更に、NTT情報通信処理研究所(現情報通信研究所)にてエキスパートシステムの研究・実用化を行った後、知識獲得容易化のために、機械学習の研究を開始した。現在では、決定木学習を中心とする機械学習手法の実問題への適用に興味を持っている。また、エキスパートシステム開発の経験から、現状の手続き/ルールによるシステム構築法に強い疑問を抱き、制約指向プログラミングによるオフィスシステムの実現に興味を持っている。

● [11:00-11:30] 講演3「教育特集号の総括」

【講演概要】

教育の評価は人間の一生に匹敵する長い時間を要します。人間の学習能力には個人差が大きく影響します。教育の実施には外からのノイズが避けられません。しかし、それらを克服して普遍的結論を導くために、教育の理論があります。

従来、「情報」教育は論文が書きにくい分野であると言われてきました。これには、査読基準が分かりにくいということが大きいと思います。論文誌の採録の要件として、しばしば、新規性・有効性・信頼性が挙げられますが、より本質的には、読者に有益でなければなりません。

講演では、情報処理学会論文誌の本年8月号で組んだ教育特集を振り返りながら、「情報」教育の論文が読者に有益であるためには、新規性・有効性・信頼性をどのように主張することが望まれるかを述べたいと思います。さらに、論文は研究が終ってから書くのではなく、研究を始めるときに執筆計画も並行して進めることを勧めたいと思います。



中森 眞理雄（農工大）

1977年東大大学院（工・計数）修了。工学博士。同年東京農工大学工学部数理情報工学科講師。現在同大学工学府情報工学専攻教授。研究テーマはアルゴリズム論・数理計画法とそれらの応用。

情報処理学会のモデルカリキュラム J90 の策定で中心的役割を果たした。

同学会 MPS 研主査（1995-1999）、CE 研主査（2006-）。

日本オペレーションズ・リサーチ学会理事（1997-1999、2005-2007）・フェロー。

● [11:30-12:00] 講演4「論文作成の課題、そして質疑応答」

【講演概要】

情報システムや教育システムの研究は社会や組織の活動と深く関わるために、人を巻き込むテーマが多い。このため、この分野の研究は技術の枠を越えて社会的な関心を強く反映したものとなる。人や環境に依存する度合いが大きいだけに、他者の追試や客観的な評価・考察が困難になり、主観的な主張に過ぎないと評価されることも少なくない。実務データをどのように抽象化するのかが課題となる。基礎理論より技術応用的な研究が多いことも事例報告論文の増加に繋がっている。事例研究であっても、実践記録だけでなく読者にとって有用でしかも信頼性を検証できる内容を確保することが必要となる。このような実践フィールドを対象とした研究を論文化する場合の新規性、有用性、信頼性を高めることがこの分野の大きな課題である。そこで、これまでの特集号の編集を通して得られた知見をもとに、論文作成における問題点を整理して、如何に解決するかを考えることにしたい。



神沼 靖子（無所属）

1961年東京理科大学理学部数学科卒。

日本鋼管、横浜国大、埼玉大、帝京技科大を経て、2003年前橋工科大を定年退職。博士（学術）。

情報処理学会ジャーナルの情報システムや教育に関する特集号の編集に関わる。

主な著書：「問題形成と問題解決（共著、共立、2005）」、「情報システム演習II（共立、2006）」、「情報システム基礎（共著、オーム社、2006）」など。情報処理学会フェロー、情報システム学会、AIS、ACM ほか会員。

● [15:30-16:30] 論文作成の課題、そして査読とは

*当日配布資料をもとに実習

● [16:30-17:30] 質疑応答

大学の理系学部等における障害のある学生の支援

9月7日(金) 10:00-12:00 [第2 イベント会場 (21号館1F 2112教室)]

【企画概要】

統合教育の進展に伴い、障害のある学生が一般の大学に進学する機会も増えている。しかしながら、障害のある学生の受け入れのために、大学として支援体制を整えているところはまだ少ない。また、理系の学部においては、実験があったり、数学・情報処理・化学のように専門的用語・記号を使う教科書が多かったりと、受け入れには文系学部とは異なる課題がある。このシンポジウムでは、障害のある学生を指導した経験のある理系の先生方から、受け入れの経緯や支援策などを語って頂くとともに、日本学生支援機構からは障害学生修学支援ネットワーク事業を紹介して頂く。これらの経験談・情報を通じて、理系学部の教員の方々に、障害のある学生の受け入れに関する知識を深めて頂く。



司 会：渡辺 哲也（国立特別支援教育総研）

1993年北海道大学大学院工学研究科修了。同年水産庁水産工学研究所研究員、1994年障害者職業総合センター研究員、2001年国立特殊教育総合研究所研究員、2005年主任研究官、2007年国立特別支援教育総合研究所主任研究員。この間2004年3月～8月米国ウィスコンシン大学工学部客員研究員。

音声・触覚情報を用いた視覚障害補償技術の研究開発、障害のある学生の教育的支援などに従事。電子情報通信学会、日本音響学会等各会員。博士（工学）。

● [10:00-10:05] 企画の趣旨説明

渡辺 哲也（国立特別支援教育総研）

写真・略歴は「大学の理系学部等における障害のある学生の支援」司会紹介を参照。

● [10:05-10:25] 講演1「視覚障害のある学生の受け入れについて」

【講演概要】

講演者自身が九州大学数学科及び大学院数理学研究科で視覚障害学生を受け入れたときの経験と国際基督教大学で物理学科に視覚障害学生を受け入れたときとそれ以後の取り組みについて同大学の吉野輝雄教授から伺ったお話などを踏まえて、理系分野で視覚障害学生を大学で受け入れるときの課題について、人的な側面と技術的な側面、予算的な問題などを含めて話をする予定である。



鈴木 昌和（九大）

京大物理学部数学科、フランス政府給費留学生フランス CNRS 研究員、九州大学工学部講師、同助教授、同大学数理学研究科教授。現在は数理学研究院教授。

10年余り前に視覚障害学生を受け入れたことがきっかけで、科学的情報をコンピュータ処理する技術の研究を開始、共同研究グループ InfyProject を組織、2005年に理系分野の視覚障害者を支援する NPO 法人「サイエンス・アクセシビリティ・ネット」を設立、同代表理事。

● [10:25-10:45] 講演2「聴覚障害のある学生の受け入れについて」

【講演概要】

過去に聴覚障害のある学生を2名ほど受け入れた経験から、その支援について述べる。1名は大学入学から修士課程まで6年間、もう1名は社会人入学で博士課程4年間(1年休学)の在籍であった。大学のサポート体制としては、講義における情報保障としてノートイクや手話ボランティアの仲介等があった。教員にも協力を呼びかけ、黒板を向いて話さない、口はハッキリと動かして話すなどを徹底していただく他、場合によっては補聴器用の FM ワイヤレスマイクの使用をお願いすることもあった。専門の講義では数式が多く登場することもあり、特に大学院になるとボランティアは理系学生が中心となった。

また研究室の中では、メンバーによるサポート(PC要約筆記を含む)が自然な形で行われ、チームワークにより国際会議を含む学会発表なども問題なく対応できた。研究室のメンバーの「伝えたい」「分かりたい」という気持ちから、バリアフリーな環境が自然に築かれた。



荒井 隆行（上智大）

1989年上智大学理工学部卒業、1994年同大学院理工学研究科電気・電子工学専攻(博士後期課程)修了。同年上智大学助手。1992～1993年および1995～1996年米国 Oregon Graduate Institute of Science and Technology 客員研究員。1997～1998年米国 California 大学 Berkeley 校付属研究機関 International Computer Science Institute 客員研究員。2004～2005年米国 Massachusetts Institute of Technology 客員研究員。1998年上智大学専任講師、現在同大学教授。博士(工学)。音声コミュニケーションに関する研究に従事。IEEE、電子情報通信学会、アメリカ音響学会、日本音響学会等各会員。

● [10:45-11:05] 講演3「肢体不自由のある学生の受け入れについて」

【講演概要】

肢体不自由のある学生2名を学部卒業研究（O.M君）と、大学院博士前期課程（N.M君）で指導した経験から、肢体不自由のある学生の大学での受け入れの課題などについて述べる。受け入れた学生2名は、ともに進行性筋ジストロフィーの傷病を持っており、車いすを利用していた。また、自立的移動は不可能であらゆる場面で支援者を必要としていた。2人には身体機能上の違いがあったが、研究室内ではさほど大きな差異はなかったと考えている。また、研究室で過ごした他の学生も、対応を特別なものとは考えていなかったと思っている。

ここでは、当事者間の個人的な関係、周囲の小さな組織との関係、および大学という大きな組織との関係に分類して課題を整理し、説明する。これらの課題には、単純な物理的な環境課題だけではなく、一緒に生活するという行為に対する人的な関係におけるバリエーションなども含まれる。



鎌田 一雄（宇都宮大）

1971年山梨大学大学院工学研究科修士課程修了。

東京工業大学助手を経て宇都宮大学工学部情報工学科に勤務。現在同学科教授。

ヒューマンコミュニケーション、障害がある人たちのコミュニケーション支援などの領域に関連する研究に従事。工学博士。

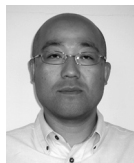
● [11:05-11:25] 講演4「発達障害のある学生の受け入れについて」

【講演概要】

本講演は、担任として発達障害のある学生A君と関わった私の体験談と現在行われているA君に対する支援とその効果について報告する。

A君は少し変わっているが理工系の学校ではよくいるタイプの学生である。ただ、実験レポートなどの文を書くことが非常に苦手であった。そのため、レポートの提出が滞ってしまうこと、またそのことを周りから注意されることで自尊心が傷つけられ、ストレスが増幅し、その結果、パニックを起こすようになった。原因の一つがレポートにあったので、彼に適切な学生に学習支援をお願いし、レポートが書きやすい環境を整えるなどの対応をとった。結果として一度留年はしたが、現在では以前のようなパニックを起こすことはなくなった。

発達障害のある学生を理解できれば対応策は案外簡単なのかも知れない。しかし、本人の意思を尊重しつつ、保護者や教員、クラスメイトを含めた周りの共通理解を得ることが難関の一つであるように思う。



堂平 良一（佐世保高専）

1996年3月筑波大学大学院数学研究科単位取得満期退学。1996年4月佐世保工業高等専門学校講師（一般科目数学）。1997年～1998年学生主事補。1999年4月佐世保工業高等専門学校助教授（一般科目数学）。1999年機械工学科2年担任。2000年物質工学科1年担任。2001年電子制御工学科3年担任。2002年～2003年業務主事補。2004年電気工学科2年担任。2005年電子制御工学科2年担任。2006年機械工学科1年担任。2007年4月佐世保工業高等専門学校准教授（一般科目数学）。2007年電子制御工学科1年担任。

● [11:25-11:40] 講演5「高等教育機関における障害学生の実態と障害学生修学支援ネットワーク事業等について」

【講演概要】

2006年5月1日現在で日本学生支援機構が調査した「大学・短期大学・高等専門学校における障害学生の修学支援に関する実態調査」の結果によれば、1人以上の障害のある学生が在籍している学校は約6割あり、そのうち障害のある学生が学校に対し支援を申し出て、なおかつ学校が支援を行っているという学校は約4割あることが明らかとなった。こうした背景については、今後調査が必要であるものの、高等教育機関における障害学生の受け入れ体制は、先進的な取り組みを進めている大学がある一方で、全体としては十分な体制が整備されているとは言い難い状況にある。

そのため、日本学生支援機構としては、各大学等のネットワークを構築し、障害のある学生の修学支援体制を整備するため、研修、相談事業、研究促進の3本柱として「障害学生修学支援ネットワーク事業」を実施しているところである。とりわけ、全国を11地域ブロックに分けて、先進的な取り組みを行っている大学を「拠点校」として、全国の大学等で、障害のある学生の修学支援を担当している職員等からの相談に応じる「相談事業」を昨年10月から開始したところである。

こうした取り組み等を通じ、各大学等における障害学生の受け入れの促進に取り組んでまいりたい。



谷川 敦（日本学生支援機構）

1967年6月生（北海道出身）。1986年4月北見工業大学。1996年8月文部科学省大臣官房福利課。

1997年7月同政策課。1998年7月同教育助成局地方課。1998年10月同調査係主任。1999年10月同専門職員。

2000年4月同調査係長。2001年1月同初等中等教育局初等中等教育企画課調査係長。

2007年4月独立行政法人日本学生支援機構学生生活部特別支援課長。

現在に至る。

● [11:40-12:00] 全体質疑応答

eポートフォリオによる新たな教育・学習環境の構築と実践

9月7日(金) 13:00-16:00 [第2イベント会場 (21号館1F 2112教室)]

【企画概要】

北米の大学では、1998年頃から始まったコース管理システム (Course Management System, CMS) の普及が一段落ついた2004年頃からeポートフォリオの導入が活発化しつつある。CMSが、「講義」を軸にした一連の教育学習支援を行うためのシステムであるのに対して、eポートフォリオは、課題レポートなどの学習成果物や試験の答案など、学習過程において学生が生成した「学習記録」を保存し、学習指導や就職活動等において利用するためのシステムとして北米では導入がはじまっている。本企画では、古くから研究が行われているポートフォリオについての講演ならびに、最新のeポートフォリオおよびそのプラットフォームに関する講演を通じ、eポートフォリオの今後の展開について議論を深めることを目的とする。



司 会：梶田 将司 (名大)

1990年名古屋大学工学部情報工学科卒業。1995年同大学院工学研究科情報工学専攻博士課程満了、博士(工学)。2002年名古屋大学情報連携基盤センター助教授、2003年株式会社エミットジャパン代表取締役兼業、2006年情報連携統括本部情報戦略室兼務、現在に至る。大学における教育・研究活動でのIT活用に関する研究開発に従事。1998年日本音響学会第15回粟屋潔学術奨励賞、2001年電子情報通信学会第56回論論文賞、情報処理学会、電子情報通信学会、日本音響学会、日本教育工学会、IEEE、ACM各会員。

● [13:00-13:10] イントロダクション

● [13:10-13:50] 講演1 「児童・生徒のポートフォリオ学習からティーチング・ポートフォリオまで —システム開発・実践事例・普及—」

【講演概要】

学校教育用スタディシリーズは、CAIシステムとしてのインタラクティブ・スタディ (開発担当：東原義訓) とグループウェアとしてのスタディノート (開発担当：余田義彦) から構成される。スタディノートは、国語、体育、英語などの教科で、児童・生徒のためのマルチメディア・ポートフォリオ・システムとして活用され、インタラクティブ・スタディは、大学生・現職教員のポートフォリオ・システムとして拡張されてきた。これを基礎に、本格的なティーチング・ポートフォリオ・システムのために、米国の教師教育で利用されているTaskStreamやLiveTextなども参考しながら、プロトタイプを開発して、教育実習や現職教員研修で実践を重ねてきた。本システムは、教員としての資質能力スタンダードベースで、マルチメディアを活用した資質能力エビデンスの蓄積・参照機能、相互評価機能に特徴を有する。ティーチング・ポートフォリオ・システムの概要、実践事例、成果、今後の開発計画等について述べる。



東原 義訓 (信州大)

1978年筑波大学第一学群自然科学類物理学専攻卒業。1980年同大学大学院修士課程教育学研究科教科教育専攻修士(教育学修士)。1981年筑波大学電子・情報工学系助手 (学術情報処理センター)。1995年信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター助教授。2001年同附属教育実践総合センター教授。2007年同センター長。日本科学教育学会理事。日本教育工学会理事。1978年より学校教育用システム「スタディシリーズ」の開発に従事。



谷塚 光典 (信州大)

1970年埼玉県生まれ。1993年埼玉大学教育学部卒業。1998年筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。筑波大学準研究員、同助手、信州大学教育学部附属教育実践総合センター講師、同助教授を経て、現在、同准教授。この間2003年7月より2004年4月までイリノイ大学シカゴ校客員研究員(文部科学省在外研究員)、教員養成におけるティーチング・ポートフォリオの活用に関する研究に従事。

● [13:50-14:30] 講演2 「eポートフォリオを活用したマルチキャリアパス支援」

【講演概要】

ポートフォリオは、学習過程及び成果と評価が一体化した手法であり、評価項目の決定や、カリキュラムの変更など、組織だった議論を必要とするため、導入までには数年単位の時間が費やされる。このため、従来のポートフォリオ評価をそのまま導入するのは容易ではなく、海外においては高い評価が得られているにもかかわらず、日本での普及が遅れているのが現状である。そこで我々は、組織だった議論なしに、システマティックに導入できるロールモデル型eポートフォリオ (Role Model based e-Portfolio: RMP) システムを提案し、構築を行った。本システムは、日本女子大学が長年にわたり蓄積してきた人的資源である卒業生をロールモデルとし、在学生の目標設定に活用することで学習目的・学習パスを明確にできる。また、ロールモデルデータは、業種・職種別または会社別に分類されており、その職業で活躍するために今後どのような能力を身につけるべきかという指標を得たり、職業適性診断に活用したりすることができる。本講演では、RMPシステムの概要について紹介し、マルチキャリアパス支援への適用について述べる。



小川 賀代 (日本女子大)

1993年日本女子大学家政学部家政理学科I部物理系卒業。1995年早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻修士課程修了。1999年同大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻博士課程満了。早稲田大学理工学部助手。2001年日本女子大学理学部助手。2005年日本女子大学理学部専任講師。博士(工学)。光無線通信システムの開発、eポートフォリオシステムの開発に関する研究に従事。2000年Poster prize of Optics within life science。2006年教育システム情報学会第31回全国大会研究奨励賞。電子情報通信学会、応用物理学会、日本光学会、日本教育工学会、教育システム情報学会、SPIE 各会員。

● [14:40-15:20] 講演3「Sakai and Open Source Portfolio」

【講演概要】

1980年代に始まった情報革命により、今では、情報技術の活用なしにはすべての学問が成り立たない状況となっている。その結果、ネットワークサービスの上位に位置する学術活動を支えるアプリケーションを開発・運用するための次世代学術情報基盤の構築が急務になっている。

北米の大学では、Andrew W. Mellon 財団やNSFによる支援の下、大学ポータル構築のための開発フレームワークとして大きな成功を取めたJA-SIGのuPortalを発端に、オープンソースソフトウェアにより学術活動を支えるアプリケーションサービスやその構築のためのミドルウェアの開発の流れが加速している。現在では、100を超える主要な大学が参加するSakai Foundationが設立され、「コミュニティソース」という言葉で具現化されたアプリケーション開発フレームワークとその開発者・運用者・利用者のコミュニティが形成されはじめています。

本発表では、コミュニティソースのSakaiおよびそのサブプロジェクトであるOpen Source Portfolio (OSP)の現状をまとめるとともに、我が国におけるコミュニティソースによる次世代学術情報基盤整備の展望について述べる。

梶田 将司 (名大)

写真・略歴は「eポートフォリオによる新たな教育・学習環境の構築と実践」司会紹介を参照。

● [15:20-16:00] 総合討論

ロボットや機械とのコミュニケーションー人間らしさ、機械らしさとは？ 9月6日(木) 10:00-12:00 [第3イベント会場 (21号館1F 2113教室)]

【企画概要】

太古より人間同士のコミュニケーション方法として用いてきた音声対話やジェスチャーを、人間と機械やロボットのコミュニケーション方法として活用しようとするのは自然な流れであり、数多くの研究が行われている。例えば、機械と音声対話でコミュニケーションをとりながらタスクを行うタスク指向型音声対話システムや、機械と音声対話でコミュニケーションを行うこと自体が目的である雑談型音声対話システム、人間とそっくりな容姿と身体性を持ったコミュニケーションロボットと呼ばれるものも研究されている。一方、人間と機械は別の存在であるため、人間と機械のコミュニケーションにおいて人間同士のコミュニケーション方法が全てそのまま当てはまるとは限らず、人間と機械における満足度の高い独自のコミュニケーション方法が存在する可能性もある。では、人間が機械やロボットと心地よいコミュニケーションを行うことができ、何度も使いたくなる満足度の高いインターフェースを作るために必要な人間らしさ、機械らしさとはどのようなものなのだろうかを議論する。



司 会：伊藤 敏彦 (北大)

1971年生。1999年豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻修了。同年静岡大学情報学部情報科学科助手。2004年北海道大学情報科学研究科メディアネットワーク専攻助教授。2007年北海道大学情報科学研究科メディアネットワーク専攻准教授。博士(工学)。車載情報機器、音声言語情報処理研究に従事。

● [10:00-10:30] 講演1「ヒトとモノの中間的な存在がもつ力：子どもの視点からヒトらしさ・機械らしさを考える」

〔講演概要〕

シンプルなコミュニケーションロボットを使って、子どもたち（自閉症児・定型発達児）からロボットへの自発的なコミュニケーション行為を長期観察してきた。子どもたちは、ロボットの行為を積極的に意味づけ、自分たちの行為ループのなかに取り込んでいく。このようなフィールド観察から、子どもたちからの社会的行為（コミュニケーション行為）を引き出す「身体」の条件を考察したい。著者は、必ずしもヒトらしい形態がコミュニケーションに必須ではないと考え、むしろ子どもからの社会的な意味づけ・取り込みを誘うような形態と機能をもたせることが重要であると考えている。とくに何らかの対象に注意（視線）を向けることや、その対象についての情動を表出することを、子どもから見て直観的に理解できることがカギになるだろう。



小嶋 秀樹 (NICT)

1994年電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。

同年郵政省通信総合研究所（現情報通信研究機構）入所、関西先端研究センター（神戸市）研究官。

1998～1999年MIT人工知能研究所客員研究員。

現在、独立行政法人情報通信研究機構知識創成コミュニケーション研究センター（京都府相楽郡）主任研究員。

認知科学・ロボティクス・計算言語学・発達心理学・自閉症療育などに興味をもつ。

● [10:30-11:00] 講演2「人間らしいコミュニケーションを目指す
—マルチ・チャネルを活かしたコミュニケーションカー—

〔講演概要〕

心豊かに理解し合える対人関係を築くには、臨機応変にその状況に応じてコミュニケーション力を使える必要がある。環境に応じて、適切なメッセージを発信し、他者からのメッセージを読み取るのか、また、他者との関係を目的に合わせていかに円滑に持続／展開するのが基本的なスキルとして必要である。このスキルによって感性豊かな人間らしいコミュニケーションが可能となる。さらに、特定の対人的な機能を達成するためのスキル（関係開始・維持、リーダーシップの発揮など）があり、さらに、継続的な働きかけを要する、集団運営、異文化適応などの目的が特化されたスキルがある。さらに、円滑な対人関係を展開するためには、状況に応じてスキルを使い分け、変化への対応をできてこそ、人間らしいコミュニケーションなのである。コミュニケーションには機能の異なる多数のチャネルがあるので、その特性を把握し、複数のチャネルを臨機応変に組み合わせることが重要である。



大坊 郁夫 (阪大)

北海道大学文学部卒業、文学研究科修了。

札幌医科大学（助手）、山形大学（講師、助教授）、北星学園大学文学部、社会福祉学部教授。

2000年4月から大阪大学大学院人間科学研究科（対人社会心理学）教授。

日本社会心理学会会長、2005-2007年電子情報通信学会HCS委員長、「しぐさのコミュニケーション」（単著、サイエンス社）、「社会的スキル向上を目指す対人コミュニケーション」（編著、ナカニシヤ出版）など。

● [11:00-11:30] 講演3「HAI:ヒューマンエージェントインタラクション—人とやさしく協調できる機械を目指して—」

〔講演概要〕

今世紀に入り、擬人化エージェントを利用したユーザインタフェースがさまざまな分野で利用され、ペットロボットが一般家庭に普及するなど、エージェントやロボットが一般ユーザにとって非常に身近な存在になってきている。このような、これまでエージェントに接することのなかった多くの一般エンドユーザが、エージェントとインタラクションをもつようになる状況では、人間と知的な機械であるエージェントやロボットが、「どのように上手くつき合っていくのか」、またそのためには、「人間とエージェントとの間に、どのようなインタラクションを設計すればよいのか」という新しい工学的課題が生じる。この課題に挑戦する研究領域であるヒューマンエージェントインタラクションHAI (Human-Agent Interaction) について、基本概念、現時点での成果、これからの見通しについて紹介する。



山田 誠二 (国立情報学研)

1984年大阪大学基礎工学部卒業、1989年同大学博士課程修了。工学博士。

同年大阪大学基礎工学部助手。1991年同大学産業科学研究科講師。

1996年東京工業大学大学院総合理工学研究科助教授。

2002年国立情報学研究所教授。現在にいたる。

人工知能特に、ヒューマンエージェントインタラクション、知的Webに興味を持つ。

● [11:30-12:00] パネル討論「機械やロボットとのコミュニケーション
—何度も使いたくなるインターフェイスを目指して—」

【討論概要】

人間同士のコミュニケーションの枠組みを人間と機械という異質のコミュニケーションに用いる枠組みとして、タスク指向型音声対話システムや、雑談型音声対話システム、コミュニケーションロボットと呼ばれるものが研究されている。

一方、人間と機械は別の存在であるため、人間同士のコミュニケーション方法が全てそのままではまるとは限らず、人間と機械における満足度の高い独自のコミュニケーション方法が存在する可能性もある。

では、異質な存在である機械やロボットが、人間と心地よいコミュニケーションを行い、何度も使いたくなる満足度の高いインターフェイスとなるために、必要な人間らしさ、機械らしさとはどのようなものなのだろうかを議論する。

司 会：伊藤 敏彦（北大）

写真および略歴は「ロボットや機械とのコミュニケーション—人間らしさ、機械らしさは？」司会紹介を参照。

パネリスト：小嶋 秀樹（NICT）

写真および略歴は「講演1：ヒトとモノの中間的な存在がもつ力：子どもの視点からヒトらしさ・機械らしさを考える」を参照。

パネリスト：大坊 郁夫（阪大）

写真および略歴は「講演2：人間らしいコミュニケーションを目指す—マルチ・チャネルを活かしたコミュニケーション力—」を参照。

パネリスト：山田 誠二（国立情報学研）

写真および略歴は「講演3：講演3：HAI：ヒューマンエージェントインタラクション—人とやさしく協調できる機械を目指して—」を参照。

電子市場構築技術とその応用

9月7日（金）10:00-15:50 [第3 イベント会場（21号館1F 2113教室）]

【企画概要】

インターネット上のWWW及びWeb2.0技術の発展により、電子商取引の多様性はますます増しており、新しいタイプの電子市場が日々誕生している状況である。GoogleのキーワードオークションやAmazonのアフィリエイト等は、ロングテールのコンセプトを活用した新しいタイプの電子市場の元祖と言える。本チュートリアルでは、このような新しいタイプの電子市場の構築に不可欠な理論的・技術的要素および関連技術を、最新研究成果を交えながら解説する。具体的には、電子市場/オークション/メカニズムデザインの理論的基礎と応用、シミュレーションと人工市場、電子商取引システム、および最新ウェブサービス事情に関して解説する。



司 会：伊藤 孝行（名工大）

1995年名工大知能情報システム学科卒業。2000年同大学院博士後期課程修了。博士（工学）。

日本学術振興会特別研究員を経て、2001年北陸先端大助教授。2003年名工大助教授。2006年同大産業戦略工学専攻准教授。マルチエージェントシステムの研究に従事。この間、米国南カリフォルニア大学、Harvard大学、MIT各客員研究員、日本ソフトウェア科学会論文賞、AAMAS2006最優秀論文賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞、情報処理学会会長尾真記念特別賞など受賞。情報処理学会、AAAI、ACM等各会員。

● [10:00-10:10] 講演1「電子市場構築技術とその応用」

【講演概要】

本チュートリアルでは、新しいタイプの電子市場の構築に不可欠な理論的・技術的要素および関連技術を、最新研究成果を交えながら解説する。特に、昨年度から科学技術研究費による企画調査によるメカニズムデザインとその応用に関して研究会やシンポジウムを継続的に開催しているグループメンバーを中心に、電子市場/オークション/メカニズムデザインの理論的基礎と応用、シミュレーションと人工市場、電子商取引システム、および最新ウェブサービス事情に関して解説する。



横尾 真（九大）

1986年東京大学大学院修士課程修了。同年NTTに入社。2004年より九州大学大学院システム情報科学研究院教授。マルチエージェントシステム、制約充足問題に関する研究に従事。博士（工学）。

1992年、2002年人工知能学会論文賞、1995年情報処理学会坂井記念特別賞、2004年ACM SIGART Autonomous Agent Research Award、2005年ソフトウェア科学会論文賞、2006年学士院学術奨励賞受賞。情報処理学会、人工知能学会、AAAI等各会員。

● [10:10-11:00] 講演2「電子市場構築技術の理論：オークション理論」

【講演概要】

近年インターネットオークションの市場規模が拡大する一方で、詐欺行為などが問題となっており、効率性と安全性の両立できる電子市場の構築が求められている。この課題に対して、人工知能やエージェント技術の分野でも盛んに研究が行われており、計算機科学と経済学の境界領域において多くの知見の蓄積が進められている。本チュートリアルでは、その中でも新たなオークション方式として注目を集めている組み合わせオークションを取り上げる。これは米国における周波数帯域オークションの成功に端を発するもので、今後適用領域が拡大していくことが期待されている。この組み合わせオークションを実現する上では、いくつかの課題がある。まず、オークションの勝者決定問題で生じる計算量の問題を取り上げ、つぎにインターネット環境で生じる新たな詐欺行為である架空名義入札の問題を取り上げ、それらの解法について詳説する。

横尾 真 (九大)

写真および略歴は「講演1：電子市場構築技術とその応用」を参照。



松原 繁夫 (京大)

1992年京都大学大学院修士課程修了。同年NTTに入社。
2007年より京都大学大学院情報学研究所准教授。
マルチエージェントシステム、情報経済に関する研究に従事。博士(情報学)。
2003年人工知能学会論文賞、2004年情報処理学会研究開発奨励賞、2005年ソフトウェア科学会論文賞受賞。
人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、情報処理学会各会員。

● [11:10-12:00] 講演3「電子市場構築技術の応用システム」

【講演概要】

近年インターネット上のオークションに基づく電子市場が数多く実現されており、乱立している状況である。これらの電子市場は非常に簡単なアイデアに基づいて構築されている電子市場から、最新のメカニズムデザインの成果を応用した電子市場がある。本チュートリアルでは具体的な電子市場として実現されているいくつかの事例を概観する。まず、広告の電子市場で最も注目を集めている、GoogleやYahoo!によって用いられている検索連動型広告のオークションメカニズムの歴史と内容を詳細に解説する。次に、ネット上で実際に稼働している最新の電子市場として、広告メディアの電子市場や電子ジョブマーケットについて、その仕組みを説明する。さらに、最新の研究成果に基づいて将来の電子市場を展望する。

伊藤 孝行 (名工大)

写真および略歴は「電子市場構築技術とその応用」司会紹介を参照。

【講演概要】

本チュートリアルでは、電子市場構築技術の実際の応用システムとして、株式会社まいべすとによって、最近構築された電子ジョブマーケットをビジネスサイドの観点から紹介する。電子ジョブマーケットは、仕事と個々の請け負い人をつなぐことで、育児中の女性のためや、退職後にまだ働きたい世代のために、自宅やその周辺に居ながら、仕事をこなすことができる環境を提供する。これによって、育児中の女性や退職後に働きたい世代が社会参加できているという生き甲斐を持つる人生をサポートする。本講演では、さらに将来これらの市場をさらにスケールアップすることに関する展望を紹介する。



武藤 良英 (まいべすと/イーコミュニケーションズ)

株式会社まいべすと代表取締役社長。株式会社イーコミュニケーションズ代表取締役社長。
1976年10月29日生まれ。
2002年6月株式会社イーコミュニケーションズ設立。
2006年3月東海地区の有望ビジネス10社に選出(中小企業振興社より)
2007年1月経済産業省・中小企業庁より、全国のベンチャー企業の中から、パリュールベンチャー12社に選出。

● [13:00-13:50] 講演4「電子市場の計算機シミュレーション」

【講演概要】

電子市場では、様々な思惑を持った人々が今までの市場とは異なる形で相互に影響を与えあっている。そのように複雑な系でのメカニズムデザインには、計算機シミュレーションによる挙動の評価が必要となってくる。本講演では、人間の代わりに務める計算機プログラム(エージェント)が複数参加する計算機上の架空の市場、つまり人工市場シミュレーションに関する基盤手法の紹介および最新の研究成果の解説を行う。個別の項目については次のような内容を予定している。

- ・人工市場シミュレーションによる市場現象の解明、市場理論の検証
- ・人工市場サービスプラットフォームの紹介
- ・百万体エージェントが参加するオークションシミュレーション
- ・大規模マルチエージェントシミュレーション基盤技術の紹介



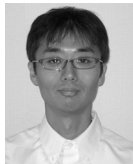
・電子市場とシミュレーションー人工市場シミュレーションからサービスへ
和泉 潔 (産総研)

1993年東京大学教養学部基礎科学科第二卒業。1998年同大学院博士課程修了。博士(学術)。
同年より、電子技術総合研究所(現産業技術総合研究所)勤務。
マルチエージェントシミュレーション、特に社会シミュレーションに興味がある。
情報処理学会、人工知能学会各会員。



・異なる戦略を持つエージェントによるオークションシミュレーション
水田 秀行 (日本IBM)

1997年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了。
同年日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所入所。
エージェントベース・アプローチによる市場シミュレーション、複雑系社会学、組織解析等のサービス・サイエンスに関連した研究に従事。情報処理学会会員、ACM会員、博士(理学)。



・大規模マルチエージェントシミュレーション環境のためのクラスタ機構
山本 学 (日本IBM)

1991年東京工業大学大学院修士課程修了。
同年日本IBM(株)入社、東京基礎研究所配属。
エージェント基盤技術および業務システム基盤技術の研究に従事。
情報処理学会会員、電子情報通信学会会員。

● [14:00-14:50] 講演5「予測市場とその可能性」

【講演概要】

証券市場では、多くの投資家はその証券の将来の価格動向を予測し、それに基づいて取引をする。したがって、そこで成立する価格は、投資家の意見が集約された結果現れる総体としての将来予測と考えることができる。このメカニズムを用いて、将来予測を行うための仮想市場を設定、運営する「予測市場」という考え方に注目が集まっている。ここでは、予測市場という考え方やさまざまな利用方法に関する諸外国の動向、日本における試みなどを紹介し、予測市場の将来について展望する。



山口 浩 (駒澤大)

駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部准教授。
日本興亜損害保険(株)、財団法人国際金融情報センターを経て現職。
専門はリアルオプション、予測市場、仮想経済等。
主要著書に「リアルオプションと企業経営」(単著、2002年、エコノミスト社)、「情報社会論」(共著、2007年、北大路書房)などがある。

● [15:00-15:50] 講演6「Webサービスに基づく電子市場構築技術」

【講演概要】

本講演では、電子市場の構築にとって有益な基礎的技術と最新の研究動向を、Webサービス関連技術を中心に紹介する。講演内容では、SOAP/HTTPに代表されるWebサービス技術そのものの詳細な解説は避け、むしろ、Webサービス技術とそれによる電子市場の構築によって、どのようなソフトウェアや技術が生まれ、そこでどのような知見が得られ、今後どのような方向性の技術が生まれていくかという点を中心に、過去から現在最先端で研究されている内容に至るまでの様々な技術・研究内容について、Webサービスというキーワードを切り口に、そのエッセンスをわかりやすく紹介する。具体的には、Webとインターネットがまだ初期のころに、講演者らがWeb上のオークションシステム上で自動入札を行うエージェントシステムの開発を通じて得られた知見から、ごく最近のセマンティックWeb技術の動向、および、Webサービスがあるが故に必要な関連技術に至るまでを扱う。



福田 直樹 (静岡大)

1997年名古屋工業大学工学部知能情報システム学科卒業。1999年同大学大学院工学研究科電気情報工学専攻博士前期課程修了。2002年同大学院博士後期課程修了。同年4月より静岡大学情報学部情報科学科助手。
2007年より同学科助教。博士(工学)。
エージェント、オントロジー、Webサービスほか、ソフトウェア開発支援への知能化技術の適用とその応用に関する研究に従事。IEEE-CS、ACM、情報処理学会、電子情報通信学会、ソフトウェア科学会、人工知能学会、情報システム学会各会員。

人の居場所を探る ―情報過多のネット時代における個倍化現象―

9月5日(水) 10:00-12:00 [第4 イベント会場 (21号館 2F 2123教室)]

【企画概要】

我々人間の身体は物理的には一つしか存在し得ないが、多様化する情報化社会の中でその存在や居場所は必ずしも一つではなくなってきている。ネット上の仮想空間で仮想の分身(アバタ)を持って生活したり、日常を忘れてくつろげる第三の場所を求めるサードプレイス志向が流行したりと、現代の人の居場所は多様化している。ネット上にさまざまなサイバーワールドが形成され、さまざまな場所でネット世界との接点生まれ、そして、そのネット世界とリアルな世界が複雑に絡み合っている。本イベント企画では、昨今の混沌とした情報過多社会において、いかにして自分の存在や居場所が多重化する「個倍化(=個人が同時に複数の立場になれること)」の現象が起こったのかを探る。そして、この個倍化現象に影響を与えた仮想世界のデザイン、技術について議論する。本企画では、お二人の招待講演者をお招きし、ネット上の代表的三次元仮想空間サービスの一つである「Second Life」と、ネットとリアルを融合した新たな居場所を提供する「BarTube」についてご紹介いただき、実例からみた成功要因と現状課題の把握を行うとともに、将来の個倍化生活を展望する。



司 会：羽鳥 好律 (東工大)

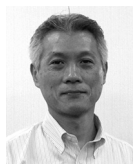
1971年、東京大学工学部電気工学科卒業。

同年、国際電信電話株式会社入社。以来、主として映像通信方式の研究開発に従事。

1986年工学博士、2003年より東京工業大学、現在、総合理工学研究科物理情報システム専攻教授。

サイバーワールド、ネットワークヒューマンインタフェース、映像通信サービスの研究に興味を持っている。電子情報通信学会フェロー、情報処理学会正会員。

● [10:00-10:10] 開会挨拶



全 炳東 (千葉大)

千葉大学・総合メディア基盤センター教授。

1989年、慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了。

東京大学、東京商船大学(現東京海洋大学)を経て現職。

画像処理、コンピュータビジョンなどの研究に従事。

電子情報通信学会「マルチメディア仮想環境基礎研究専門委員会」委員長。

● [10:10-11:00] 講演1 「遂に開かれた3次元世界への扉, "Second Life × メタバースビジネス" とは? ―バーチャルリアリティのコンテンツマーケティング―」

【講演概要】

1. セカンドライフとは
2. 企業参入事例
3. メタバースの未来
4. バーチャルリアリティとコンテンツマーケティング

ようやく扉を開いた、3次元世界。その扉はアメリカからだった。しかしその3次元化の波は世界中を覆いつつある。幾多の技術者達の試練を経て生まれた、インターネット上にオープンに開かれた世界、"メタバース"は今も24時間増殖し続けている。細胞分裂のように休みなく創られていく"メタバース"世界はこれまでのプロモーションに、経営に、開発にどのようなインパクトとイノベーションを与えようとしているのか。

まず簡単に「セカンドライフ」とは何かをご紹介します。その後、企業の参入事例をご紹介します。この流れがどうなっていくのか、そして最後にメタバースの未来と、それに融合するバーチャルリアリティの未来をお伝えします。



大槻 透世二 (サイバードベンチャー)

サイバードベンチャー会社 代表取締役社長。リンデン・ラボ社推薦セカンドライフセミナー講師。

<http://www.cyber-adventure.com>

デジタルハリウッド大学大学院セカンドライフ研究室研究員/プロデューサー。

次世代インターフェイス研究室研究員。

東北大学心理学専攻卒業。1年間のLA留学を経て、(株)ソリッドレイ研究所にてバーチャルリアリティのシステムインテグレーション、立体映像システム構築、HMDシステム構築などを経験。IT系コンサルティング会社を経て、デジタルハリウッド大学大学院コンテンツマネジメント修士課程修了(MCA)「テーマ:バーチャルリアリティのコンテンツマーケティング」。その後、サンフランシスコのLinden Lab本社にてSecond Lifeカリキュラムの直接トレーニングを受ける。2007年より、企業のコアコンピタンスを活かしたセカンドライフ参入を総合的に支援するサイバードベンチャー株式会社を設立、活動開始。

● [11:00-11:50] 講演2 「共有する集合知, インターネット紀元後社会の行方
—プレゼンスの共有が生むインターネット・テレパシー機能—」

【講演概要】

Web2.0からはじまった, インターネット紀元後社会.

見る読むウェブから, 参加活用するウェブへ, さらに, "プレゼンス" を共有することにより, リアル世界へ多大な影響を与えはじめた. いかにリアルな世界と結びつき, 既存の仕組みと融合していくのか?

YouTube にはじまった動画共有, SNS とミニブログの融合 Twitter, RMT を土壌に新たな経済価値を創造する Second Life, すべては API を共有することによる, 無限連鎖サービス群によるコミュニティ市場が形成される.

メディア化する消費者, プロ化するアマチュア. テクノロジーは人類にとって本当に福音の鐘を鳴らしているのだろうか?

リアル社会をサイバー社会で可視化することは, リアルとネットの歩み寄る社会の始まりでもある. 86 世代 (小学校から常時接続の 1986 年生まれ) の登場でどのように社会が変革するのか? 近未来のネットとリアル社会を大胆に予測する.



神田 敏晶 (KandaNewsNetwork, Inc.)

神戸市生まれ.

ワインの企画・調査・販売などのマーケティング業を経て, コンピュータ雑誌の企画編集と DTP 研究に携わる. CD-ROM メディア制作を経て, 1995 年よりビデオストリーミングによる個人放送局「KandaNewsNetwork」を運営開始.

ビデオカメラ一台で, 世界の IT 企業や展示会取材に東奔西走中.

● [11:50-12:00] 閉会挨拶



田中 英彦 (情報セキュリティ大)

1970 年東京大学大学院博士課程修了, 工学博士.

東京大学情報理工学系研究科教授・研究科長を経て, 2004 年, 情報セキュリティ大学院大学教授.

計算機アーキテクチャ, 分散処理, デバグダブル情報システム等に興味を持つ.

著書に「非ノイマンコンピュータ」「計算機アーキテクチャ」「Parallel Inference Engine」などがある.

日本学術会議会員, 電子情報通信学会, 情報処理学会, IEEE, 各フェロー.

近未来技術と情報科学—次世代ロボット技術を展望する—
9月5日(水) 13:00-17:30 [第4イベント会場 (21号館2F 2123教室)]

【企画概要】

近い将来, 超高齢社会に突入する日本. 我々は, ロボットにどのようなことを望むのだろうか? 人手をまかなってほしい, 話を聞いてほしい, 身の異変に気づいてほしい, など多岐にわたるであろう. 近年のロボティクスでは, 人と共存するロボットの開発が進んでいるが, これらの要望に十分に答えているとは言いがたい. 一方で, 情報科学技術は, ロボティクスに大いに関与しており, 今, 情報科学の視点からどのようにロボティクスをサポートしていくかが問われている. 本シンポジウムでは, 近未来ロボットと情報科学の関わり方と, その進むべき道を探る.



司 会: 伊藤 英則 (名工大)

1974 年名古屋大学大学院工学研究科博士課程電気電子専攻満了. 工学博士号取得.

1974 年日本電信電話公社横須賀研究所勤務. 1985 年 (財) 新世代コンピュータ技術開発機構出向.

1989 年名古屋工業大学大学院教授.

情報工学専攻. 数理言語理論, 計算機ネットワーク通信, OS, 人工知能などの研究開発に従事.

電子情報通信学会, 情報処理学会, 日本ロボット学会, 形の科学会, 日本感性工学会各会員.

● [13:00-13:20] 講演1 「身体性技術 (Technologies of Embodiment)」

【講演概要】

ここにいう身体性技術とは, 最も抽象的には, 精神世界と物質世界の間に生じるアンビバレンスのなかに新しいリアリティを創り出すハイブリッドな技術のことである. 具体的には, 物理世界のタスクを支援するバーチャル技術, 本来身と心のアンビバレントな存在である人間と整合するロボットや機能代行システムの技術, 体内へのコンピュータ埋め込み技術, 工学的知識に裏付けされたスポーツ, 健康技術などがふくまれる. これらの技術は時空間の身体的意味解釈を基本とする. 時空間を捨象する多くの情報伝達・処理モデルがこの要請に応じ得ないとすれば新しいモデルが望まれる. 本現地企画は概ねこの線に沿っている.



福村 晃夫 (名大/中京大)

1925年広島県生。1949年名古屋大学工学部電気学科卒。

同大学助教授、教授を経て1988年名誉教授。同年中京大学教授、2000年名誉教授。

その間1986年人工知能学会初代会長。情報処理学会、人工知能学会名誉会員、電子情報通信学会フェロー。現在中京大学顧問、人工知能研究振興財団顧問、栢森情報科学振興財団審査委員などを通して学術振興に微力を尽くす。

● [13:20-14:10] 講演2「ロボットソフトウェアアーキテクチャを考える」

【講演概要】

ソフトの開発は、ハード環境・効率等の様々の要因を考慮しつつ、タスク分析し、適切なアーキテクチャを選択し、その枠の中でソフトを設計し、実装する。現在、ロボットソフトも同様な手順によって開発されている。オブジェクト指向は、主要な枠の1つである。視覚情報処理、プランニング、運動制御等の各々の専門家が別々に開発したソフトを統合するのにより方針であると考えられている。この方針にもとづいて、開発されたソフトは、問題なく動く。

しかし、ロボットソフトに本当に期待されている機能は、今のところ、この枠では実装できていない。ロボットは動き回る。ロボットソフト開発者は、様々の状況下で問題なく動くソフトはできないか、と常に考えている。その時々で状況は変わってしまうのである。さらに、コンテキストの問題もある。時間的前後関係なしでその場の状況のみでも、ロボットの最良の動作を選択することができない。ここでは、このような問題点に関して富士通が行っている取り組みについてお話をします。



永嶋 史朗 (富士通研)

1959年8月23日、両国生まれ。1989年慶応義塾大学大学院後期博士課程修了。

流体運動の安定性、熱流体運動の研究に従事。工学博士。同年(株)富士通研究所入社。

ロボット運動シミュレーション、ロボット運動生成・制御、ロボットソフトウェアシステムアーキテクチャの研究開発に従事。日本ロボット学会会員、日本機械学会会員。

2000年第14回日本ロボット学会論文賞受賞。2004年第9回日本ロボット学会実用化技術賞受賞。

● [14:20-15:10] 講演3「ヒトに優しい介護支援ロボットの設計と評価」

【講演概要】

本講演では、高い臨場感を有する没入型動力学シミュレーション技術を用いた介護支援作業などに見られるヒトとの力学的な相互作用を有するロボットの安全安心な設計・評価技術について紹介する。またこの技術を用いて開発されたロボットRI-MANの構成と機能について解説をし、今後におけるロボットによる介護支援作業の研究課題を考察する。これを踏まえて、次世代ロボットにとって情報とは何か?知能とは何か?などの本質的な問題について議論をし、21世紀における情報科学・システム工学研究開発の新展開を展望する。また、生命科学研究との連携が欠かせないことを強調する。



羅 志偉 (神戸大)

1992年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻修了。博士(工学)。同年豊橋技術科学大学助手。

1994年理化学研究所フロンティア研究員。1999年山形大学工学部助教授。2001年理化学研究所バイオ・ミメティックコントロール研究センター環境適応ロボットシステム研究チームチームリーダー。2006年神戸大学工学部教授。知能ロボット工学、システム制御理論、生物の運動制御機能解析などの研究開発に従事。IEEE、計測自動制御学会、日本ロボット学会、日本神経回路学会各会員。

● [15:20-16:10] 講演4「NECにおけるパーソナルロボットの研究開発 ーパーソナルロボットPaPeRoやCG PaPeRoで目指す人にやさしいインターフェースー」

【講演概要】

NECでは97年より、メカに特徴を持つのではなく、人とのインタラクション機能に注力した、情報処理系インタフェースおよびインタラクティブメディアとしてのパーソナルロボットの研究開発を行なっている。本講演では、試作ロボットであるパーソナルロボットPaPeRoに搭載された各種技術の概要や、家庭モニタ評価、万博出展、幼児施設、漫才ロボットなどの各種実証実験などを紹介し、その狙いや展望を述べる。



藤田 善弘 (NEC)

京都大学大学院修士卒、NECに入社後、動画像認識処理向け並列処理プロセッサIMAPを考案し、96年まで研究開発に従事。97年よりNECの保有する認識技術を活用するインタフェースとしてのパーソナルロボットの研究開発に着手し、99年に初代試作ロボットのR100、01年に試作2号機のPaPeRoを開発。

ロボットのコミュニケーション能力の向上や事業化を目指し研究開発・応用検討・実証実験などを行なっている。京都大学博士(情報学)。

● [16:30-17:30] パネル討論「近未来ロボティクスと情報科学」

【討論概要】

ロボティクスは学際的な学問であり、情報科学技術はそれに大いに関与している。近年では、人と共存するロボットの開発が前進しており、人と心理的・生理的に関わる場面を想定することが必須となりつつある。本パネルセッションでは、前出の3名の講演者の方々に加え、中京大学でロボティクスを研究しておられる先生をパネラーとして迎え、ロボット情報技術が我々の生活へ与える効果・影響について多角的に意見を集約し、今後のロボティクスにおける情報技術の方向性を議論する。

司 会：伊藤 英則（名工大）

写真および略歴は「近未来技術と情報科学－次世代ロボット技術を展望する－」司会紹介を参照。

パネリスト【知能ロボット】：永嶋 史朗（富士通研）

写真および略歴は「講演2：ロボットソフトウェアアーキテクチャを考える」を参照。

パネリスト【福祉ロボット】：羅 志偉（神戸大）

写真および略歴は「講演3：ヒトに優しい介護支援ロボットの設計と評価」を参照。

パネリスト【コミュニケーションロボット】：藤田 善弘（NEC）

写真および略歴は「講演4：NECにおけるパーソナルロボットの研究開発 パーソナルロボット PaPeRo や CG PaPeRo で目指す人にやさしいインタフェース」を参照。



パネリスト【レスキューロボット】：清水 優（中京大）

1991年3月名古屋工業大学工学部機械工学科卒業。1991年4月中京大学情報科学部助手就任。

2000年4月同講師就任。2007年4月同准教授就任（現在に至る）。

2000年まで、高速・連続三次元計測装置の研究に従事。

その後、小型移動ロボットの為の要素技術開発を経て、現在は小型レスキューロボットの開発を行っている。

電子情報通信学会、情報処理学会、日本ロボット学会、日本機械学会、画像電子学会各会員。



パネリスト【ロボットビジョン】：青木 公也（中京大）

1995年3月慶應義塾大学機械工学科卒業。1997年3月同大学大学院理工学研究科修士課程（機械工学専攻）修了。

2000年3月同後期博士課程（機械工学専攻）修了、博士（工学）。2000年4月豊橋技術科学大学情報工学系助手。

2004年4月中京大学情報科学部情報科学科講師。2006年4月同大学情報理工学部情報システム工学科講師。

2007年4月同准教授、現在に至る。画像処理の産業応用、マシンビジョン、CV・CGの研究に従事。

電子情報通信学会、日本非破壊検査協会、精密工学会、日本機械学会各会員。



パネリスト【感性ロボット】：加納 政芳（中京大）

1999年名古屋工業大学工学部知能情報システム学科卒業。2004年同大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。

同年中京大学生命システム工学部講師。博士（工学）。探索問題、知能・感性ロボティクスなどに興味を持ち、

多数の企業が共同開発した感性会話ロボット「ifbot」の開発プロジェクトに参加。現在も感性ロボットの研究

開発を進める。第65回情報処理学会全国大会奨励賞、第66回情報処理学会全国大会優秀賞、2006年度日本感性

工学会技術賞受賞、情報処理学会、人工知能学会などの会員。



パネリスト【エンターテインメント（似顔絵）ロボット】：藤原 孝幸（中京大）

2003年9月中京大学大学院情報科学研究科博士課程修了。情報科学博士。

2003年同大学情報科学部助手。2006年情報理工学部助手。

画像処理、特に人間の顔に対するマシンビジョンの研究。2次元、3次元の顔画像処理と顔認識、似顔絵生成システムへの利用の研究に従事。

電気学会、情報処理学会、芸術科学会、日本顔学会各会員。

近未来技術と情報科学 —スポーツと情報技術—

9月6日(木) 10:00-12:00 [第4 イベント会場 (21号館2F 2123教室)]

【企画概要】

スポーツには、人間の身体能力の限界を追求するという競技志向的な側面と、人間生活に健全さと潤いを与えるという教育・文化的な側面がある。その両面でさらなる進歩と新しい価値を求めるとき、その手段として情報技術にかかる期待は大きい。本シンポジウムでは、スポーツを対象にした映像技術や計測技術に関する発表を通して、理論・方法論とそれを実際の現場へ応用する際の様々な課題について議論し、スポーツ情報科学とも言うべき学際分野の意義と将来を展望する。講演では、会場校の中京大学で行われている研究を中心に、新方式のカメラを用いた個人スポーツの動作解析、多視点映像を用いたチームスポーツの付加価値映像生成、トレーニング支援を目的とした可視化システム、運動スキル獲得への認知科学的アプローチなどに関する最新の研究成果を紹介する。



司 会：長谷川 純一（中京大）

1974年名古屋大学工学部電気学科卒業。1979年同大学院工学研究科博士課程（情報工学専攻）修了。

同年名古屋大学工学部助手、1986年同講師。1987年より中京大学へ移り、教養部助教授、情報科学部教授などを経て、2004年より生命システム工学部教授・学部長、工学博士。

画像処理、パターン認識、可視化シミュレーション、および、それらの医療・スポーツへの応用に関する研究に従事。日本医用画像学会論文賞、日本エム・イー学会論文賞、芸術科学会論文賞などを受賞。

● [10:00-10:05] 企画者挨拶

● [10:05-10:30] 講演1 「蛍狩りカメラを用いたアスリートの運動解析システムの提案」

【講演概要】

多数のLED群（闇夜を乱舞する蛍の群れ）の位置を一挙に計測できる単眼カメラ（Firefly Capturing Camera：FCC）を富士ゼロックス社と共同開発した。本発表では、オリンピック選手のパフォーマンスの予備計測、および、回転運動の解析を試みたので、FCCの原理とともに述べ、今後の課題を展望する。

○藤原 孝幸（中京大）、室伏 広治（中京大／ミズノ）、湯浅 影元、輿水 大和（中京大）

【○印は講演者】

講演者の写真および略歴は「『近未来技術と情報科学—次世代ロボット技術を展望する—』パネル討論：近未来ロボティクスと情報科学」パネリスト【エンターテインメント（似顔絵）ロボット】を参照。

● [10:30-10:55] 講演2 「スポーツ放送のための多視点カメラシステムの応用」

【講演概要】

発表者の一人である慶大の斎藤の研究室では、2000年ごろから、サッカー等のスポーツシーンを対象として撮影した多視点画像から、多視点カメラ間の射影幾何学的関係やシーンの平面性を利用して、キャリブレーションを事前に行わないで撮影された多視点画像から、自由視点画像を生成するための手法について研究を進めている。本報告では、その技術を実際のスポーツ中継放送等で利用するための事例について紹介する。さらに、オンラインでカメラをトラッキングすることにより新たな映像提示が可能となる複合現実表示技術を、多視点カメラシステムで撮影されたスポーツ映像の提示に応用することを目指したシステムについても紹介する。



○斎藤 英雄、林 邦彦、植松 裕子（慶大）、川本 哲也（中京テレビ）、窪川 直毅、藤原 徹（日本テレビ）

【○印は講演者】

1987年慶大理工電気卒。1992年同理工学研究科博士課程修了。博士（工学）。

1992年慶大理工工学部助手、専任講師、助教授を経て、2006年より同教授。

1997年～1999年米国カーネギーメロン大学ロボティクス研究所訪問研究員。

2000年～2003年JST さきがけ研究21研究員兼務。画像処理・コンピュータビジョンに関する研究に従事。

最近、マルチカメラを用いた自由視点映像生成、ビジョンベースの複合現実感システムに関する研究等に従事。

● [11:00-11:25] 講演3 「スポーツ競技における運動情報の可視化」

【講演概要】

スポーツ競技者のトレーニング支援を目的とした映像生成システムについて取り上げる。具体的には、競技者の運動情報と姿勢情報を統合したリアルタイムの映像フィードバックシステム、および、通常は目で見ることのできない競技スペースやパスコースの可視化方法について述べ、それらを実際の競技へ適用した例をいくつか紹介する。また、具体的なトレーニングへの応用に向けた取り組みと、その課題について議論する。



○瀧 剛志, 長谷川 純一, 北川 薫 (中京大)

【○印は講演者】

1999年中京大学大学院情報科学研究科情報認知科学専攻了。博士(情報科学)。

同年, 中京大学情報科学部助手, 2004年から同大生命システム工学部講師, 現在に至る。

画像認識, コンピュータグラフィックス, および, それらの集団行動・スポーツ応用に関する研究に従事。

電子情報通信学会, 日本写真測量学会, 日本体育学会, 日本フットボール学会各会員。

● [11:25-11:50] 講演4「スポーツの技の習得のためのメタ認知的言語化：学習方法論 (how) を探究する実践」

【講演概要】

未熟練者が(身体知を獲得して)熟練者に成長するプロセスを促すための方法論(how)として, 体感を言語化するメタ認知手法が有効であることを, 実践例をもとに論じる。メタ認知が促すものは「身体行為-知覚-ことばの共進化」である。スポーツ科学で盛んに行われている, 映像分析や身体計測による expert-novice difference 研究(学習者が何を学ぶべきかを示唆する「what 研究」)とは相補の関係にあり, 今後, what-how 両研究の併用の方法論の探究が急務となる。



諏訪 正樹 (中京大)

1984年東京大学工学部卒業。1989年同大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)。同年, (株)日立製作所基礎研究所入社, 推論学習の研究に従事。1994'96年スタンフォード大学 CSLI 研究所にて客員研究員。

1997年よりオーストラリアシドニー大学建築デザイン学科主任研究員。2000年より中京大学情報科学部助教授。2004年より同教授。2006年より同大学情報理工学部教授。情報処理学会研究奨励賞, 人工知能学会論文賞, 認知科学会大会発表賞受賞。創造性, 熟達, 暗黙知, 感性に関する認知科学を研究。人工知能学会,

日本認知科学会, 日本デザイン学会, ACM, Cognitive Science Society, 各会員。

● [11:50-12:00] 総括質疑

近未来技術と情報科学 - 中京大学ハイテク・リサーチ・センターの取り組み -
9月7日(金) 10:00-12:00 [第4 イベント会場 (21号館 2F 2123教室)]

【企画概要】

中京大学ハイテク・リサーチ・センターでは, 1998年4月より10年間にわたって, 「マルチメディア情報の共有による協調的知的活動支援に関する基盤研究」「3次元仮想化空間を利用した知的活動支援システムの実用化研究」「顔を中心にした人の多元完成情報の統合とヒューマンインターフェイス映像メディア創生の研究」の三つのテーマの元, 情報科学をベースにした人に優しい近未来技術の開発研究に取り組んできた。今年, これらのテーマでの研究を締めくくりにあたってこれまでの成果を報告する。報告を元に, 人の「知」に働きかけることによって情報の中に新しい価値を見出す近未来技術を志向した新たな研究テーマを作り上げてゆきたい。



司 会：三宅 なほみ (中京大)

1982年 University of California at San Diego, Dept. of Psychology, 博士課程修了。1984年青山学院女子短期大学一般教育課程助教授, 1991年中京大学情報科学部認知科学科教授。現在同大情報理工学部情報知能学科教授。Ph.D.

協調的認知過程の理論的解明とそれに基づく協調的学習環境の開発・評価研究を行う。学習者を中心とした自己知識統合過程の促進, 生涯を通して持続可能な知識形成過程の解明と支援に興味がある。

Cognitive Science Society, ISLS, 日本認知科学会, 日本教育心理学会, 日本心理学会会員。

● [10:00-10:15] シンポジウム概要説明

三宅 なほみ (中京大)

写真および略歴は「近未来技術と情報科学 - 中京大学ハイテク・リサーチ・センターの取り組み -」司会紹介を参照。

● [10:15-10:45] 講演1「顔・顔部品の階層的トラッキング技術開発とアイコンタクト顔メディア創出の研究」

【講演概要】

PCに設置したUSBカメラのような, 日常的カメラ環において顔・顔部品をトラッキングする技術, 瞳輪郭などの顔部品の認識技術を開発中である。この技術を基礎にして, テレビ会議などで避けられないアイコンタクト阻害要因を, アイコンタクト顔映像を生成することで解決する試みを述べる。



○興水 大和 (中京大)

【○印は中心となる講演者】

1975年名大・院・博了(工博), 名大・工・助手, 名市工研, 1986年中京大教養部教授, 1990年情報科学部教授, 1994年同・院・教授, 2004年情報科学部長, 2006年より情報理工学部長。画像処理, 顔研究, OKQT, ハフ変換, それらの産業応用研究に従事。IEE(上級・協同研委員長), IEICE(教科書委員), SICE(PM部会顧問), JSPE(IAIP副委員長), JFACE(理事), QCAV, FCV, SSII, VIEWの国際・国内会議推進などで活動中, 小田原賞(IAIP, 2002・2005), 優秀論文発表賞(IEE, 2004), 研究・技術奨励賞(SICE, 2006)など受賞。



舟橋 琢磨 (中京大)

2002年 中京大学情報科学部情報科学科卒業。2005年 中京大学大学院情報科学研究科修士課程修了。

2005年 中京大学大学院情報科学研究科博士課程入学。現在に至る。

画像処理, 特に, 人間の顔に対するマシビジョンの研究, 2次元の顔画像処理と顔認識, 似顔絵生成システムへの利用の研究に従事, 2005年に開催された愛知万博のプロトタイプロボット展にて, 似顔絵師ロボット製作における画像処理システム開発に従事。

藤原 孝幸 (中京大)

写真および略歴は「『近未来技術と情報科学－次世代ロボット技術を展望する－』パネル討論: 近未来ロボティクスと情報科学」パネリスト【エンターテインメント(似顔絵)ロボット】を参照。

● [10:45-11:15] 講演2「3次元仮想化空間を用いた知的活動支援システムの開発」

【講演概要】

筆者らを含む学内9名の研究者らによる「3次元仮想化空間を用いた知的活動支援システム」研究開発プロジェクトは, VR技術を用いた人間の知的活動支援に応用することを目指し, 仮想化, モデル化, 可視化, 対話操作などのVR基礎技術, ならびに, それらを用いた複数の応用システムの開発が試みられている。開発中のシステムには次のものがある,

- (1) 腹部X線CT像を用いた診断支援システム,
- (2) 滑走スポーツのための仮想体感システム,
- (3) チームスポーツの戦略的スペース可視化システム,
- (4) 集団行動シミュレーションシステム,
- (5) 仮想空間における弾性物体操作システム,
- (6) 強化現実感による安全運転支援システム,

ここでは, このうちの最初の3つのシステムについて, 最近の成果を含めて紹介する。

○長谷川 純一 (中京大)

【○印は中心となる講演者】

写真および略歴は「近未来技術と情報科学－スポーツと情報技術－」司会紹介を参照。

瀧 剛志 (中京大)

写真および略歴は「『近未来技術と情報科学－スポーツと情報技術－』講演3: スポーツ競技における運動情報の可視化」を参照。



渡辺 恵人 (中京大)

2000年中京大学情報科学部情報科卒。

2004年同大学大学院情報科学研究科博士課程後期課程修了。

2005年より中京大学生命システム工学部助手, 現在に至る。

主に, 3次元医用画像処理に関する研究に従事, 博士(情報科学)。

電子情報通信学会, 日本医用画像工学会, コンピュータ支援画像診断学会各会員。

● [11:15-11:45] 講演3「マルチメディア情報の共有による協調的知的創造活動支援に関する基盤研究」

【講演概要】

本研究では, マルチメディア型ネットワークを利用した協調的な学習支援システムを長期にわたって使用することによって, 教育や研究活動を活性化するための試みを続けてきた。本研究の根幹をなす考え方は, 基本的には一人が経験したことを他の人も利用しやすくすることによって多様なユーザの多様なニーズに対応できる知的創造的活動支援環境を実現しようとするものである。このようなシステムの具体的な利用方法のいくつかを例に, 人という問題解決システムの特徴をつかみ, 人が利用しやすい情報機器の設計や評価につながる日常的な教育・研究活動の成果を報告する。

○三宅 なほみ (中京大)

【○印は中心となる講演者】

写真および略歴は「近未来技術と情報科学－中京大学ハイテク・リサーチ・センターの取り組み－」司会紹介を参照。



白水 始 (中京大)

2000年名大・文学研究科・心理学専攻博士課程中退。同年中京大学情報科学部認知科学科助手。同大講師を経て、2007年同大情報理工学部情報知能学科准教授。博士(認知科学)。大学の授業現場での協調学習の実践および学習者の理解深化過程の研究を行う。一例としてレクチャからの能動的な学習の支援研究を実践。Cognitive Science Society, ISLS, 日本認知科学会, 日本教育心理学会, 日本心理学会会員。

● [11:45-12:00] 全体討論「今後の重要テーマを探る」

近未来技術と情報科学 ークリエイティブな「ものづくり」を支えるスキルとテクノロジー

9月7日(金) 13:00-16:00 [第4イベント会場(21号館2F 2123教室)]

[企画概要]

日本の得意としてきたインテグラル型「ものづくり」が空白の15年といわれるリセッションの後に、漸く本来の姿を見せてきたように思われる昨今です。しかし、極端な少子高齢化、2007年問題、環境・エネルギー問題、加速する国際化…など『ものづくり』の未来には多くの課題も立ちはだかっています。これらの課題を解決し、『ものづくり』トップランナーの地位を維持していくためには豊かな創造力やユニークな発想力と共に、それらを実現するためのスキルやテクノロジーに支えられる必要があろうと思われます。『ものづくり』のキーテクノロジーのひとつである情報技術も従来以上に現場の実態やニーズを的確に捉える必要があるでしょう。そこで、代表的な日本の『ものづくり地域』である中部の産業界や学会で活躍されている方々から有益な示唆をいただき、今後の情報技術が一層『ものづくり』に貢献できる方向性を探る。



司 会: 棚橋 純一 (中京大)

1963年名古屋大学工学部電子工学科卒業。同年富士通信機製造株式会社(現富士通)に入社。研究所で情報処理、特にパターン情報処理、人工知能、ヒューマンインタフェースの研究開発に従事。2000年中京大学情報科学部教授。2006年情報理工学部に移転となり現在に至る。最近ではものづくりに貢献できる人材育成を目指し、3次元CADの教育と応用に力を注いでいる。

● [13:00-13:05] 企画者挨拶



興膳 生二郎 (中京大)

1967年にトヨタ自動車(株)入社後、外形デザインへ配属され、クラウン、初代スターレット、初代ターセルなどを担当。デザイン造形用3次元CADシステム(スタイルCAD)の研究プロジェクトに参画し1980年頃より本格開発がスタート。翌年から実用化が始まる。1995年商品企画部への異動を経て2000年より現職に到る。

● [13:05-13:55] 講演1「自動車デザイン開発における『ものづくりの想い』実現に向けて」

[講演概要]

自動車のデザイン開発は、感性、創造、論理、技術、技能、時間、コストなどの要素が複雑に絡み合い、また様々な判断を経て具現化される。魅力や感動を徹底的に追求したい創作者=デザイナーのアイデアを、モデラーが具体的な造形物として魅力や感動を具現化する。「ものづくりの想い」は、意匠そのもののアイデアとそれを魅力的に造形として具現化するための技との両立により実現し、製品となる。

デザイン開発の過程において、意匠の具現化は仮説と検証が繰り返される。そこにはデザイン表現に特化した具現化の技の世界がある。目的も多々あり、「ものづくりの想い」実現に向けて、具現化する技は決して一つではない。むしろその技は無限にあり、様々な素材・ツール・技術を開拓・駆使し、想いを具現化するアイデアと、高度な技能が重要である。それは正にクリエイティブな世界であり、ハイブリッドな領域である。



沖 勝之 (トヨタ自動車)

1981年京都市立芸術大学美術学部デザイン科卒。同年トヨタ自動車工業(株)入社。セリカ、クラウンの外形デザイン担当。1986年東京デザイン室勤務。1991年帰任、セリカ系外形・室内、WRCベース車デザインを担当。1993年京都デザイン専門学校非常勤講師兼務。その後ヴィッツ、カローラ担当。2000年トヨタ車体(株)出向。新コンセプトSLSをトヨタへ提案(のちのポルテ)。2002年帰任、パッソ、タンドラ、モーターショー車などの担当を経て2005年からデザインモデル開発全般に従事。

● [13:55-14:25] 講演2「知能化する自動車」

【講演概要】

自動車をより安全で快適にするため電子技術が不可欠となっているが、近年は情報・通信技術も加わり、車と外とのつながりを含めた「知能化」が進んでいる。これらの新技術の導入は車載制御機器に用いられるマイクロコンピュータとメモリの高性能、低コスト化で実現可能となったが、これらを用いて高度な制御を行うには大規模な組込みソフトウェア開発が必要となる。更に、車の安全性確保のため車載機器は従来から高い信頼性が要求されているが、高度な電子制御化が進むほど益々厳しくなっている。このため開発リソースの確保が急務となっており、ソフトウェアプラットフォームの標準化など技術面での取組みと、人材の量と質を増強する仕組み作りが国策レベルで進められている。ここでは「自動車の知能化」の動向を紹介し、合せて「ものづくり」の観点から組込みソフトウェアの開発フローと品質確保への取組み例について現場目線で紹介する。



浅見 謙 (トヨタテクニカルディベロップメント)

1975年3月名古屋大学工学部電子学科修士課程卒業。

1975年4月トヨタ自動車(株)入社。電子技術部にて電子制御システムの製品設計、研究開発、企画を担当。

2002年4月(株)トヨタコミュニケーションシステムへ出向。電子技術分野の執行役員を担当。

2006年4月トヨタテクニカルディベロップメント(株)が発足。

現在、トヨタ自動車(株)より転籍。電子技術分野の執行役員を担当。

● [14:30-15:00] 講演3「3次元CADを活用した航空機開発の取組み」

【講演概要】

航空機開発は、その規模の大きさから一般的に共同開発が行われている。また部品点数が膨大で且つ複雑等々の他産業の製品とは異なる特徴がある。航空機開発に3D CADを有効に活用するためには、これらの特徴を踏まえたデータ管理や他社とのデータ共有を実現しなければならない。近年、各種ツールの機能向上により従来の紙の図面をベースにした開発プロセスが大きく変わり、3D CADをはじめとした各種デジタルデータを主体にした開発プロセスが採用されるようになってきた。このプロセスではデジタルデータを一元管理することにより整合性を高め、設計の上流から製造・検査まで一貫通貫で活用し、QCDの向上を図る仕組みを実現している。本講演では、これらの適用状況についての事例を紹介するとともに現在取り組んでいる新しいプロセス及びシステムについて説明し、3D CADを活用した航空機の「ものづくり」を明らかにする。



渡辺 光浩 (三菱重工)

1986年に三菱重工業(株)入社後、現名古屋航空宇宙システム製作所でCAD/CAMの作業を担当。

三菱重工業が参画したほとんどの新規航空機開発プロジェクトに参画。

現在では、システム部門の担当課長として名古屋航空宇宙システム製作所のシステム開発、ITインフラ構築等の責任者であると同時に、川崎重工業や富士重工業等の国内航空機メーカーの情報システムリーダーとして、ボーイング社との交渉も担当。

● [15:00-15:30] 講演4「現代ものづくりに生きる『機巧(からくり)』について」

【講演概要】

江戸時代に庶民に浸透した「からくり人形」が、ロボットを敵視するのではなく、ロボットに親しみを抱く日本人独特のロボット観を育んだ。このロボット観が産業用ロボットに対しても「私が主人だ」という作業者の思いを誘い、機械による自動化における人間の役割についても大きな影響を与えている。

本講演では、まず、江戸からくりの発展経緯をお話するとともに、代表的な座敷からくりである「茶運び人形」を実演を交えて紹介する。次に、現在「山車からくり祭」として全国各地に受継がれているからくり人形の演技と日本の先端技術との関わり、機巧(からくり)によるものづくり現場の「カイゼン」の具体例を示し、江戸からくりがものづくりの創意工夫の原動力ともなっていることをお話ししたい。

最後に、ロボット化、IT化が進む中、ホームロボットの進むべき道、情報革新時代における人とコンピュータ技術とのあり方などを考える皆様と一緒に考えたい。



末松 良一 (豊田高専)

豊田工業高等専門学校長・名古屋大学名誉教授。工学博士。1943年10月24日生まれ。

1966年名古屋大学工学部機械学科卒業。1971年名古屋大学大学院博士課程(後期課程)単位取得退学。

1975年名古屋大学工学部機械学科助手、講師、助教授を経て、1988年教授。

2005年4月から豊田工業高等専門学校長(現職)。専門は、機械制御、流体関連振動、メカトロニクス、画像処理工学。最近では、からくり人形、江戸のモノづくりなど調査研究にも従事。文部大臣表彰科学技術賞(理解推進部門)。2006年4月海外文化交流事業。(海外からくり公演)2004年4ヶ国、2006年2ヶ国訪問。

● [15:30-16:00] 講演5「ものづくり支援のためのいくつかの試み」**[講演概要]**

自動車会社を離れ、情報系大学で工業デザインやCAD・CAMと自由曲面設計に関する教育と研究に携わるようになって8年目を迎えた。CAD/CAMの練習題として造形物（動感のあるシェイプ）のデザイン開発をゼミ生に与える時がある。学生はデザイン出来ることが楽しみでウキウキと始めるものの、実はこれが難物で、「主題であるはずの動きがない」「先輩のモノマネでオリジナリティがない」「CADの入力図が書けない」と文字通り三重苦に襲われる。

考えてみれば、レベルこそ違えプロの世界にも似たような事象は存在したわけで、長期テーマとしてこの課題に取り組んでみた。三重苦を言い換えれば、「アイデア発想力問題」「形体弁別力問題」そして「立体解析力問題」である。

それらについてのソリューションを紹介し、ご意見ご批判を仰ぎたい。

興膳 生二郎（中京大）

写真および略歴は「近未来技術と情報科学－クリエイティブな「ものづくり」を支えるスキルとテクノロジー－」企画者挨拶を参照。

— 展示会のご案内 —

FIT2007 では会期中、以下企業・団体による展示会を 19 号館 3F アトリウムプラザで開催致します。

展示日時：5 日（水）10:00-16:00 6 日（木）10:00-16:00 7 日（金）10:00-15:00

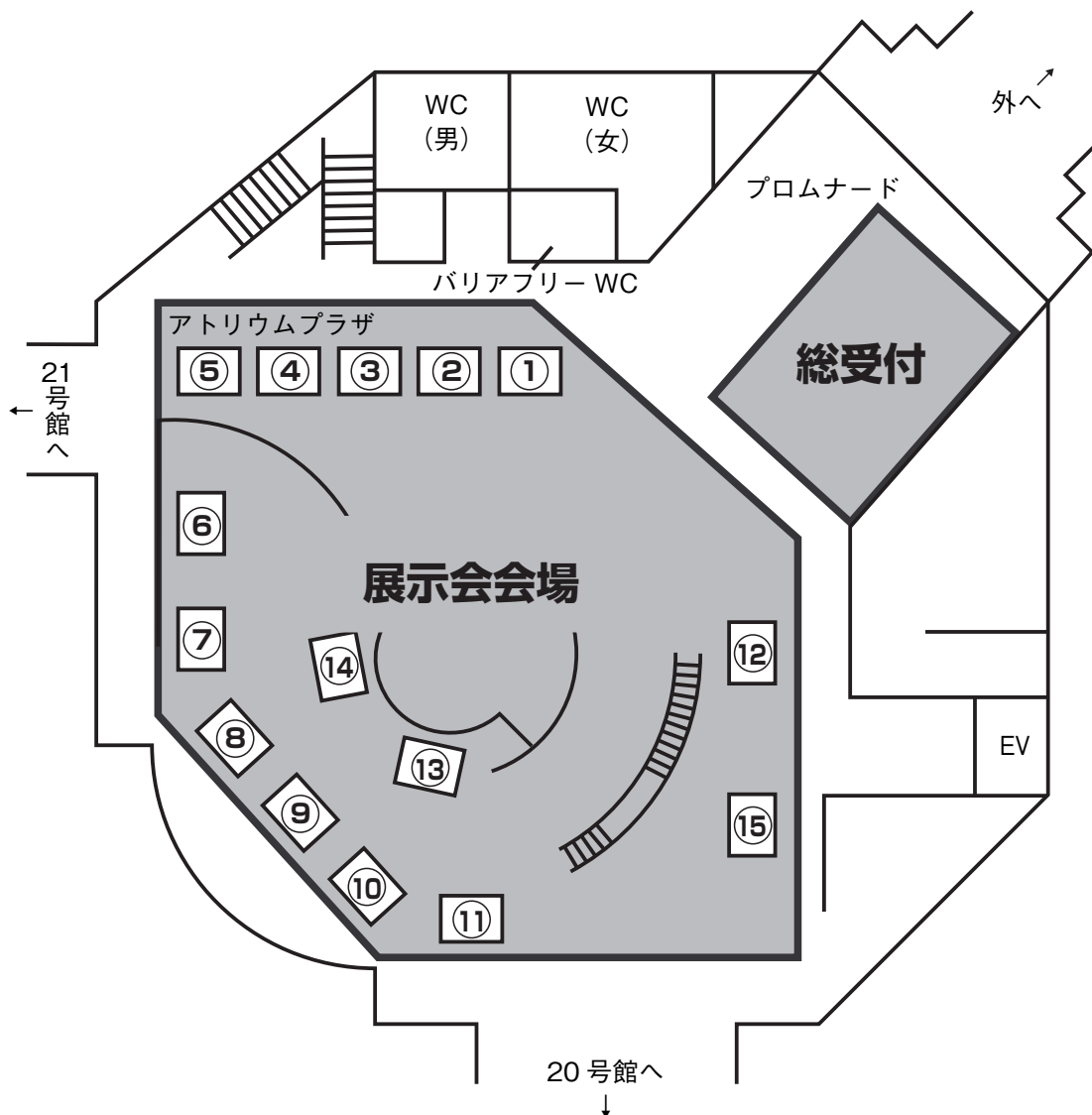
*③は 7 日（金）のみ。

ブース番号	出展者名・展示名・展示概要	
①	株式会社ユニメック http://www.unimec.co.jp/ 中京大学情報理工学部奥水研究室 http://www.koshi-lab.sist.chukyo-u.ac.jp/	展示名：似顔絵ロボット PICASSO-2 【展示概要】(株)ユニメックのロボット開発技術と中京大学情報理工学部奥水研究室にて研究中の似顔絵生成システム PICASSO-2 を融合させた似顔絵ロボットの展示を行う。この似顔絵ロボットは、カメラで撮影した人物の顔画像から顔部品を自動認識した後、人物の顔をシンプルな線画で表現し、特徴を際立たせるためのデフォルメを行った似顔絵を筆ペンにて色紙に描画するものである。デフォルメは、人間の平均的な顔(平均顔)との比較によりその人物の特徴を抽出するため、目が大きい人はより大きく、小さい人はより小さくなる特徴を持つ。
②	船井電機株式会社 http://www.funai.jp/	展示名：複眼光学系を応用した広角動き検出カメラ 【展示概要】船井電機では生物の複眼光学系を参考とした薄型の複眼カメラを開発してきました。複眼カメラの応用のひとつとして、複眼を構成する各個眼の光路上にプリズムを配置し、それぞれの個眼で異なる視野を撮像する広角カメラを開発しました。この広角カメラは光学歪みが小さいため、デジタル処理などによって歪みを補正することなく、実用的な画像を得ることが出来ます。また、撮像素子としてローリングシャッター方式の CMOS イメージセンサを搭載しており、異なるタイミングで各個眼の画像を撮像できるため、それらの差分から被写体の動きを検出することが出来ます。
③	NEC ソフトウェア中部 http://www.cnes.co.jp/	展示名：画像認識用並列プロセッサ IMAPCAR による車載画像認識アプリケーションの紹介 【展示概要】弊社では NEC エレクトロニクス製の画像認識用並列プロセッサ IMAPCAR を使用した車載画像認識アプリケーションの開発を行っている。本展示では、この IMAPCAR を使用したデモアプリケーションを 2 点出展する。1 点目は北米ライセンスプレート認証技術であり、北米の多種多様なナンバープレートカラーカメラにより認識が可能なことを特徴としている。本アプリケーションは、警備車両に設置したカメラから盗難車両や手配車両等をリアルタイムで認識し、犯罪捜査に生かすことを目的としている。2 点目は後方車両検出技術であり、自動車の後方に向けた単眼カメラから、同一及び隣接の車線に走行している車両の存在を認識することを特徴としている。本アプリケーションは合流や車線変更時における接触事故を防止することを目的としている。
④	三菱電機株式会社 http://www.mitsubishielectric.co.jp/	展示名：大規模実世界シミュレーションのための基盤技術 【展示概要】航空機、船舶、車両、人等の多数の移動体が登場する実世界シミュレーションは、主に、計算量が膨大になるという課題と、各移動体が複雑に影響を及ぼし合うためにシミュレーション結果の解析が困難となるという課題がある。本展示では、これらの課題を解決するために考案した、大規模移動体シミュレーションのための高速化技術と、何故そのような結果が得られたかを解明する因果関係解析技術を説明する。また、デモンストレーションでは、防災をテーマにこれらの技術の必要性及び効果を示す。
⑤	東海ものづくり創生協議会 デジタルコンテンツビジネス研究会 https://www.tokai-monodukuri.jp/index.php	展示名：融 YOU 合 GO ～ものづくり×IT×コンテンツ～ 【展示概要】デジタルコンテンツビジネス研究会 (DCB 研究会) は、平成 17 年 3 月に発足し、東海ものづくり創生協議会 (経済産業省が推進する産業クラスター計画) のもとで「デジタルコンテンツ産業とモノ作り産業とのネットワークの形成により、デジタルコンテンツを活用したビジネスの拡大、新商品の開発創生」を目的に活動しております。平成 18 年度は、IT ベンチャー企業、クライアント企業による、相互のニーズ・シーズを発表するプレゼンテーション大会を実施しました。本展示では、これら発表企業も含め、会員企業の製品、システムのご紹介を致します。平成 19 年度も、局職員が企業を直接訪問し、ニーズ・シーズのヒアリングを行い、ビジネスマッチングの成功例を一つでも多く輩出するため、多くの参加企業を募っております。
⑥	株式会社ロゼテクノロジ http://www.lossev.co.jp/index.html	展示名：自動欠陥検査装置 Ai Detector 【展示概要】 Ai Detector は正規最尤法を用いた、機械学習による自動欠陥検査装置です。 画素毎に特徴空間を設定し、サンプルの学習を行います。 ①汎化性能が優れているため、未知のサンプルを正しく分類できる、 ②学習サンプル自体に NG が含まれていても、それを含まない形で識別境界線を生成できる、 という二大特長があります。 詳細： http://www.lossev.co.jp/technical/pdf/ADS061204.pdf
⑦	電子システム株式会社 http://densys.jp/	展示名：プレゼンテーション自動収録システム 【展示概要】簡単操作で誰でもコンテンツ作成ができ、学内で行われるセミナーや講演を収録・保存に最適。コンテンツ作成に必要な機材をすべてパッケージ化しました。 詳細： http://www.tokyo.densys.co.jp/PDF/PresenSystem.pdf

ブース番号	出展者名・展示名・展示概要	
⑧	日本事務光機株式会社	展示名：高精度動画解析システムと視線追尾・解析システム及び小型高性能デジタルハイスピードカメラ記録 【展示概要】① DIPP-Motion PRO 運動解析ソフトは16台までのカメラに対応できる自動追尾方式（2値化処理法及びパターンマッチング法）による2D・3D高精度解析ソフト。② View Tracker 視線追尾・解析システムは本体をバッテリー駆動の windows PC に接続し簡単なキャリブレーションを行うだけで視線計測が可能な汎用型視線解析システム。③ HAS-500 高解像度小型デジタルハイスピードカメラは500FPS まで有効画素数1,024 × 992 で撮影でき縮小画像で最大4,000FPS まで撮影可能。
⑨	株式会社ナック イメージテクノロジー http://www.camnac.co.jp/	展示名：モーションキャプチャーシステム 【展示概要】リアルタイム3次元動作解析システム「MAC 3D System」、眼球計測装置「EMR-8B」、ハイスピードビデオ等、人の動作解析や視点解析を行う装置を展示致します。
⑩	スマッツ株式会社 http://www.smats.ecweb.jp	展示名：パーソナルロボット「914PC-BOT」 【展示概要】「914PC-BOT」は「誰もがロボットを」という思想で開発されたPCベースのロボットプラットフォームです。 特徴：①PCベースでオープン・スタンダードのため、研究開発に共通の基盤となるプラットフォーム。他の研究者による評価やコードの共通化が容易、②業界標準インターフェース（USB、Serial、IEEE1394）、③多数の既製品が組み込み可能、④Linux用、Windows用両ドライバをサポート、⑤教育・研究開発用プラットフォームに最適 その他中学、高校の技術教育を目的とした自走ロボット組立キット「ロボスプリント」も参考展示。安価でサポートが充実しているのが特色。 詳細： http://www.smats.ecweb.jp
⑪	中部テレコミュニケーション株式会社 http://www.ctc.co.jp/	展示名：CTCの情報通信サービス 【展示概要】中部テレコミュニケーション（CTC）は、中部電力グループの通信事業者です。総延長72,000kmにおよぶ独自の光ファイバー網で、高品質・高信頼の通信サービスを中部5県（愛知・岐阜・三重・長野・静岡<富士川以西>）のみならずにお届けしております。当ブースでは、CTCのビジネス向けネットワークサービスや、エリア拡大でますますご好評をいただいておりますFTTHサービス「コミュファ」についてご紹介いたします。
⑫	株式会社バッファロー http://buffalo.jp/	展示名：ホームネットワークへの取り組みを加速させるバッファロー 【展示概要】メモリやストレージ、ネットワーク機器などの分野で業界をリードするバッファローが目指す、今後の事業戦略は『ホームネットワーク市場』の開拓です。加速する情報のデジタル化に伴い、バッファローではテレビ、電話、パソコンなど様々なものをネットワークで結び、より便利で快適な社会の創造に貢献していきます。そんなバッファローでは共に VISION を分かち合える仲間を募集いたします。
⑬	株式会社ソリトンシステムズ http://www.soliton.co.jp	展示名：IronPort C シリーズ電子メールセキュリティアプライアンス 【展示概要】IronPort C シリーズは、大学・企業等の電子メールに関わる様々な問題に対して、包括的なソリューションを提供する電子メールセキュリティアプライアンスです。今日、電子メールは大学・企業活動に不可欠なコミュニケーションツールとなると同時に、攻撃者にとって魅力的なターゲットとなり、電子メールに関わる脅威は深刻度を増しています。刻々と進化する脅威に対して、IronPort C シリーズは、IP レピュテーション、Domain Key、VOF（Virus Outbreak Filters: ウイルス拡散防止フィルター）、コンテンツフィルターなど、最新のテクノロジーを駆使してお客様の電子メールシステムを保護します。 詳細： http://www.soliton.co.jp/products/cseries/index.html
⑭	日商エレクトロニクス株式会社 http://www.nissho-ele.co.jp/	展示名：新型プロジェクトを用いた遠隔授業システム 【展示概要】Barco 製 iCon と Polycom 製 VSX7000 を組み合わせた遠隔授業システムをご紹介します。Barco 製 iCon は高性能プロジェクトと WindowsXP インストール PC を同じ筐体に配備しております。PC 感覚で表示ウィンドウをリサイズ/移動可能であり、ストリーミングを流しながらのパワーポイントやグラフを表示し、スムーズな講義の実現致します。 詳細： http://www.barco.com/corporate/en/Products/product.asp?GenNr=1760 http://www.settop.jp/vsx7000.htm
⑮	株式会社ビジネスデザイン研究所 http://www.business-design.co.jp	展示名：パートナーロボットよりせい ifbot ・コミュニケーションロボットハローキティロボ 【展示概要】・よりせい ifbot 特長：①シニアから高齢者に対応した会話、②脳をトレーニングする15のコンテンツを搭載（計算、なぞなぞ、等）、③電源のオフ・オンはスイッチ一つのユニバーサルデザイン、④顔にはLEDを搭載し、目や口の動きなどで感情表現をし、ユーザーとコミュニケーションを図る。 ・ハローキティロボ特長：①ハローキティとのフレンドリーなコミュニケーションを実現、②頭や手の動き、ひげの発光でさまざまな感情を表現、③人を楽しませることや、多様なコミュニケーションが可能。 ※展示内容が変更する場合がございます

展示会場

(19号館 3階 アトリウムプラザ)



- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| ① 株式会社ユニメック／中京大学 | ⑧ 日本事務光機株式会社 |
| ② 船井電機株式会社 | ⑨ 株式会社ナック イメージテクノロジー |
| ③ NEC ソフトウェア中部 | ⑩ スマッツ株式会社 |
| ④ 三菱電機株式会社 | ⑪ 中部テレコミュニケーション株式会社 |
| ⑤ 東海ものづくり創生協議会
デジタルコンテンツビジネス研究会 | ⑫ 株式会社バッファロー |
| ⑥ 株式会社ロゼフテクノロジー | ⑬ 株式会社ソリトンシステムズ |
| ⑦ 電子システム株式会社 | ⑭ 日商エレクトロニクス株式会社 |
| | ⑮ 株式会社ビジネスデザイン研究所 |

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング（第1分冊）

【数理モデル化と問題解決 (1)】

9月5日(水) 10:00～12:00 1A会場(21号館1階 2111教室) 座長 北 栄輔(名大)

- LA-A001 A New Approach to Approximate the Collision Probability in an Automated Production Line
◎千葉英史・藤原洋志・茨木俊秀(関西学院大)
- A-001 推定値の類似度を考慮した共進化による分布推定アルゴリズム◎田村謙次(中央学院大)・鳥居隆司(相山女学園大)
- A-002 観光経路作成支援における代替観光経路の提案手法◎丸山加奈・山本雅人・大内 東(北大)
- A-003 8分格子モデルを用いた地形の特徴の認識システム◎呉羽 彬(日大)・横山隆介(UFJIS)・夜久竹夫・吉野大輔・小笠原善康(日大)・本橋友江(関東学院大)・土田賢省(東洋大)
- A-004 ウイルス進化論を用いた経路探索システムの開発と実装
◎国重裕史(立命館大)・吉川雅弥(名城大)・寺井秀一(立命館大)
- A-005 (講演取消)

【数理モデル化と問題解決 (2)】

9月5日(水) 13:00～15:00 2A会場(21号館1階 2111教室) 座長 栗原 聡(阪大)

- A-006 時間割作成問題に対する可変近傍タブーサーチの提案◎澤田めぐみ・中島克人(電機大)
- A-007 研究室配属モデルのシミュレーション◎檀 裕也(松山大)
- A-008 四人のジレンマゲームに基づいたネットワーク成長の解析◎豊田規人(北海道情報大)
- A-009 正方形一斉射撃アルゴリズムに関する考察◎池上正敏・梅尾博司(大阪電通大)
- A-010 最適マッチングに基づく患者紹介システムの構築◎但野友美・大内 東(北大)
- A-011 Mining Rebate Systems◎Charles Jordan(北大)

【数理モデル化と問題解決 (3)】

9月5日(水) 15:30～17:30 3A会場(21号館1階 2111教室) 座長 堀田 一弘(電通大)

- LA-A002 固体酸化物燃料電池における破壊ダイナミクスの可視化
◎福井健一(阪大)・佐藤一永・水崎純一郎(東北大)・斉藤和巳(NTT)・沼尾正行(阪大)
- A-012 Webサイトのアドレス圧縮によるクラスタリング◎佐藤 哲(オプトリンクス)
- A-013 低次元アトラクタによる全身運動遷移の手法◎望月雄飛・須鎗弘樹(千葉大)
- A-014 アンケート結果からの知識抽出に関する研究◎岩切広賢・平山正治(大阪工大)
- A-015 MTMフィルタとテンソル積展開による背景雑音推定◎板井陽俊・安川 博(愛知県大)

【アルゴリズム】

9月6日(木) 10:00～12:00 4A会場(21号館1階 2111教室) 座長 梅谷 俊治(電通大)

- LA-A003 ドビー織機における必要綜絢枚数の最小化◎松浦 勇・安藤正好(愛知県産業技研)・平田富夫(名大)
- LA-A004 Analysis of an Edge Coloring Algorithm Using Chernoff Bounds◎謝 旭珍・柳浦陸憲・小野孝夫・平田富夫(名大)
- A-016 DAGの高さを4以下に制限したタスクスケジューリングの近似アルゴリズムについて
◎清水豪樹(ソニーイーエムシーエス)・大山口通夫・山田俊行・紅林清志(三重大)
- A-017 Multi-Commodity Source Location Problems and Price of Greed
◎Kenya Sugihara・Hiro Ito(京大)・Mike Paterson(University of Warwick)
- A-018 Balanced (C_4, C_7) -2t-Foil Decomposition Algorithm of Complete Graphs◎潮 和彦(近畿大)
- A-019 (講演取消)

【アルゴリズムとコンピューテーション】

9月6日(木) 15:30～17:30 5A会場(21号館1階 2111教室) 座長 宮崎 修一(京大)

- A-020 「PvsNP」問題の解決：最終章◎山口人生(インターナショナル インテリジェント インフォメーション)
- A-021 EAN128における2カ所誤りの誤読率の検討◎坂出達郎・都倉信樹(鳥取環境大)
- A-022 QBE表骨格生成のためのグラフ平面描画手法◎亀井俊彰・能登谷淳一・草苺良至・笠井雅夫(秋田県大)
- A-023 三次元移動幾何オブジェクトの相互可視領域検索手法◎丹野芳史・草苺良至・能登谷淳一・笠井雅夫(秋田県大)
- A-024 (講演取消)

【プログラミング (1)】

9月7日(金) 10:00～12:00 6A会場(21号館1階 2111教室) 座長 中村 正樹(北陸先端大)

- A-025 オーディオ信号における類似性を用いた可逆圧縮についての考察◎高橋三四郎(信州大)・伊藤 誠(中京大)
- A-026 スクリプトインタフェースに基づく数値計算エンジンの再利用性向上◎古賀雅伸・◎田中俊行(九工大)
- A-027 信頼性を導入した構文エラー処理◎冷水 匠・竹森 彬・上田 誠・木山真人・芦原 評(熊本大)
- A-028 自己拡張可能な構文解析器生成系における構文解析手法の選択機能の実現
◎舞田純一・中井 央・佐藤 聡・長谷川秀彦(筑波大)
- A-029 プログラム図を用いたProlog学習支援環境◎古澤雄大・安達由洋(東洋大)
- A-030 ウェブサイトを構築するための関数型ビジュアルプログラミング言語「ゆば」◎三浦琢磨・佐藤幸弘(早大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[プログラミング (2)]

9月7日 (金)	13:00 ~ 16:00	7A 会場 (21 号館 1 階 2111 教室)	座長 西崎 真也 (東工大)
LA-005	移植可能な Superoptimizer による最適な命令パターンの自動生成とそのパターンによる覗き穴最適化 ◎蒲野茂幸 (東工大)・佐々木晃 (法大)		
LA-006	プロセス情報を利用した実実行時間予測と信頼度による予測選択手法 ◎丹野祐樹・菅谷至寛・阿曾弘具 (東北大)		
A-031	モデル検査系に対応する上位ハードウェア設計言語 Melasy ◎岩崎直木・和崎克己 (信州大)		
A-032	分散オブジェクトから π 計算プロセスへの変換系 ◎甲斐貴史・加藤 暢・樋口昌宏 (近畿大)		
LA-007	組合せ子 L の非循環性 ◎岩見宗弘 (島根大)		
LA-008	実行可能な代数仕様様の停止性証明について ◎中村正樹・二本厚吉 (北陸先端大)		
LA-009	項書き換えシステムの合流性自動判定 ◎吉田順一・青戸等人・外山芳人 (東北大)		

B 分野：ソフトウェア (第1分冊)

[高性能計算]

9月5日 (水)	13:00 ~ 15:00	2B 会場 (21 号館 2 階 2121 教室)	座長 藤井 昭宏 (工学院大)
B-001	URR 浮動小数点数のためのレイテンシを短縮した 64 ビット FPU の実装 ◎大山光男 (倉敷芸科大)		
B-002	Java 並列処理フレームワークのマルチコア環境における性能評価 ◎赤峰義明・古賀雅伸 (九工大)		
B-003	GPU を用いた 2 次元 FDTD 法の計算高速化 ◎高田直樹 (湘北短大)・増田信之・田中 喬・阿部幸男・伊藤智義 (千葉大)・下馬場朋禄 (山形大)		
B-004	大規模移動体シミュレーションを対象とした動的タイムステップ制御方式～通信モデル及び分散化の実現検討～ ◎尾崎敦夫・白石 将・渡部修介・古市昌一 (三菱)		
B-005	PC グリッド向け PNN アルゴリズムの評価 ◎肥塚拓也 (甲南大)		
B-006	Performance Evaluation of Treecode Algorithm for N-Body Simulation Using GridRPC System ◎Duy Truong Vinh Truong・Katsuhiko Yamazaki・Shigeru Oyanagi (立命館大)		

[OS 一般]

9月5日 (水)	15:30 ~ 17:30	3B 会場 (21 号館 2 階 2121 教室)	座長 光来 健一 (東工大)
B-007	マルチサーバ型 OS のドライバ即時復旧による可用性の向上 ◎尾崎亮太・日高宗一郎・児玉和也・丸山勝巳 (国立情報学研)		
B-008	組み込み用を目指した OS のセキュリティの研究 - MINIX 3 のセキュリティ機能の評価と強化の実験 - ◎川守田慶・野口健一郎 (神奈川大)		
B-009	セルフブート機能を持つマイクロベンチマークツールの開発 ◎岩元祐太 (熊本大)		
B-010	Mini-OS を用いた仮想計算機システム Xen の性能評価 ◎江藤幹典・梅野英典 (熊本大)		
B-011	バッチジョブ実行基盤と世代管理ファイル高信頼化方法の検討と実装 ◎細内昌明・遠藤 匠・向田康裕・山口俊朗・佐藤一浩・坂田啓一 (日立)		
B-012	携帯機器向け分散環境適応型サービス提供プラットフォームの提案 ◎奥山 玄・中川好久・才田好則・渡邊光洋・白井和敏 (NEC)		
B-013	Tender における OS 動作の把握を目的とした可視化情報の解析部の実現と評価 ◎川江純平・田端利宏・谷口秀夫 (岡山大)		

[要求分析]

9月6日 (木)	10:00 ~ 12:00	4B 会場 (21 号館 2 階 2121 教室)	座長 小林 隆志 (名大)
B-014	UML で記述された要求分析モデルからのプロトタイプ自動生成 ◎小形真平・松浦佐江子 (芝浦工大)		
B-015	拡張型ゴール指向要求分析法に関する研究 ◎王 峰・大原茂之・濱本和彦 (東海大)		
B-016	エンドユーザによる Web アプリケーション開発技法の提案と試作 ◎八木紀幸・中野武司 (明大)		
B-017	リバースエンジニアリングによる UML をベースとした拡張シーケンス図の生成 ◎堀田吉彦・大久保弘崇・粕谷英人・山本晋一郎 (愛知県大)・斉藤邦彦 (滋賀大)		
B-018	エンティティの振舞いに着目した Z による仕様記述と状態遷移規則の比較に基づく誤り検出法 ◎楊 洋・織田 健 (電通大)		
B-019	適切なクラス抽出を行うためのユースケース記述推敲支援 ◎山梨敦志・松浦佐江子 (芝浦工大)		

[ソフトウェア開発 (1)]

9月6日 (木)	15:30 ~ 17:30	5B 会場 (21 号館 2 階 2121 教室)	座長 山本晋一郎 (愛知県大)
B-020	値の可視化と検査機能を持つプログラミングシステム ◎實川祐児・六沢一昭 (千葉工大)		
B-021	ソフトウェア開発におけるデザイン進化のモデルの評価 ◎下滝亜里・青山幹雄 (南山大)		
B-022	監視制御システムにおけるプログラミングレス開発の支援 ◎甲斐啓文・津高新一郎・中田秀男・山内健司 (三菱)		
B-023	画像入力を伴ったグラフ電卓エミュレーション - 携帯電話への実装 - ◎伊藤哲也 (中京大)・藤城隆志 (レッドフォックス)・秦野やす世 (中京大)		
B-024	コード変換による強マイグレーション化モバイルエージェントの実現 ◎加藤史彬・櫻井康樹 (成蹊大)・田久保雅俊 (横河電機)・甲斐宗徳 (成蹊大)		

[ソフトウェア開発 (2)]

9月7日 (金)	10:00 ~ 12:00	6B 会場 (21 号館 2 階 2121 教室)	座長 福田 直樹 (静岡大)
B-025	デザインパターン分析による使用性評価のためのドメイン・モデリング・フレームワーク ◎横山一也・北島宗雄 (産総研)		
B-026	自動車の組み込みソフトウェア開発手法における一考察 ◎高嶋博之 (同志社大)・北 寿郎 (同志社ビジネススクール)		
B-027	Java プログラムからの再利用可能コンポーネントの自動抽出システム ◎轉法輪徳子 (静岡大)		

- B-028 再利用可能部品としての PIM の適用性実験……………◎天川美那・松浦佐江子 (芝浦工大)
 B-029 MDA モデル変換による GUI プロトタイプ生成手法
 ……………◎迎田 宙・岩田 一 (早大)・白銀純子 (東京女子大)・深澤良彰 (早大)
 B-030 3D シミュレーション画面を用いた開発支援ツール……………◎佐藤祐也・小林 洋 (東海大)

[Web コンテンツ]

9月7日(金) 13:00～16:00 7B会場(21号館2階 2121教室) 座長 中挟知延子 (東洋大)

- B-031 テレビ番組に対するコメントトラックバック生成システム
 ……………◎有安香子 (NHK 技研)・重野 寛 (慶大)・妹尾 宏 (NHK 技研)
 B-032 Web 閲覧履歴の並べ替えに基づく情報収集支援システムの試作……………◎滝 由貴・大園忠親・新谷虎松 (名工大)
 B-033 Web を用いた記事配信のための同期型メタ情報配信システム……………◎児玉政幸・伊藤正都・大園忠親・新谷虎松 (名工大)
 B-034 RDFa によるメタデータを活用した Web コンテンツ配信技術……………◎佐伯嘉康・相田 仁 (東大)
 B-035 博物館情報におけるメタデータスキーマ間の類似性に関する一考察……………◎秋元良仁・亀山 涉 (早大)
 B-036 Plagger サーバの構築……………◎坂田真幸・奥野 拓 (はこだて未来大)
 B-037 知識の関係性の試みるためのプログラム環境 - LKP……………◎河合一夫 (ニルソフトウェア)

C 分野：ハードウェア・アーキテクチャ (第1分冊)

[組込みシステムとコデザイン]

9月5日(水) 13:00～15:00 2C会場(21号館2階 2122教室) 座長 曾 剛 (名大)

- LC-001 ソフト・マクロ CPU を用いた FPGA 上でのマルチコア並列処理環境の実現と評価……………船附誠弘・山崎勝弘 (立命館大)
 C-001 設計仕様解析によるハード/ソフト最適分割システムの構築と評価……………梅原直人・◎和田智行・山崎勝弘 (立命館大)
 C-002 システムレベル設計における通信仕様モデルの探索……………◎木ノ嶋崇 (埼玉大)・小林憲貴 (インターデザインテクノロジー)・Nurul Azma Zakaria・松本倫子・吉田紀彦 (埼玉大)
 C-003 A Multiprocessor System for a Small Size Soccer Robot Control System
 ……………◎Ce Li・Takahiro Watanabe (早大)・Zhanyu Wu (大連理工大)
 C-004 リアルタイム OS における電力アウェアスケジューリング方式……………◎浅野智之・福岡久雄 (松江高専)
 C-005 組込み用 XML データベースの試作……………◎峯村治実・水口武尚・大塚義浩 (三菱)

[システム LSI 設計技術]

9月5日(水) 15:30～17:30 3C会場(21号館2階 2122教室) 座長 小松 聡 (東大)

- LC-002 プロセッサ設計支援ツールの設計・実装とハード/ソフト協調学習システムの評価
 ……………難波翔一郎・◎志水建太・山崎勝弘・小柳 滋 (立命館大)
 LC-003 バスブリッジを含む SoC アーキテクチャの設計空間探索手法……………◎小橋一寛・坂主圭史・武内良典・今井正治 (阪大)
 LC-004 マトリックス型超並列プロセッサのための処理分割手法の提案
 ……………◎中村 仁・田中浩明・坂主圭史・今井正治・武内良典 (阪大)
 C-006 OpenMP によるハードウェア動作合成システムの設計と検証……………中谷嵩之・◎松崎裕樹・山崎勝弘 (立命館大)
 C-007 GA を用いたフロアプラン専用エンジンの設計と試作
 ……………◎前田哲広 (立命館大)・吉川雅弥 (名城大)・寺井秀一 (立命館大)
 C-008 ハードウェア暗号モジュールによる BOA 防止策の提案……………◎李 碧波・上原 稔・森 秀樹 (東洋大)

[計算機アーキテクチャ]

9月6日(木) 10:00～12:00 4C会場(21号館2階 2122教室) 座長 小林良太郎 (名大)

- C-009 Smith-Waterman 法計算における省メモリ化アーキテクチャの開発……………◎杉江崇繁 (東京工大)・伊藤智義 (千葉大)
 C-010 CHAIN 手法を用いたプロセッサのアウトオブオーダー実行……………◎山根章吾・孟 林・小柳 滋 (立命館大)
 C-011 (講演取消)
 C-012 (講演取消)
 LC-005 自動メモ化プロセッサの消費エネルギー評価……………◎鳥崎裕介 (名工大)・池内康樹 (ACCESS)・津邑公暁 (名工大)・中島 浩 (京大)・松尾啓志 (名工大)・中島康彦 (奈良先端大)
 LC-006 消費電力を考慮したウェアラケーション型共有キャッシュ機構……………◎小寺 功・滝沢寛之・小林広明 (東北大)

[リコンフィギャラブルシステム]

9月6日(木) 15:30～17:30 5C会場(21号館2階 2122教室) 座長 久我 守弘 (熊本大)

- LC-007 アントコロニー最適化アルゴリズム専用ハードウェア
 ……………◎原田隆史 (立命館大)・吉川雅弥 (名城大)・寺井秀一 (立命館大)
 LC-008 Three stages pipelined MD5 implementation on FPGA……………◎Anh Tuan Hoang・山崎勝弘・小柳 滋 (立命館大)
 C-013 冗長二進数を用いた RSA 暗号回路……………◎山本和正・小柳 滋 (立命館大)
 C-014 (講演取消)
 C-015 FPGA を用いたリアルタイム画像処理に関する研究……………◎佐藤祥爾・田中和明・安部憲広 (九工大)
 C-016 画像処理と触覚センサを用いたトルク制御型ロボットアームによる物体操作
 ……………◎高見 誠・安部憲広・田中和明 (九工大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[計算機システムの高性能化]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6C会場(21号館2階 2122教室) 座長 森 敦司(富士通研)
- C-017 Cellプロセッサを用いた計算機合成ホログラム作成の高速化
◎白木厚司・柘植宗範・阿部幸男・市橋保之・増田信之・伊藤智義(千葉大)
- LC-009 GPUによる計算機合成ホログラムの高速化
阿部幸男・田中 喬・白木厚司・市橋保之・増田信之・伊藤智義(千葉大)
- C-018 2次元FFTの専用計算機 佐竹信一・廣井義明・◎鈴木裕也(東理大)・増田信之・伊藤智義(千葉大)
- LC-010 SMTプロセッサの実行時性能予測のためのハードウェアリソース競合解析
◎佐藤雅之・船矢祐介・小寺 功・滝沢寛之・小林広明(東北大)
- LC-011 イーサネットを用いた大規模クラスタネットワーク構築法
 ◎鯉湖道紘(国立情報学研)・大塚智宏(慶大)・工藤知宏(産総研)・天野英晴(慶大)
- C-019 市場メカニズムにもとづくQoS適応リソース割り当てシステムQARAMAMEの設計とシミュレーション
◎吉田英樹・崎山伸夫(東芝)

[ディメンダブルシステム]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7C会場(21号館2階 2122教室) 座長 岩崎 一彦(首都大)
- LC-012 Dependable Clock Design for Level Sensitive Clock Signal◎三浦幸也(首都大)
- C-020 ブロードサイドテスト用N回検出テスト集合のコンパクション手法
◎大江信宏・高瀬治彦・北 英彦・林 照峯(三重大)
- C-021 Non-Scan BISTを実現するRTLコントローラの最適化法◎高田篤史・山口賢一(奈良高専)
- C-022 二重化を用いたSmall World Cellular Neural Networksにおけるフォルト・トレランス実装
◎松本勝慶・上原 稔・森 秀樹(東洋大)
- C-023 故障挿入によるTMRプロセッサの耐縮退故障性評価◎丸本耕平・新井雅之・福本 聡・岩崎一彦(首都大)
- C-024 マスタの多重化による信頼性のある並列処理システムの提案◎高津麻季子・柳瀬龍郎・田村信介(福井大)
- LC-013 データ圧縮・暗号化及び誤り制御符号化機能を有する統合符号化法◎金子晴彦・藤原英二(東工大)

D 分野：データベース（第2分冊）

[サーバ・情報システム]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1D会場(21号館4階 2141教室) 座長 上田真由美(名大)
- LD-001 サーバ接続環境調査のための低負荷クローリング手法の検証 ……◎星野哲哉・中平勝子・三上喜貴(長岡技術大)
- D-001 管理ポリシーに準じた複数ストレージへの論理ユニット順次割当方式 ……○宮田美知太郎・長谷部賀洋(NEC)
- D-002 中規模IP-SANでの高多重度I/O処理の解析と性能向上手法 ……◎山口実靖(工学院大)・小口正人(お茶の水女子大)・喜連川優(東大)
- LD-002 携帯電話とプロキシサーバを活用した個人認証・個人情報伝送モデルの提案 ……◎田中 充(岩手県大)・勅使河原可海(創価大)
- D-003 ユーザ主導による異種システム間の情報連携:UClip ……◎井口圭一・小山和也(NEC)
- D-004 時変動実体を扱う情報システムの構築 ……◎並松鏡友(ヴァリユシステム)・田村浩一郎(中京大)

[情報検索]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1E会場(21号館4階 2142教室) 座長 原田 隆史(慶大)
- LD-003 Evaluating the Task of Finding One Relevant Document Using Incomplete Relevance Data ……◎酒井哲也(ニューズウォッチ)
- D-005 全文検索における精度向上・検索語の改良と語のバランスを考慮したスコア計算 ……◎菅 豊・佐藤隆士(大阪教育大)
- D-006 Web検索ログの検索時間間隔モデルに基づいた関連語の抽出 ……◎柳 阿礼・徳永幸生(芝浦工大)・杉崎正之・池田成宏(NTTレゾナント)
- D-007 ばねモデルを用いた検索結果のグラフィック表示手法 ……◎垣崎正宏・上原正利・小柳 滋(立命館大)
- D-008 相関ルールに基づく文書検索システム ……◎竹下日出男(日立)・◎大石哲也・長谷川隆三・藤田 博・越村三幸(九大)
- D-009 物語の場面抽出と場面連鎖の構造 ……◎藤井美緒・中山伸一・真栄城哲也(筑波大)

[データ管理]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2D会場(21号館4階 2141教室) 座長 小柳 滋(立命館大)
- D-010 タグ情報に基づくファイル管理システムと実用性の評価 ……◎阿部淳也・出石大志・堀 幸雄・今井慈朗(香川大)
- D-011 電子タグを用いた取納管理における階層的対象関係の自動判定 ……◎山田雅俊・小林勇人・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- D-012 電子タグへの書き込みによる停電を想定した避難支援 ……◎石井 悠・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- D-013 土木構造物に埋め込まれたRFIDタグを用いたデータ管理システム ……◎清水彰浩・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- D-014 市場動向分析のためのRFIDを用いた読者の興味ベクトル収集 ……◎西山真吾・江坂直紀・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- D-015 The Principles of Handling Process Object in A Method of Resolving Differences - Reconsidering Object 6 - ……◎Toshio Takahara(無所属)

[データ探索・情報検索]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2E会場(21号館4階 2142教室) 座長 酒井 哲也(ニューズウォッチ)
- D-016 ダブル配列を用いたAC法の照合アルゴリズム ……◎蔵満琢麻・松浦寛生・尾崎拓郎・望月久稔(大阪教育大)
- D-017 パトリシアを多分木に拡張したデータ構造の構築方法 ……◎尾崎拓郎・蔵満琢麻・松浦寛生・望月久稔(大阪教育大)
- D-018 大規模電子メールアーカイブシステム向け高速蓄積・検索方式 ……◎竹内丈志・加藤 守・中村隆頭・山岸義徳・郡 光則(三菱)
- D-019 ビット並列手法に基づく大規模連続ストリームパターン照合 ……◎斉藤智哉・喜田拓也・有村博紀(北大)
- D-020 プロパティ接尾辞木:メタデータ付き系列データのための効率よい索引構造 ……◎上村卓史・喜田拓也・有村博紀(北大)
- D-021 決定木を用いた顔データのキーワード付けに関する検討 ……◎川井優司・三澤直樹・伊藤秀昭・興水大和(中京大)

[データベース]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3D会場(21号館4階 2141教室) 座長 佐藤 秀樹(大同工大)
- D-022 制約論理プログラミングに基づくXMLデータベースの試作 ……◎驛 昌弥・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- D-023 情報セキュリティ工学データベースシステムISEDSのAPIの実現と応用 ……◎堀江大輔・後藤祐一・程 京徳(埼玉大)
- LD-004 ユビキタス環境における概念階層と行動履歴を用いた意味層構築支援 ……◎三玉政喜・富井尚志(横浜国大)
- D-024 データベースによって制御する物体探索ロボットの障害物を考慮した経路決定と移動制御 ……◎草野弘行・富井尚志(横浜国大)
- D-025 focus+context+glue マップのglue領域における道路ネットワーク総描法 ……◎小関章太郎・高橋直久(名工大)
- D-026 ラフ集合を用いた対象者との関係に基づく開示情報選定 ……◎小林勇人・鳥川博光(立命館大)

[ユーザ支援・推薦(1)]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4D会場(21号館4階 2141教室) 座長 伊藤 秀昭(中京大)
- D-027 興味推定に基づく自動推薦を利用したパーソナルナビゲーション ……◎中川陽介・石井 悠・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- D-028 品詞情報を用いた個人情報フィルタリング手法の提案 ……◎津田 侑・高田秀志(立命館大)
- D-029 個人向け料理レシピ推薦システムの検討 ……◎石原和幸・上田真由美・平野 靖・梶田将司・間瀬健二(名大)
- D-030 (講演取消)
- D-031 Bloggerの嗜好を利用した協調フィルタリングによるWeb情報推薦システムのためのクラスタリング手法の検討 ……◎奥山 透(電機大)・寺田道生(富士ゼロックス)・小原恭介(ユビキャスト)・山田剛一・絹川博之(電機大)・中川裕志(東大)
- D-032 最大エントロピー法に基づく推薦システムでのユーザ行動のモデル化 ……◎岩田具治・斉藤和巳・山田武士(NTT)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[ユーザ支援・推薦 (2)]

9月6日(木) 15:30～17:30 5D会場(21号館4階 2141教室) 座長 石川 佳治(名大)

- D-033 C2C型オンラインマーケットにおける商品の推薦システム
.....○林 達彦・伊藤裕介・上原子正利・小柳 滋(立命館大)
- D-034 (講演取消)
- D-035 次元圧縮を用いたクロスメディアレコメンデーション方式の提案
.....○柳原 正・帆足啓一郎・松本一則・菅谷史昭(KDDI研)
- D-036 興味ベクトル間の距離に関連性とみなした情報の整理○江坂直紀・樋口賢治・原田史子・島川博光(立命館大)
- D-037 評価指標の表現変更による嗜好の決定要因分析○布目直之・相馬孝宣・原田史子・島川博光(立命館大)
- LD-005 Relative Innovatorの発見によるパーソナライズ手法の提案 ○川前徳章・山田武士・上田修功(NTT)

[クラスタリング・分類]

9月7日(金) 10:00～12:00 6D会場(21号館4階 2141教室) 座長 高橋 直久(名工大)

- D-038 Hierarchical Clustering and Bisecting K-Means in producing Time Series Patent Map
..... ○Maryjane Andar・上原子正利・小柳 滋(立命館大)
- D-039 A Comparison of Automatic Document Classification Methods for Vietnamese Language
..... ○Giang Son Nguyen・上原子正利・小柳 滋(立命館大)
- D-040 多次元ベクトル表現を用いた興味のクラスタリング○樋口賢治・江坂直紀・原田史子・島川博光(立命館大)
- LD-006 局所更新に基づく逐次的な近傍グラフ構築手法 Hakim Hacid(Lyon 2 University)・○吉田哲也(北大)
- D-041 大規模社会ネットワークからのクラスタ構造の抽出○鶴見敏行(東工大)
- D-042 可変クラスタリングウィンドウによるトピック追跡システムの試作○平田紀史・大面忠親・新谷虎松(名工大)

[Web]

9月7日(金) 13:00～16:00 7D会場(21号館4階 2141教室) 座長 島川 博光(立命館大)

- D-043 利便性の高いSemantic Wikiの構築とその評価○児玉英一郎(岩手県大)・高橋希世士(日立東日本ソリューションズ)・王 家宏・高田豊雄(岩手県大)
- D-044 Blogクラスタリングのための関連ページ選択方法○戸田雄士・太田 学(岡山大)
- D-045 地理情報システムでのイベント管理に向けたBlog処理○安村祥子・池崎正和・渡邊豊英(名大)・牛尾剛聡(九大)
- D-046 Web上の表情情報を対象とした例示検索 ～表の構造的特徴の利用～
.....○前島一弥・横川智浩・山田剛一・絹川博之(電機大)・吉田 稔・中川裕志(東大)
- D-047 ccTLDを単位としたWebコミュニティ構造の分析○石原直幸・中平勝子・三上喜貴(長岡技科大)
- D-048 テキスト、リンク、時系列分析を用いたソーシャルメディアにおける話題分析○石田和成(鳥根県大)
- D-049 2種類の共起情報を用いた語彙的言い換えに基づくWeb検索 ○熊本忠彦(千葉工大)・田中克己(京大)

E分野：自然言語・音声・音楽(第2分冊)

[質問応答・推論]

9月5日(水) 10:00～12:00 1F会場(21号館4階 2143教室) 座長 永井 秀利(九工大)

- E-001 電子化国語辞書の知識に基づく自然言語質問文応答方式○日下裕介・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-002 質問に的確に回答する知的Web検索システム○源明和也・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-003 意味処理に基づく文からの回答生成方式○東 宏樹・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-004 簡条書き表現に着目した質問応答システム○杉山大輔(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- E-005 曖昧な情報要求に対する提案型応答の検討 ○木村泰知(小樽商科大)・荒木健治(北大)
- E-006 類推に基づいた類似分野における知識生成システム○伊田政樹・坂元盛浩・中嶋 宏(オムロン)

[言語資源]

9月5日(水) 10:00～12:00 1G会場(21号館5階 2151教室) 座長 増市 博(富士ゼロックス)

- E-007 YCAT: Webベースのコアパスアノテーションツール
.....○内海 慶・颯々野学・山田 薫・谷尾香里・前澤敏之(ヤフー)
- E-008 (講演取消)
- E-009 名詞と助数詞の呼応関係に基づく助数詞オントロジーの自動構築 ○白井清昭(北陸先端大)・徳永健伸(東工大)
- E-010 連想概念辞書とコアパスを組み合わせる曖昧性解消法○堤田恭太・岡本 潤・内山清子・石崎 俊(慶大)
- E-011 長さ制限のない未知語形態素候補の自動生成 ○後藤功雄・田中英輝(NHK)
- LE-001 生物医学文献での蛋白質名認識における過学習とTransductive SVMを用いた過学習の軽減 ○村田真樹(NICT)・三森智裕(奈良先端大/宮園特許事務所)・土井見一(ファーマセキュリティコンサルティング)

[文書分類・マイニング]

9月5日(水) 13:00～15:00 2F会場(21号館4階 2143教室) 座長 白井 清昭(北陸先端大)

- E-012 大規模記事群からの数値固有表現情報のテキストマイニング可視化○村田真樹(NICT)・一井康二(広島大)・馬 青(龍谷大/NICT)・白土 保・金丸敏幸・塚脇幸代・井佐原均(NICT)
- E-013 数値による新聞記事テキストマイニングシステムの提案 ○杉浦隆博(電機大)・吉田 稔(東大)・山田剛一・増田英孝(電機大)・中川裕志(東大)
- E-014 軽量のテキスト処理による部分類似文字列検出手法 ○竹田隆治(総研大)・高須淳宏(国立情報学研)
- E-015 係り受け関係を用いた共起語による適合フィードバック
.....○菅澤匡倫(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- E-016 表層情報のみを利用した英語母語話者/非母語話者の文書判別 ○永田 亮・掛川淳一(兵庫教育大)・淀 雅昭・深田剛継・宮井俊也・河合敦夫(三重大)
- E-017 時間情報を考慮したニュース記事のトピック分類とトピックの関連付け○坪井幸雄・絹川博之・山田剛一(電機大)

[多言語処理]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2G会場(21号館5階 2151教室) 座長 中岩 浩巳 (NTT)
- E-018 世界の多言語ニュースの収集と分類 ……◎佐々木慎・山田剛一・絹川博之(電機大)・中川裕志(東大)
- E-019 規則ベース翻訳の翻訳知識を利用した翻訳メモリ検索 ……◎釜谷聡史・知野哲朗(東芝)
- E-020 英語-ウイグル語機械翻訳のための従属節接辞の生成方式 ……○プラト カデル・山田剛一・絹川博之(電機大)
- E-021 大規模単言語コーパスの利用による機械翻訳用対訳辞書の新規連語獲得性能の向上 ……○丸津見毅(シャープ)・吉見毅彦(龍谷大)・小谷克則(NICT)・佐田いち子(シャープ)・井佐原均(NICT)
- E-022 SignWriting 生成のための手話語彙辞書の検討と構築 ……○松本忠博・原田大樹(岐阜大)・加藤三保子(豊橋技科大)・池田尚志(岐阜大)
- E-023 口裂周辺の筋電信号を用いた少数語彙世界における黙声単語認識 ……○永井秀利・谷口竜太郎・副島小波・中村貞吾・野村浩郷(九工大)

[音楽情報処理]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3E会場(21号館4階 2142教室) 座長 梶 克彦 (NTT)
- E-024 オクターブ関係の推定と階層構造に着目したパート形成 ……◎毛塚 学(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- E-025 楽曲群の組織化とユーザーの音楽的嗜好の可視化 ……◎小林広司・岡 夏樹(京大工繊大)
- E-026 HMMを用いた楽曲推薦システムの構築 ……◎鹿又広行・小林利彰・東海林智也(函館高専)
- E-027 楽譜記述言語と正規表現を用いた形式的楽曲分析 ……◎森本祥一(産業技術大)
- E-028 事例に基づく演奏表情生成システムにおける旋律と和声の構造を考慮した旋律断片自動生成 ……◎清水厚志(芝浦工大)・鈴木泰山(ピコラボ)・野池賢二(トランス・ニュー・テクノロジー)・金子雄介(日本総研)・徳永幸生(芝浦工大)
- E-029 感性語によるBGMの自動作曲 ……◎武藤 桂・服部元信(山梨大)
- E-030 マルコフ確率場を用いた自動作曲法 ……◎住田浩之・林 朗(広島市大)

[要約]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3F会場(21号館4階 2143教室) 座長 村田 真樹 (NICT)
- E-031 複数語句から象徴語句への換言可能性に関する考察 ……○渋谷英潔(北海学園大)・荒木健治(北大)・桃内佳雄・柄内香次(北海学園大)
- LE-002 要約事例を用例として利用したニュース記事要約 ……◎牧野 恵・山本和英(長岡技科大)
- E-032 テキスト構造に着目した学術論文の要旨自動生成のための重要文抽出 ……◎徳永康次(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- E-033 類似文書群特徴に基づく重要文抽出方式の実験評価 ……◎川越智吏・絹川博之(電機大)
- E-034 番組映像とクロズドキャプションの相関性を利用した番組生成モデルの検討 ……◎三浦菊佳・山田一郎・松井 淳・住吉英樹・八木伸行(NHK)
- LE-003 講義スライドへの書き起こしデータの対応付け ……◎柿元芳文・山本和英(長岡技科大)

[プログマイニング]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4E会場(21号館4階 2142教室) 座長 山田 一郎 (NHK 技研)
- E-035 SVMを用いたブログ自動分類システム ……◎村井基祐・佐川雄二・田中敏光(名城大)
- E-036 ブログサイトのカテゴリ分類システム ……◎備瀬竜馬・笠原博和・二本木智洋・森本光昭・高田政樹・中川 修(大日本印刷)
- E-037 blog記事からの不審者情報の抽出と分類 ……◎石井基一(電機大)・山田剛一(電機大/JST-CREST)・絹川博之(電機大)
- E-038 blog記事からのイベント関連情報の抽出 ……◎小林 聡(電機大)・山田剛一(電機大/JST-CREST)・絹川博之(電機大)
- E-039 ブログを用いた人物紹介キャッチコピーの自動生成 ……◎松田優貴・天沼 博・松澤和光(神奈川大)
- E-040 映画blogからの関心分析の検討 ……◎甲元香奈・青野雅樹・関 洋平(豊橋技科大)

[音声・信号処理]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4F会場(21号館4階 2143教室) 座長 山下 洋一 (立命館大)
- LE-004 単母音による歌唱音声スペクトルの統計的分析に基づく音色制御法の提案と評価 ……◎森勢将雅・田原佳代子・高橋 徹・入野俊夫・河原英紀(和歌山大)
- E-041 音声モーフィングのための母音スペクトル間区分線形写像の自動設計手法 ……◎高橋 徹・大西社登・森勢将雅(和歌山大)・坂野秀樹(名城大)・河原英紀・入野俊夫(和歌山大)
- E-042 韻律的特徴の分析に基づく感情制御規則の導出と合成音声による評価 ……◎河津宏美・大野澄雄(東京工科大)
- E-043 ミッシングファンダメンタル情報の抽出における結合音の影響に関する実験 ……◎飯富 裕・松岡孝栄(宇都宮大)
- E-044 異常音検知によるモータの品質検査法 ……◎南葉宗弘(東京学芸大)
- E-045 (講演取消)

[情報・知識抽出]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5E会場(21号館4階 2142教室) 座長 山本 和英 (長岡技科大)
- E-046 Web上の用語の説明を抽出・分類するシステム ……◎矢島健司・佐川雄二・田中敏光(名城大)
- E-047 新聞記事からの事件情報抽出 ……◎柴田裕亮・山村 毅(愛知県大)
- E-048 同一文中に出現する複数の節間における因果関係抽出の検討 ……○山田一郎・宮崎 勝・三浦菊佳・住吉英樹・八木伸行(NHK)
- E-049 番組検索のための登場人物の関係抽出 ……○後藤 淳(NHK技研)・関根 聡(ニューヨーク大)・八木伸行(NHK技研)
- E-050 人名の特徴に基づく人名固有名詞概念の属性獲得手法 ……◎河部匡剛・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-051 表の属性間の階層関係抽出 ……◎山口智由・青野雅樹(豊橋技科大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[音声認識・音源方向推定]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5F会場(21号館4階 2143教室) 座長 速水 悟(岐阜大)
- LE-005 嗜好性パターンに着目したマイクロフォンアレイにおける雑音除去……………◎鈴木優一・石田義久(明大)
- E-052 パージンを許容するロボット音声対話のためのICAを用いたセミブラインド音源分離……………◎武田 龍(京大)・中臺一博(ホンダRIJ)・駒谷和範・尾形哲也・奥乃 博(京大)
- E-053 機械雑音混入音声中の音韻キュー探索による話者方向の同定……………◎沼波 宰・藤原真志・川端 豪(関西学院大)
- LE-006 音響信頼度に基づく動的特徴量統合を用いた全方位マルチモーダル話者方位推定の検討……………◎傳田遊亀・西浦敬信・山下洋一(立命館大)
- E-054 画像特徴量誤りによる視聴覚融合音声認識の認識率低下の抑制法……………◎吉田孝博・半谷精一郎(東理大)
- E-055 VADが音声認識性能に与える影響……………◎草水智浩・山本一公(豊橋技科大)・北岡教英(名大)・中川聖一(豊橋技科大)

[意見・評判分析]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6E会場(21号館4階 2142教室) 座長 奥村 明俊(NEC)
- E-056 クエリの主観性に頑健な商品検索システム……………◎杉木健二・松原茂樹(名大)
- E-057 議員発言録からの重要単語抽出システムの提案…………… 渋谷英潔(北海道学大)・◎木村泰知(小樽商科大)・山崎記敬(中小企業診断協会北海道支部)
- E-058 放送に対する反響抽出の課題……………◎小早川健(NHK)
- E-059 コミュテントTM記事からのシーンメタデータ抽出実験と評価……………◎山崎智弘・筒井秀樹・浦田耕二・福井美佳(東芝)
- E-060 体言止め表現に基づく感情推定と応答の自動生成……………◎鈴木信雄・津田和彦(筑波大)
- E-061 常識的量判断システムの構築-量に関する相対的評価の拡張……………◎佐藤祐介・渡部広一・河岡 司(同志社大)

[音声対話・理解]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6F会場(21号館4階 2143教室) 座長 大淵 康成(日立)
- E-062 家庭用ロボットのための語彙制限の無い発話の頑健な学習と理解……………◎木村法幸・岩橋直人(NICT)・中野幹生・船越孝太郎(ホンダRIJ)
- E-063 Context Dependent Class Language Model Based on LSA……………◎Welly Naptali・土屋雅稔・中川聖一(豊橋技科大)
- E-064 ウェブニュース提供のためのペイジアンネットと格フレームを用いたユーザの興味構造表現……………◎東原智幸・三吉達夫・市川伸明・渥美雅保(創価大)
- E-065 個人適応的音声ニュース提供システムにおける対話戦略……………◎三吉達夫・東原智幸・渥美雅保(創価大)
- LE-007 マルチドメイン音声対話システムにおける想定外発話への対処のためのWebを用いたシステム知識の拡張……………◎池田智志・駒谷和範・尾形哲也・奥乃 博(京大)
- LE-008 音声認識結果とコンセプトへの重みづけによるWFSTに基づく音声言語理解の高精度化……………◎福林雄一朗・駒谷和範(京大)・中野幹生・船越孝太郎・辻野広司(ホンダRIJ)・尾形哲也・奥乃 博(京大)

[対話]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7E会場(21号館4階 2142教室) 座長 松原 茂樹(名大)
- E-066 相手の感情を考慮した対話システム……………◎小倉 徹(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- E-067 自由対話のための語の関連性に基づく応答文生成……………◎佐藤 和・福田雅志(東理大)・佐野智久(慶大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- LE-009 ロボットとの対話によるマルチメディアブログ創作と評価……………◎奥村明俊・池田崇博・西沢俊広・安藤真一・安達史博(NEC)
- E-068 (講演取消)
- E-069 感情判断に基づくコンピュータ会話応答文生成方式……………◎岡崎雄亮(同志社大)
- E-070 コンピュータ会話における非常識文の抽出及びその応答方式……………◎倉永久仁彦・吉村枝里子・渡部広一・河岡 司(同志社大)
- E-071 実況チャットデータを用いた視聴者クラスタリング手法……………◎有安香子・金次保明(NHK 技研)

[音声システム・鳥類音声]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7F会場(21号館4階 2143教室) 座長 駒谷 和範(京大)
- E-072 音声入力機能を有する対話型Webアプリケーションの公開試験……………◎西村竜一(和歌山大)・三宅純平(奈良先端大)・河原英紀・入野俊夫(和歌山大)
- E-073 適応的処理を用いた音声認識利用による楽曲検索システムの設計……………◎大山博延・樽松 明・白井克彦(早大)
- E-074 可変長Nグラムモデルを用いたジュウシマツの歌構造解析手法に関する研究……………◎常田宏和(電通大)・笹原和俊(理研)・西野哲朗(電通大)・高橋美樹・岡ノ谷一夫(理研)
- E-075 K-means法を用いたジュウシマツの歌の音素分類に関する研究…………… 小松靖直(東工大)・◎柿下容弓(電通大)・笹原和俊(理研)・西野哲朗(電通大)・高橋美樹・岡ノ谷一夫(理研)
- E-076 音声情報を用いた夜行性鳥類の種識別……………◎岩崎祐介・三田長久・牧野洋平・高橋幸司・シーパチャン カムケオ(熊本大)
- E-077 雑音の平均値を用いた長時間音声からの野鳥の鳴き声の抽出……………◎牧野洋平・三田長久・岩崎祐介・高橋幸司・Sypachanh Khamkeo(熊本大)
- E-078 野鳥の音声データの圧縮による種識別への影響の検討……………◎高橋幸司・三田長久・牧野洋平・岩崎祐介・シーパチャン カムケオ(熊本大)

F 分野：人工知能・ゲーム（第2分冊）

[強化学習]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1H会場(21号館5階 2152教室) 座長 大須賀昭彦(電通大)
- LF-001 Profit Sharing の学習の合理性に関する理論的考察○北川 哲・田村直之(神戸大)
- F-001 複素強化学習において行動価値を多重化する効果について◎澁谷長史・島田慎吾・濱上知樹(横浜国大)
- LF-002 価値関数族の区間推定を用いた多目的強化学習法◎吉田 学・平岡和幸・三島健稔(埼玉大)
- F-002 (講演取消)
- F-003 PS-GTRを用いたマルチエージェント強化学習システムにおけるロバスト性◎中畑一宏(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
- F-004 (講演取消)

[Web インテリジェンス]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2H会場(21号館5階 2152教室) 座長 北村 泰彦(関西学院大)
- F-005 コミュニケーション活動を考慮した SNS モデルの提案◎石田 健・鳥海不二夫・石井健一郎(名大)
- F-006 ペイジアンネットワークを用いた大規模 Web 推薦システムの開発◎山崎敬広・ボクボン ソムアン(電通大)・石山 洸・高田健一郎(リクルート)・植野真臣(電通大)
- F-007 ブログを用いた Web サービス型情報共有・推薦システム「HARMO」の開発◎山下晃弘・川村秀憲・山本雅人・大内 東(北大)
- F-008 Web エージェントに基づく Web アプリケーション開発環境の試作◎中村正人・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- F-009 DOM 木解析に基づく携帯電話用 Web ページへの変換手法について◎浅見昌平・大園忠親・新谷虎松(名工大)
- F-010 DOM ツリー解析に基づく Web ページへの付箋貼付けシステム◎佐野博之・大園忠親・新谷虎松(名工大)

[データマイニング]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3G会場(21号館5階 2151教室) 座長 岩沼 宏治(山梨大)
- F-011 頻出ボタンマイニングのためのゼロサプレス型 BDD の変数順序付け方法の高速化の検討◎岩崎支弥・湊 真一・Thomas Zeugmann(北大)
- F-012 頻出ボタン集合を表現する二分決定グラフの変数順序改善法に関する実験と考察Thomas Zeugmann・湊 真一・◎磯松紘平(北大)
- LF-003 構造同値に基づくリンク解析を用いた Web 文書からのキーワード抽出◎山下長義・福井健一・森山甲一・沼尾正行・栗原 聡(阪大)
- F-013 ゼロサプレス型 BDD を用いた無順序 n-gram 表現法の性能評価◎倉井龍太郎・湊 真一・Thomas Zeugmann(北大)
- F-014 ブロガーの注目情報を用いた株価変動予測の試み◎灘本裕紀・堀内 匡(松江高専)
- F-015 分散重み付き相関係数を用いた協調フィルタリング手法◎岡遼太郎・長井隆行(電通大)
- LF-004 ユーザーの事前知識を統合するペイジアン・ネットワーク・ソフトの開発◎植野真臣(電通大)

[人工生命とシミュレーション]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3H会場(21号館5階 2152教室) 座長 鍋島 英知(山梨大)
- F-016 (講演取消)
- F-017 人工生態系モデルにおける個体の実行時間割り当て方法について◎片野 剛・大坪統一・植田佳典(東洋大)
- F-018 3次元空間におけるデジタル生物の進化実験◎野口聖二(東洋大)
- LF-005 フェロモンを介したエージェント協調モデルによるセンサー隣接関係構築法の提案玉置 洋・福井健一・沼尾正行・◎栗原 聡(阪大)
- F-019 マルチエージェントによる学習効果の考察◎隅田 篤・原嶋勝美(大阪工大)
- F-020 大規模移動体シミュレーションにおける因果関係解析手法◎青山 功・古市昌一(三菱)
- LF-006 セルの入出力観測に基づくセルオートマトンの定量的分析◎高橋春樹・川村秀憲・山本雅人・大内 東(北大)

[マルチエージェントシステム]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4G会場(21号館5階 2151教室) 座長 松原 繁夫(京大)
- LF-007 Mymixi management Supporting Agent based on Logic of Multiple-valued Argumentation◎栗原秀輔(新潟大)
- LF-008 大規模自律エージェントシステムにおける契約ネットプロトコルの効率特性◎菅原俊治(早大)・福田健介(国立情報学研)・廣津登志夫(豊橋技科大)・栗原 聡(阪大)
- LF-009 短時間近似が可能な組み合わせオークション勝者決定アルゴリズムの評価◎福田直樹(静岡大)・伊藤孝行(名工大)
- LF-010 確率的な分散制約最適化手法を用いたセンサ網の資源割り当て手法の提案◎貝嶋浩次・松井俊浩・松尾啓志(名工大)
- F-021 エージェントシステムと非エージェントシステムとの再利用可能な接続機構の開発◎前村貴秀(東北大)・打矢隆弘(名工大)・今野 将・木下哲男(東北大)
- F-022 多論点交渉問題におけるエージェントの公開情報の調整に基づく交渉手法◎藤田桂英・伊藤孝行(名工大)

[AI 応用システム]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4H会場(21号館5階 2152教室) 座長 服部 宏充(京大)
- F-023 携帯端末の時空間的利用情報からの特徴的行動パターンの抽出と予測◎松本光弘・清原良三・福井秀徳・沼尾正行・栗原 聡(阪大)
- F-024 番組字幕を利用したマルチメディア健康百科事典構築に関する検討◎宮崎 勝・山田一郎・三浦菊佳・住吉英樹・八木伸行(NHK 技研)
- F-025 メタデータに基づくナビゲーションコンテンツ生成法◎二宮 瞬・服部丈夫・上ノ山広基(立命館大)
- F-026 話題特化型対話システムの設計と評価◎原 大曜・鳥海不二夫・石井健一郎(名大)
- F-027 所在地に着目した観光地情報検索支援システム◎小宮山博之(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

F-028 ネットオークションでの取引関係の可視化システム◎小林真雄・伊藤孝行(名工大)

[マルチエージェント理論]

9月6日(木) 15:30～17:30 5G会場(21号館5階 2151教室) 座長 伊藤 孝行(名工大)

F-029 分散制約最適化手法を用いたコアロケーションスケジューリングへの適用◎行方裕紀・松井俊浩・松尾啓志(名工大)

LF-011 不確実な状況下における協調プラン探索法への通信の導入◎田崎 誠・藪 悠一・横尾 真・岩崎 敦(九大)

F-030 キーワードオークションの Locally Envy-Free 均衡に基づく支払額決定機構の提案◎山本拓也・伊藤孝行(名工大)

F-031 ジレンマ状況における協調・敵対の選択メカニズム◎大橋資紀・加藤 慧・寺田和憲・伊藤 昭(岐阜大)

F-032 繰り返し非ゼロ和ゲームにおける人の協調心理の分析 - 3CardsGame を用いて -
.....◎加藤 慧・大橋資紀・伊藤 昭・寺田和憲(岐阜大)

F-033 四人のジレンマゲームにおける Q 学習による協調の維持◎森山甲一(阪大)

[遺伝的アルゴリズム]

9月6日(木) 15:30～17:30 5H会場(21号館5階 2152教室) 座長 堀井 宏祐(山梨大)

F-034 確率的選択法を用いた分布推定アルゴリズム◎武田典久・末松伸朗・林 朗(広島市大)

F-035 n-BDD の遺伝的操作の提案とロボットの運動生成への適用による評価
.....◎加納政芳(中京大)・鈴木悠司・伊藤英則(名工大)

LF-012 確率的に表現型が決まる二倍体 GA を用いた動的環境下での最適化に関する研究◎小南 学・濱上知樹(横浜国大)

F-036 大規模問題における階層型並列分散遺伝的アルゴリズムの影響についての考察
.....◎小嶋和徳・石亀昌明・Chakraborty Goutam(岩手県大)・牧野正三(東北大)

F-037 遺伝的プログラミングを用いた論理回路合成における出力分解の適用◎松井小百合・石田康太郎・新井浩志(千葉工大)

F-038 生物学的手法によるニューラルネットワークの進化・学習 - 生物の感情獲得シミュレーション -
.....◎森田晋一郎・恩田宜和・月本 洋(電機大)

[ゲーム]

9月7日(金) 10:00～12:00 6G会場(21号館5階 2151教室) 座長 西野 哲朗(電通大)

F-039 缶蹴りゲームにおける鬼の戦略学習◎糸山隆司・六沢一昭(千葉工大)

F-040 数独問題を評価するための指標に関する一考察◎石田伸輔・岩波 拓・高瀬治彦・北 英彦・林 照峯(三重大)

F-041 ブリッジのオークション練習プログラム(問題と解説の自動生成について)◎崔 雄・上原貴夫(東京工科大)

F-042 コンピュータゲームにおけるインタラクティブ性の研究◎久下智弘・松下宗一郎(東洋大)

F-043 Using MMOG to Promote Effective Instructional Design in Mobile Learning
.....◎Mohd Firdaus Md Khalid・亀山 涉(早大)

F-044 野球知識ベースを用いたダイジェスト制作システムの開発◎宮崎 勝・小早川健・後藤 淳・八木伸行(NHK 技研)

[推論と学習]

9月7日(金) 13:00～16:00 7G会場(21号館5階 2151教室) 座長 鍋島 英知(山梨大)

LF-013 パターン情報ベースの命題論理式のための推論機の提案
.....◎須藤明人・坪山 学・張シンリ・佐藤彰洋・長谷川修(東工大)

F-045 マルチコア環境に向けた高速並列 SAT ソルバの開発◎高見明秀・鍋島英知・岩沼宏治(山梨大)

F-046 エルブラン領域計算の効率化の一手法◎何 立風(愛知県大)・巢 宇燕(名産大)・
中村剛士・Zhenghao Shi・伊藤英則(名工大)

F-047 知能を持つようになる脳の仕組み - 人を模倣したヒューマノイドの創造に向けて -◎長谷川勝夫(名大)

F-048 オンライン学習機能を持った制御系設計と自動操縦車両への適用
.....◎田村悠一郎・瀬田 至・岸田太一・泉名克郎(富士重工)

F-049 オンライン制御パラメータ最適化手法の開発と自動車開発への適用◎岸田太一・瀬田 至・泉名克郎(富士重工)

LF-014 画像修復における確率伝搬法を用いた EM アルゴリズムについての一考察◎井上 佳・田中和之(東北大)

F-050 GES による補正を行った情報量に基づくパラメータ推定法の評価◎藤本 悠・村田 昇(早大)

G 分野：生体情報科学 (第2分冊)

[ニューロコンピューティング (1)]

9月5日(水) 10:00～12:00 1J会場(21号館5階 2153教室) 座長 麻生 英樹(産総研)

LG-001 ノイズのある環境下でオンライン学習が可能な自己増殖型ニューラルネットワークを用いた連想記憶モデル
.....◎須藤明人・佐藤彰洋・長谷川修(東工大)

G-001 OpenGL を用いた自律移動ロボットの学習シミュレーション◎富士原良平・堂蘭 浩(佐賀大)

G-002 自己組織化マップを用いたアミノ酸配列の解析◎高橋剛志・堂蘭 浩(佐賀大)

G-003 自己組織化マップ(SOM)の耐故障性向上のための多重冗長モデルの提案と評価
.....◎河村吾吾・森 秀樹・上原 稔(東洋大)

G-004 損傷したニューラルネットワークにおける再学習法の検討
.....◎黒川秀行・Goutam Chakraborty・馬淵浩司・松原雅文(岩手県大)

G-005 階層型ニューラルネットワークの入出力関係を変えずに耐故障性を高める構築法
.....◎真弓正彦・高瀬治彦・北 英彦・林 照峯(三重大)

[ニューロコンピューティング (2)]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2J会場(21号館5階 2153教室) 座長 相原 威(玉川大)
- LG-002 SpikePropの誤差曲面に対する一考察……………◎藤田 優・高瀬治彦・北 英彦・林 照峯(三重大)
- LG-003 空間・時間選択性に基づく海馬CA3の分離と時系列曖昧性解消への関与……………◎佐村俊和(慶大)・服部元信(山梨大)・石崎 俊(慶大)
- G-006 菌状回における神経新生を考慮した海馬モデル……………◎若木裕子・服部元信(山梨大)
- G-007 海馬CA1におけるデンドライトの入力間相互作用……………◎近藤将史・池田良輔・福島康弘・塚田 稔・相原 威(玉川大)
- G-008 海馬CA1回路網の情報処理における抑制性細胞の役割……………◎吉田典弘(相模女子大)・奥石健一・紫雲大輔・相原 威(玉川大)
- G-009 グリッドポータルによる神経回路モデルのシミュレーション……………◎田中栄二・神山斉己(愛知県大)

[ニューロコンピューティング (3)]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3J会場(21号館5階 2153教室) 座長 工藤 博章(名大)
- G-010 X型網膜神経節細胞の空間情報処理モデルに関する研究……………◎古澤優希・神山斉己(愛知県大)
- G-011 網膜桿体視細胞ネットワークの2次元モデル……………◎宮本侑典・神山斉己(愛知県大)
- G-012 網膜神経節細胞におけるイオンチャネルの確率論的特性とスパイク発火特性……………◎松井 遼・神山斉己(愛知県大)
- G-013 網膜ON型双極細胞の光応答レンジに関するイオン電流モデルによる解析……………◎石原彰人(中京大)・神山斉己(愛知県大)・臼井支朗(理研)
- LG-004 虹彩模様の回転方位認識に関する検討……………◎川崎 剛・高野博史・中村清実(富山県大)
- G-014 AEHモデルによる顔認識のための顔領域抽出法……………◎山崎勇樹・高野博史・中村清実(富山県大)
- G-015 回転およびサイズ認識を組み合わせた未学習顔の識別……………◎高野博史・中村清実(富山県大)

[ニューロコンピューティング (4)]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4J会場(21号館5階 2153教室) 座長 和久屋 寛(佐賀大)
- G-016 小鳥の歌文法を再現するニューラルネットワーク……………◎小谷潤一郎・森康久仁・松葉育雄(千葉大)
- G-017 ダフィンガ方程式によるカオスニューラルネットワークの機能……………◎田中稔次朗(広島県大)・日浦悦正(福山職能短大)・山本伊織(広島県大)
- G-018 デジタル型通時誤差逆伝搬法による有限状態オートマトンの学習……………◎長沼秀典・丸山勇介・大塚隆文・渡辺一央(北海道工大)
- G-019 補助ネットワークを用いたデジタル型BPによる恒等写像……………◎丸山勇介・長沼秀典・大塚隆文・渡辺一央(北海道工大)
- G-020 デジタル型BPによるベクトル量子化……………◎生駒 史・丸山勇介・長沼秀典・大塚隆文(北海道工大)
- G-021 リカレントネットを用いた翻訳と記号操作的処理の探求……………◎住井泰介・岡 夏樹(京都工繊大)

[ME・バイオ情報]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6H会場(21号館5階 2152教室) 座長 関嶋 政和(産総研)
- G-022 表面筋電位の変化に対応した動作識別法の提案……………◎奥村 大・田村宏樹・淡野公一(宮崎大)
- G-023 平衡神経・眼球運動シミュレータを用いた良性発作性頭位めまい症の治療支援……………◎吉村昌悟・御堂義博・中前幸治(阪大)・今井貴夫(関西労災病院)・関根和教(屋島総合病院)・武田憲昭(徳島大)
- G-024 時間領域拡散光トモグラフィ像再生精度検討・光吸収係数変化位置及び変化量依存性……………◎松浦啓文・北野健太・谷藤忠敏(北見工大)
- G-025 FDTD法を用いた時間領域光トモグラフィ像再生時間短縮法の検討……………◎北野健太・松浦啓文・谷藤忠敏(北見工大)
- LG-005 パターン光投影によるベダルこぎ運動中の非接触呼吸計測……………◎青木広宙・市村志朗・清岡 智・越地耕二(東理大)
- G-026 fMRIを用いた仮現運動刺激時の賦活部位の推定……………◎関川康太・王 力群・川澄正史(電機大)
- G-027 遠隔介護支援システムのための非接触型目入力装置の高信頼化……………◎畑 昭彦・高野博史・中村清実(富山県大)

[ME・医用画像]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7H会場(21号館5階 2152教室) 座長 北坂 孝幸(名大)
- G-028 聴覚刺激に対する生体反応評価の基礎的研究……………◎牧野一起・沖田善光・高橋 勲・平田 寿・杉浦敏史(静岡大)
- G-029 三つの視覚刺激を有するオッドボール課題における事象関連電位早期成分の検討……………◎西平幸史・沖田善光・高橋 勲・平田 寿・杉浦敏文(静岡大)
- G-030 常時利用可能なヘッドセット型疲労モニタリングシステム……………◎松下宗一郎・志波 歩(東洋大)
- G-031 多時相X線CT像による肝がん自動検出システム……………◎渡辺恵人・目加田慶人・長谷川純一・鳥脇純一郎(中京大)・篠崎賢治(九州がんセンター)・縄野 繁(国際医療福祉大)
- G-032 高精度線量分布のためのハードウェアによる高速モンテカルロ計算……………◎明上山温・齋藤秀敏(首都大)
- G-033 EPID画像による腫瘍の3次元位置取得の研究……………◎小川博明(都立保健科学大)・明上山温・齋藤秀敏(首都大)
- LG-006 ボクセル集合からの四面体モデル生成の線形計算量アルゴリズム……………◎TrungDung Truong・北坂孝幸・森 健策・末永康仁(名大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

H 分野：画像認識・メディア理解（第3分冊）

[パターン認識基礎]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1K会場(21号館5階 2154教室) 座長 堀池 聡(兵庫大)
- H-001 学習を伴った近傍平均パターンを利用する識別法◎堀田政二(農工大)
- H-002 階層隠れCRFの提案◎杉浦文朗・林 朗・後藤直人・末松伸朗・岩田一貴(広島市大)
- H-003 半正定値計画法による時系列データの埋め込み◎成田浩之・林 朗・末松伸朗・岩田一貴(広島市大)
- H-004 確率密度推定を用いたRDSP法によるクラスタの階層構造の調査◎斧城悠大・岩田一貴・末松伸朗・林 朗(広島市大)
- LH-001 スケールの影響に対して頑健な曲線の最適整合◎大内 悠・岩田一貴・林 朗(広島市大)
- H-005 異方性ドロネー三角形分割による地図の幾何補正◎亀井克之・中田秀男(三菱)・堀池 聡(兵庫大)

[動画像解析と追跡]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1L会場(21号館5階 2155教室) 座長 岡田 稔(早大)
- H-006 AdaBoostとパーティクルフィルタによる移動物体追跡の効率化◎圓田直樹・岩堀祐之(中部大)・福井真二(愛知教育大)・河中治樹(愛知県大)
- H-007 尤度分布の観測と分割に基づく物体追跡◎林 豊洋・榎田修一・江島俊朗(九工大)
- H-008 能動追跡のための視覚移動ロボットシステム◎羅 丹(早大)
- H-009 道路の複数エッジ同時追跡のためのSnake間の交差禁止処理による収束点の決定法◎澤野弘明・岡田 稔(早大)
- H-010 オプティカルフローを用いた画像中の野鳥検出◎久保山裕・三田長久・吉岡俊英(熊本大)
- H-011 ホログラフィーを用いた流体速度場可視化計算機システムの研究開発◎増田信之・伊藤智義・若林秀明(千葉大)・佐竹信一(東理大)・功刀資彰(京大)・佐藤一穂(豊田自動織機)

[顔画像解析(1)]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2K会場(21号館5階 2154教室) 座長 Simon Clippingdale(NHK技研)
- H-012 瞳認識・描画を利用したアイコンタクト顔映像生成◎舟橋琢磨・藤原孝幸・興水大和(中京大)
- H-013 テンプレートマッチング法による目検出のための適切な周辺チェック領域の検討◎宮崎翔太・高野博史・中村清実(富山県大)
- H-014 瞬き動作による動的生体認証の新たな特徴量の提案と評価◎石川和明・藤田 健・浜本隆之(東理大)
- H-015 PCA 相関フィルタによる目領域の探索◎鈴木亜紀子・有木康雄・滝口哲也(神戸大)
- H-016 唇および口内領域形状に基づくトラジェクトリ特徴量による読唇◎齊藤剛史・小西亮介(鳥取大)
- LH-002 近赤外光を用いた肌領域検出について有効性の考察◎渡辺泰斗・山本和彦・加藤邦人(岐阜大)・小島真一・中西 悟(豊田中研)

[特徴抽出と対象検出]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2L会場(21号館5階 2155教室) 座長 森 健策(名大)
- H-017 収縮処理を用いた野鳥のカウント法◎吉岡俊英・三田長久・久保山裕(熊本大)
- H-018 安定した検出精度を持つ実時間細菌検出システムの開発高橋信行・武井昌史・◎平井 登(はこだて未来大)・佐々木健太(東京エレクトロニクスソフトウェアテクノロジー)・澤田大剛・野田 真・藤原里美(東和電気)・大坪雅史・宮原則行(北海道立工業技術センター)
- H-019 部分バンドパターンを単位とした染色体領域の抽出・同定濱田智栄子・山口 傑(東北大)・島田裕充・浅野克敏・酒井栄一(日本遺伝子研)・大庭信之・佐藤俊哉(日本IBM)・◎阿部 亨・木下哲男(東北大)
- H-020 2次元コードの多階調化及びその認識のための多値化処理の提案◎高田康行(慶大)
- H-021 抵抗器読み取りのための色特徴に関する一検討三谷芳弘・◎杉村佑貴(宇部高専)・浜本義彦(山口大)
- H-022 効果的なインクリメンタル型Hough変換アルゴリズム◎沼田宗敏(ロゼフテクノロジー)・興水大和(中京大)

[顔画像解析(2)]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3K会場(21号館5階 2154教室) 座長 加藤 邦人(岐阜大)
- H-023 GAとLVQを用いた見た目年齢推定◎深井寛修・満倉靖恵(農工大)・滝本裕則(佐世保高専)・福見 稔(徳島大)
- LH-003 変動輝度テンプレートをを用いた頭部姿勢変動に頑健な確率的表情認識手法◎熊野史朗(東大)・大塚和弘・大和淳司・前田英作(NTT)・佐藤洋一(東大)
- LH-004 Facial Expression Recognition by Fast Supervised Independent Component Analysis◎陳 凡・小谷一孔(北陸先端大)
- H-024 Validation of the Snake Pedal Model applied to Face Segmentation in Monochromatic Images◎Ramirez Carolina(早大)
- H-025 ベイズ的動画像顔検出における顔候補領域の逐次予測◎松井 淳(NHK技研/早大)・Simon Clippingdale(NHK技研)・松本 隆(早大)
- H-026 角度の変化に対応した顔認識手法◎尾形直哉・Chakraborty Goutam・馬淵浩司・松原雅文(岩手県大)

[画像検索と特徴量]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3L会場(21号館5階 2155教室) 座長 渡辺 弥寿夫(金沢工大)
- H-027 核の形状に基づく類似病理画像検索の検討◎上野智史・松尾賢治・橋本真幸・小池 淳(KDDI研)・三代川齊之・吉田晃敏(旭川医大)
- LH-005 顕著度を考慮した多視点画像特徴量を用いた三次元形状類似検索大瀧竜太郎・◎長田邦男・坂野智久(山梨大)
- H-028 色情報に対する人間の感性を考慮した類似画像検索◎藤田雄大・野口達也・石田 崇・平澤茂一(早大)
- H-029 回転方向の自己相関関数を用いた商標図形分類法◎餅原道元・佐野利行・石田 崇・平澤茂一(早大)

- H-030 曲率と振率を利用した3次元軌跡曲線の解析手法◎武佐和宏・渡辺弥寿夫(金沢工大)
 H-031 Boost学習に基づく特徴量の貢献度の評価◎土屋成光・藤吉弘亘(中部大)

[人物画像処理 (1)]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4K会場(21号館5階 2154教室) 座長 藤吉 弘亘(中部大)
 H-032 固有空間法での人物姿勢認識における連続フレームを利用した効率的な探索範囲限定
◎松原文典(中部大)・河中治樹(愛知県大)・岩堀祐之(中部大)
 H-033 距離画像センサを用いた俯瞰画像による人物の姿勢推定
◎高橋典宏・山澤一誠(奈良先端大)・生雲公啓(オムロン)・野田 賢・横矢直和(奈良先端大)
 LH-006 簡易型モーションキャプチャにおける捻り検出◎本多芳寛・青木公也・興水大和(中京大)
 H-034 簡易型モーションキャプチャによるロボット教示システムの検討◎嘉山和孝・本多芳寛・青木公也(中京大)
 H-035 3Dアバター制御のための簡易モーションキャプチャの提案◎川澄裕一・宮岡伸一郎(東京工大)
 H-036 身体モデルを用いた3Dモーションキャプチャ◎穴戸 翔・齋藤宗彦・安藤敏彦(仙台電波高専)

[3次元解析 (1)]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4L会場(21号館5階 2155教室) 座長 岩堀 祐之(中部大)
 H-037 単眼カメラからの移動物体の3次元位置復元◎合田 裕(名工大)・岩堀祐之(中部大)・
 中村剛士(名工大)・河中治樹(愛知県大)・伊藤英則(名工大)
 H-038 仮想物体を介した実物体の運動推定◎青木公也・興水大和(中京大)
 H-039 位置に依存した固有空間上でのランドマークの照合によるカメラの位置・姿勢推定の高速度化
◎武富貴史・佐藤智和・横矢直和(奈良先端大)
 H-040 隠蔽を抑制する単眼視ステレオ計測法の提案◎渡辺 隆・草野 洗・藤原孝幸・興水大和(中京大)
 H-041 Depth From Focus法を用いた鏡面の距離・形状計測◎高野雅士・森本雅和・藤井健作・石垣博行(兵庫県大)
 H-042 画像処理による距離計測◎藤原明裕(九工大)

[文字認識]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5J会場(21号館5階 2153教室) 座長 渡邊 豊英(名大)
 LH-007 低品質文字列を認識するための文字間空隙特徴の利用◎石田皓之・高橋友和・井手一郎・村瀬 洋(名大)
 H-043 図形輪郭除去によるテロップ文字領域抽出◎平松義崇・関本信博・新庄 広・丸川勝美(日立)
 H-044 正規化によるオフライン筆者認識への影響分析◎大川 学(警視庁/信州大)・丸山 稔(信州大)
 H-045 図書分類記号一括照合のためのテンプレート画像更新の一手法◎豊田倫明・大場和久・中村伸一(日本福祉大)・
 柳本哲也(中京大)・森 隆知(立命館大)・辺見一男(長崎シーボルト大)
 H-046 ログタイプ等の変形文字を対象とした文字画像特徴抽出
◎塚田浩太郎(東理大)・延澤志保(武蔵工大)・太原育夫(東理大)
 H-047 オンライン文字認識における文字推測機能の検討◎川又武典・鷲野浩之(三菱)

[人物画像処理 (2)]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5K会場(21号館5階 2154教室) 座長 嶋田 晋(中京大)
 H-048 体型に応じた楕円体3次元モデルを用いたサーモグラフィ画像からの人体の姿勢推測◎早瀬光浩・嶋田 晋(中京大)
 H-049 多重分解処理を用いたジェスチャからの感情認識◎苗村昌秀・高橋正樹・藤井真人・八木伸行(NHK)
 H-050 (講演取消)
 H-051 歩行の向きに依存しない多視点人物歩容認識
◎朱 曉東・高橋友和・井手一郎(名大)・目加田慶人(中京大)・村瀬 洋(名大)
 H-052 高視点撮影映像による歩行者交通量計数法の改良◎山内俊明・関 靖夫(神奈川工科大)
 H-053 動背景環境下におけるリアルタイム侵入物体検出法の検討◎伊藤 渡・伊藤光恵・岩永一成・藤井 幸(日立国際電気)

[3次元解析 (2)]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5L会場(21号館5階 2155教室) 座長 天野 敏之(奈良先端大)
 H-054 ロボットアームによる組み付け部品検査◎野村侑一郎・青木公也(中京大)
 LH-008 Recognition of 3D Objects in Various Capturing Conditions Using Appearance Manifold with Embedded Covariance Matrix
◎Lina・高橋友和・井手一郎・村瀬 洋(名大)
 H-055 ニューラルネットと2自由度の回転による3次元物体の局所曲面分類◎小島 崇(名工大)・
 岩堀祐之(中部大)・中村剛士(名工大)・福井真二(愛知教育大)・伊藤英則(名工大)
 H-056 カメラの上下動を考慮するモンテカルロ法とバイズ推定に基づく物体の三次元形状復元法の検討
◎成澤 祐(早大)・小方博之(成蹊大)・大谷 惇(早大)
 LH-009 濃淡画像からのガウス曲率の復元精度向上手法
◎中川貴規・岩堀祐之(中部大)・福井真二(愛知教育大)・河中治樹(愛知県大)
 LH-010 3次元表面位置合わせによるTime-Varying Meshの動き解析◎山崎俊彦・相澤清晴(東大)

[画像解析と修復]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6J会場(21号館5階 2153教室) 座長 山崎 俊彦(東大)
 H-057 車載カメラ映像中におけるフロントガラス上の遮蔽領域復元に関する検討
◎野田雅文・高橋友和・井手一郎・目加田慶人・村瀬 洋(名大)
 LH-011 画像修復における定性的・定量的評価法に関する考察◎河合紀彦・佐藤智和・横矢直和(奈良先端大)
 H-058 Study of Foreground-Background Contrast Enhancement in Color Image◎丁キョウ・大谷 淳(早大)
 H-059 複数モーション領域を含む時系列画像の分割レジストレーション◎張 馴権・清水雅夫・奥富正敏(東工大)
 H-060 広域サーベイランス映像の時空間解析手法の検討◎西岡潔郁・味八木崇・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
 H-061 撮影環境に基づく確率分布切り替えによる画像向き判定方式◎高橋祐介・平田恭二(NEC)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

[スポーツ映像解析]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6K会場(21号館5階 2154教室) 座長 三浦 純 (豊橋技科大)
- H-062 局所的な選手人数分布の解析に基づくサッカーイベント判別法 …… ○三須俊枝・苗村昌秀・藤井真人・八木伸行 (NHK)
- H-063 B-Motionの軌跡データに基づく野球の球種識別手法 …… ◎高橋正樹・苗村昌秀・藤井真人・八木伸行 (NHK 技研)
- H-064 パーティクルフィルタを用いたティーショットシーンでのゴルフボール追跡
…………… ◎高橋正樹・苗村昌秀・藤井真人・八木伸行 (NHK 技研)
- H-065 フットボール解説支援を目的とした競技シーンからの戦略的スペースの自動抽出
…………… 瀧 剛志・◎斎藤秀樹・長谷川純一 (中京大)
- H-066 サッカー試合ビデオにおけるサッカーボール認識法の検討 …… ○関 靖夫・山内俊明 (神奈川工科大)
- H-067 サッカー中継映像における複雑隠蔽下での選手追跡 …… ◎久保博之 (阪大)・三浦 純 (豊橋技科大)

[VRとインタラクション]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7J会場(21号館5階 2153教室) 座長 佐藤 智和 (奈良先端大)
- H-068 USBカメラ映像を用いた指先によるマウス操作 …… ◎長戸陽太・本田郁二 (慶大)
- H-069 筆先接触画像取得型毛筆ディスプレイ …… ○岩月正見・植田耕平 (法大)
- H-070 立体視映像表示システムのための高速再描画機能と輻輳角調節機能の実装
…………… ◎木村朋博・横前拓磨・井口信和・越智洋司 (近畿大)・Rafael Sierra・内尾文隆 (和歌山大)
- H-071 アクティブ視点映像生成に関する研究 …… ◎山下哲史・須藤 智・恩田憲一 (尚美学園大)
- H-072 複数の任意経路で撮影された全方位画像群からのステレオ画像生成 …… ◎堀磨伊也・神原誠之・横矢直和 (奈良先端大)
- H-073 拡張コンセンストリックモザイクによる深度歪補正 …… ○巴図斯仁・山本 強 (北大)
- H-074 紙類包装支援のための折り操作手順設計 …… ◎松島健太・鳥貫 博・渡邊豊英 (名大)
- H-075 ウェアラブル式色バリアフリーシステムの開発 …… ○筒井崇洋・青木公也 (中京大)

[映像メディア]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7K会場(21号館5階 2154教室) 座長 北原 格 (筑波大)
- H-076 クローズドキャプションを用いたニュース番組におけるトピック分割手法
…………… ◎榎上直樹・片岡充照・黒木修隆・沼 昌宏・山本啓輔 (神戸大)
- H-077 クローズドキャプションを用いた野球映像インデキシング
…………… ◎中村大輔・山中隆広・片岡充照・黒木修隆・沼 昌宏・山本啓輔 (神戸大)
- H-078 電子番組表に基づいた番組紹介映像の自動生成手法の評価 …… ◎河合吉彦・住吉英樹・八木伸行 (NHK)
- H-079 出演者の代表顔を利用した番組選択支援方式の有効性検証 …… ◎石川真澄・大綱亮磨・平田恭二 (NEC)
- H-080 自動ダイジェスト再生機能のためのリプレイシーン検出手法
…………… ◎親松昌幸・廣井和重・森 靖英・加藤雅弘・木村淳一 (日立)
- H-081 ニュース映像における話者と被写体の不一致検出 …… ◎小林尊志・高橋友和・井手一郎・村瀬 洋 (名大)
- LH-012 ベクトル類似度を用いた順序制約付きステレオ符号化
…………… ◎窪 太志・栗原良尚・濱崎貴紀・本間永愛・六井 淳 (鳥根大)
- H-082 VB.NETによる画像情報処理・圧縮・認識・画像情報セキュリティ …… ○今井幸雄 (東海大)

I分野：グラフィクス・画像 (第3分冊)

[H264 (1)]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1M会場(8号館1階 814教室) 座長 坂東 幸浩 (NTT)
- LI-001 空間スケーラブル符号化におけるレイヤ間相関を利用した重み付き予測方式
…………… ◎早瀬和也・坂東幸浩・高村誠之・上倉一人・八島由幸 (NTT)
- LI-002 画素サンプリング画面内予測を用いた画像符号化の効率改善 …… ◎和田直史・中條 健 (東芝)
- I-001 H.264符号化における動きの整合性に基づいたスキップモード選択方式 …… ◎蝶野慶一・宮本義弘 (NEC)
- I-002 エッジ方向に基づく適応イントラ予測に関する検討 …… ◎筑波健史・徳毛靖昭・青野友子 (シャープ)
- I-003 イントラ予測性能改善に関する一検討 …… ◎吉野知伸・内藤 整・小池 淳 (KDDI研)
- LI-003 H.264の重み予測を利用したネガボジ反転に関する一検討 …… ◎加藤晴久・米山暁夫・滝嶋康弘 (KDDI研)

[レンダリングとGPU]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1N会場(8号館1階 815教室) 座長 馬場 雅志 (広島市大)
- I-004 フォトンマップ分割に基づく並列画像生成アルゴリズム …… ◎田村壮秀・小林広明・滝沢寛之 (東北大)
- LI-004 Intersection Algorithm for Ray Tracing Using Packets …… ◎ Kazuhiko Komatsu・Yoshiyuki Kaeriyama・Kenichi Suzuki・Hiroaki Kobayashi・Tadao Nakamura (東北大)
- I-005 VISUALIZATION OF LARGE RLE-ENCODED VOXEL VOLUMES …… ◎ Sven Forstmann (早大)・Samuel Moll (Ludwig-Maximilians-University Munich)・大谷 淳 (早大)
- I-006 宝飾品用レンダラの開発 …… ◎直江尚範・伊藤 誠 (中京大)・古川 進 (山梨大)
- I-007 GPUを用いた相互作用のある粒子の実時間描画 …… ◎三嶋 仁・田中敏光・佐川雄二 (名城大)
- I-008 (講演取消)

[H264 (2)]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2M会場(8号館1階 814教室) 座長 小池 淳 (KDDI研)
- I-009 コスト比較に基づくH.264フリッカ低減手法 …… ◎清水智行 (KDDI研)・五十嵐将也 (東理大)・米山暁夫・滝嶋康弘 (KDDI研)・半谷精一郎 (東理大)
- I-010 MPEG-2/H.264変換におけるMBAFFモード決定手法に関する検討
…………… ◎江尻 淳 (東理大)・加藤晴久・滝嶋康弘 (KDDI研)・半谷精一郎 (東理大)

- I-011 デコーダの負荷を軽減させるためのデブロッキングフィルタ機能の代替方式
.....◎高橋陽区(東工大)・高木幸一・滝嶋康弘(KDDI研)・羽鳥好律(東工大)
- I-012 AVC/H.264によるスーパーハイビジョンコーデックの開発.....◎中島奈緒・井口和久・
境田慎一・合志清一(NHK技研)・数井君彦・中川 章・酒井 潔(富士通研)
- I-013 コンテンツ再生時に画質制御可能なスクランブル効果制御方式
.....◎西本友成・藤津 智・木村武史・今泉浩幸(NHK技研)・三田長久(熊本大)
- I-014 クロマフォーマットと映像符号化効率の関係に関する一検討
.....◎関口俊一・山岸秀一・山田悦久・浅井光太郎・村上篤道(三菱)

[モデリング技法]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2N会場(8号館1階 815教室) 座長 水野 慎士(豊橋技科大)
- I-015 グラフィックスハードウェアを用いた境界表現モデルからOctreeモデルへの変換
.....◎井口恒志・小堀研一・西尾孝治(大阪工大)
- I-016 3次元モーフィングのための対応付け自動化に関する研究.....◎山下主税・西尾孝治・小堀研一(大阪工大)
- I-017 携帯電話で撮影された顔写真からの3Dモデル生成システム.....◎金崎良太・高井昌彰(北大)
- I-018 ポイントグラフィックスを用いた切削による形状編集手法.....◎竹内亮太・渡辺大地(東京工科大)
- I-019 スクラッチインタフェースによる3次元形状のモデリング.....◎野田明宏・田中敏光・佐川雄二(名城大)
- I-020 Jw_cadにおける管長・管径検出法.....◎酒井悦子・中田崇行・松田弘成・安井直彦(富山県大)

[3次元テレビ・ホログラム]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3M会場(8号館1階 814教室) 座長 甲藤 二郎(早大)
- I-021 INDANE法を用いたホログラムからの数値再生像のダイナミックレンジ圧縮
.....◎下馬場朋禄(山形大)・伊藤智義(JST/千葉大)
- I-022 時分割法と誤差拡散法によるマルチカラー電子ホログラフィ.....◎下馬場朋禄・中島 翼・宮本康介(山形大)・
白木厚司・市橋保之・増田信之(千葉大)・伊藤智義(JST/千葉大)
- I-023 10万点で構成された物体像の電子ホログラフィ再生
.....◎市橋保之・中山弘敬・白木厚司・増田信之・伊藤智義(千葉大)・下馬場朋禄(山形大)
- I-024 3次元テレビの実用化に向けた電子ホログラフィ再生像の拡大
.....◎白木厚司・中山弘敬・市橋保之・増田信之(千葉大)・下馬場朋禄(山形大)・伊藤智義(千葉大)
- I-025 多視点画像に基づいた焦点効果のレンダリング手法
.....◎久保田彰(東工大)・児玉和也(国立情報学研)・羽鳥好律(東工大)
- I-026 合焦判定法を利用した中心視点画像の生成.....◎大澤克俊・久保田彰・羽鳥好律(東工大)
- I-027 機械制御された二次元カメラアレイで取得した光線空間データの補正
.....◎太田真人・福嶋慶繁・圓道知博・藤井俊彰・谷本正幸(名大)

[CG応用と制作支援]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3N会場(8号館1階 815教室) 座長 宮崎 慎也(中京大)
- I-028 複雑形状建築物の自動屋根葺き手法の改良.....◎谷村知洋・勝村 大・青木香織・高橋時市郎(電機大)
- I-029 都市景観再構成のための家屋構造記述言語の改良.....◎佐久間昭夫・勝村 大・谷村知洋・安 友章・高橋時市郎(電機大)
- I-030 古代の建物を復元する3次元モデルの自動生成.....◎杉原健一(岐阜経済大)・木村寛之(イビソク)
- I-031 音波による河川の流速分布のリアルタイム可視化.....◎矢島邦昭(仙台電波高専)・三浦裕介(中部電力)・
遠藤茉莉香(仙台電波高専)・田山典男(岩手大)・岩橋政宏(長岡技科大)
- LI-005 衝突判定技法を用いた折り紙ナビゲータの研究.....◎須藤敦史・新藤義昭(日本工大)
- I-032 キャラクタ入力/出力からマウス入力/CG出力へ
.....◎嶋田憲史(福井大)・中川直哉(源コーポレーション)・田村信介・柳瀬龍郎(福井大)
- I-033 壁紙の意匠解析と、デザイン支援.....◎伊藤 誠(中京大)・杉本直温(共和レーザー)・幸村真佐男(中京大)

[画像符号化・変換]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4M会場(8号館1階 814教室) 座長 橋本 真幸(KDDI研)
- I-034 周辺領域の輝度変化に基づくエッジ適応型インターレース-プログレッシブ変換法
.....◎戸田真人・塚田正人・井上 晃(NEC)
- I-035 Frame Rate Up-conversion in Time-Varying Mesh by Motion Information
.....◎Jianfeng Xu・Toshihiko Yamasaki・Kiyoharu Aizawa(東大)
- I-036 領域分割された動画像におけるオブジェクト単位での圧縮方法.....◎進 隆治・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- I-037 A Consideration on the Residual Distribution in Minimum Mean Absolute Error Prediction
.....◎橋爪善彦・森川良孝(岡山大)
- I-038 開口率を考慮した高フレームレート信号に対するフレーム間予測誤差信号の理論解析
.....◎坂東幸浩・早瀬和也・高村誠之・上倉一人・八島由幸(NTT)
- I-039 階層型Block Truncation Codingにおけるブロック分割手法に関する研究
.....◎中村 翔(東邦大)・坂無英徳・樋口哲也(産総研)・森下雄介(筑波大)・古谷立美(東邦大)

[画像理解]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4N会場(8号館1階 815教室) 座長 高木 真一(早大)
- I-040 ルームミラー装着式車内カメラの自動キャリブレーションと運転者の頭部位置推定
.....◎猪井光作・黒木修隆・沼 昌宏(神戸大)
- I-041 解析的な手法を用いたトップダウン顎輪郭抽出.....◎星野喬之・藤原孝幸・興水大和・秦野やす世(中京大)
- I-042 変動する照明環境下での背景差分法による移動物体検出に関する一考察
.....◎安井健一・竹沢 恵・真田博文・渡辺一央(北海道工大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- I-043 動的輪郭モデルを用いたパノラマ映像からの複数領域抽出について ……◎上杉 徹・川村尚生・菅原一孔 (鳥取大)
 I-044 Semi-automatic Annotation of Personal Digital Photographs with W6H2 Metadata
 ……◎Supheakmungskol Sarin (早大)・長橋敏則・三代沢正 (セイコーエプソン)・亀山 渉 (早大)
 I-045 ベクター表現に適した混在画像の分離に関する検討 ……◎河村 圭・石井大祐・渡辺 裕 (早大)

【画像符号化・高品質化】

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5M会場(8号館1階 814教室) 座長 八島 由幸 (NTT)
 I-046 視線を用いた映像コンテンツの評価に関する研究 ……◎須田和宏・前田仙衣・鉄谷信二 (電機大)
 I-047 高画質化支援システムの開発 ……◎塚田正人・舟山知里 (NEC)
 I-048 オーバラップMCとMPを反復する動画像符号化～直流成分補償の追加による性能改善～
 ……◎山本 勉・松田一郎・伊東 晋 (東理大)
 I-049 可変マスク形状適応内挿フィルタを用いた両方向動き補償予測 ……◎高松 慶・松田一郎・伊東 晋 (東理大)
 I-050 動き補償時間フィルタの予測ステップにおける準最適ウェイトを用いた符号化手法 ……◎吉富直樹・市毛弘一 (横浜国大)
 I-051 動き検出を用いた量子化誤差低減に基づく分散映像符号化
 ……◎鈴木博也・板垣秀星 (早大)・境田慎一・井口和久 (NHK 技研)・甲藤二郎 (早大)

【アニメーションとシミュレーション】

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5N会場(8号館1階 815教室) 座長 田崎 大輔 (早大)
 I-052 Facial Action Coding Systemに基づく表情アニメーションの評価 ……◎増田 隆・高橋時市郎 (電機大)
 LI-006 時空間的特徴と帰納推論を用いた動作データの検索 ……◎脇坂健一・向井智彦・栗山 繁 (豊橋技科大)
 I-053 骨格制御可能な粒子ベースの弾性物体アニメーション ……◎小宮信吾・床井浩平 (和歌山大)
 I-054 部位の特徴を利用した類似動作の検索 ……◎竹林佑介・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)
 I-055 CGによる紙の破断表現 ……◎木谷佳将・田中敏光・佐川雄二 (名城大)
 I-056 気流によって揺れる旗のリアルタイムシミュレーション ……◎岡本太一・藤澤 誠・三浦憲二郎 (静岡大)

【電子すかし・スクランブル】

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6M会場(8号館1階 814教室) 座長 如澤 裕尚 (NTT レゾナント)
 I-057 KLTを用いた電子透かし通信容量の計算方法
 ……◎新名 麗・菅井豊和・藤井亮介・鈴木光義・伊藤 浩・浅井光太郎・村上篤道 (三菱)
 I-058 汎用プリンタ対応ドットパターン技術の研究開発 ……◎高橋由泰・山田隆亮・海老澤竜・藤井康広・手塚 悟 (日立)
 I-059 絵画調画像のブラシストローク操作による情報埋め込み ……◎三宅哲平・栗山 繁 (豊橋技科大)
 I-060 数論変換を用いた改ざん位置検出可能なJPEG画像に対する電子透かし ……◎田森秀明・山本 強 (北大)
 I-061 任意画像からの割符生成のためのダイナミックレンジ決定法 ……◎明堂絵美・高木幸一・宮地悟史・滝嶋康弘 (KDDI 研)
 I-062 画像特性を考慮したビデオスクランブル手法 ……◎豊田陽介・高木幸一・菅野 勝・宮地悟史・滝嶋康弘 (KDDI 研)

【画像処理・計測】

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6N会場(8号館1階 815教室) 座長 内海 章 (ATR)
 I-063 解像度非依存型画像処理ライブラリの提案と実装 ……◎岡田慎太郎・津邑公暁・松尾啓志 (名工大)
 I-064 焦点ぼけを利用した単眼視計測による表面形状再構築 ……◎望月優介・青木公也 (中京大)
 I-065 魚眼レンズと円錐鏡による円環を利用した距離測定 ……◎鈴木美香・中田崇行・松田弘成・安井直彦 (富山県大)
 I-066 Low Level Feature Detection based on Modified RASAC ……◎Yingdi Xie・Jun Ohya (早大)
 I-067 画像補修アルゴリズムの再定式化とパラメータ推定法 ……◎安田宗樹 (東北大)

【映像理解・オーサリング】

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7L会場(21号館5階 2155教室) 座長 米山 暁夫 (KDDI 研)
 I-068 効率的な三次元姿勢推定のための照合領域漸増型ICPアルゴリズム
 ……◎出口 央・吉村 順・伊藤俊樹・榎田修一・江島俊朗 (九工大)
 LI-007 イメージセンサ上の高速動きベクトル検出を用いた撮像系の動き推定 ……◎中山賢一・杉田俊超・浜本隆之 (東理大)
 I-069 白色度を用いた標的検出と追跡の動画像への応用 ……◎武井昌史・高橋信行 (はこだて未来大)
 I-070 高信頼動きベクトル対の無作為選択に基づく並進・回転・拡大の推定 ……◎青木恭太 (宇都宮大)
 I-071 物語構造分析の自動化手法の提案 ……◎重久礼美・高田明典 (フェリス女学院大)
 I-072 時間属性を持ったマルチメディアによる動画ダイジェスト ……◎伊藤秀和・濱川 礼 (中京大)
 I-073 撮影密度の変化に基づく写真の時間軸方向グループ化方式 ……◎大網亮磨・山田昭雄・平田恭二 (NEC)
 I-074 ネットワークを経由したTVMLプレイヤーの同時制御
 ……◎道家 守 (NHK エンジニアリングサービス)・浜口斉周・金子浩之・井上誠喜 (NHK)・
 浜田浩行 (NHK エンジニアリングサービス)・林 正樹 (セガサミーメディア)

【3D・多視点・自由視点】

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7M会場(8号館1階 814教室) 座長 藤井 俊彰 (名大)
 I-075 局所領域分割を用いた自由視点映像生成におけるデータ圧縮手法 ……◎石川彰夫・水澤茂之・小池 淳 (KDDI 研)
 LI-008 多視点映像符号化における残差予測を用いたView Synthesis Predictionフレームワーク
 ……◎志水信哉・木全英明・上倉一人・八島由幸 (NTT)
 I-076 仮想平面を用いた多視点映像の予測内挿符号化方式の検討 ……◎鈴木裕高・久保田彰・羽鳥好律 (東工大)
 LI-009 レート・歪み理論から見た多眼画像の間引きと符号化 ……◎高橋桂太・苗村 健 (東大)
 I-077 Color correction of multiview camera system using matched feature points
 ……◎ Mehrdad Panahpour Tehrani・Akio Ishikawa・Shigeyuki Sakazawa・Atsushi Koike (KDDI 研)
 I-078 ウェブレットを用いた3次元医用画像圧縮に関する一検討 ……◎柴田知弥・市毛弘一 (横浜国大)
 I-079 3次元ブロックのRun-length codingによるTime-Varying Meshの圧縮 ……◎韓 昇龍・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

[画像処理のCG応用とNPR]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7N会場(8号館1階 815教室) 座長 齋藤 隆文(農工大)
- I-080 衣服のイラスト輪郭画像に対する数値様描画 ……◎湯浅一也(北大)・高井那美(北海道情報大)・高井昌彰(北大)
- I-081 仮想銅版画のための油膜の影響を考慮した着色モデルの一考察
……………◎田崎大輔(早大)・加藤 恵(九産大)・水野慎士(豊橋技科大)・岡田 稔(早大)
- I-082 視覚混合同補色対比を考慮した点描画風画像生成法 ……◎杉田純一・高橋時市郎(電機大)
- LI-010 時空間画像処理による均一色セル分割 NPR 動画の生成 ……常 セン・○井上光平・浦浜喜一(九大)
- I-083 巡回セールスマン問題による迷路風画像の生成 ……○井上光平・常 セン・浦浜喜一(九大)
- I-084 歩き方の違いを反映した足跡のリアルタイム生成 ……◎平野陽裕・田中敏光・佐川雄二(名城大)

J分野：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション(第3分冊)

[感性・感情]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1P会場(8号館2階 822教室) 座長 西野由利恵(NICT/ATR)
- J-001 文節区分による音声の感情認識に関する一考察 ……◎飯高智美・金子正人・武内 惇・藤本 洋(日大)
- J-002 ユーザの表情に基づく映像コンテンツへのタギング ……◎宮原正典・青木政樹・滝口哲也・有木康雄(神戸大)
- J-003 人の目の動きに含まれる「心の状態」情報の分析 ……○小田英介・王 磊・井上真紀子・伊藤 昭・寺田和憲(岐阜大)
- J-004 楽曲と配色間の共通印象を介したメディア変換における配色確定アルゴリズムの提案
……………◎杉山裕介・川野邊誠(産能大)
- J-005 顔認識における二重符号化理論とデフォルト似顔絵との関連性について-コンピュータによる似顔絵生成への応用-
……………○榎本 誠・大谷 淳(早大)・棚沢 順(千葉商科大)
- J-006 熟練者の感性評価に基づく制御パラメタの調整インタフェース ……◎石見太郎・伊藤英明・齊藤ゆみ(オムロン)

[操作支援]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1Q会場(8号館2階 826教室) 座長 岩爪 道昭(NICT)
- J-007 状況に応じたユビキタスサービス起動のための即興セクタ ……◎相馬孝宣・島川博光(立命館大)
- J-008 テーブル型ディスプレイ上での協調作業を支援するためのユーザの離合集散に対応できるトレイの実現
……………◎吉原正樹・荒木博文・中島 誠・伊藤哲郎(大分大)
- J-009 モバイルナビゲーションにおける目的地候補からの選択を容易にするインタフェース
……………◎大内宏之・三浦元喜・國藤 進(北陸先端大)
- J-010 focus+context+glue型モバイルマップにおけるランドマークの動的表示制御法 ……◎谷口和也・高橋直久(名工大)
- J-011 操作情報を利用したウェブ閲覧履歴表示UIの提案
……………◎金澤功尚(電機大)・森田哲之・田中明通・加藤泰久・高橋時市郎(NTT)
- J-012 コンピュータモニタの機能操作時の意図推定方法 ……◎寺嶋知織(ナナオ)・伊藤育世(ナナオ/中京大)

[ヒューマンファクター]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2P会場(8号館2階 822教室) 座長 矢野 澄男(NICT/ATR)
- LJ-001 家庭内視聴環境におけるテレビの視距離と視覚疲労の関係について ……◎阪本清美・青山昇一・
松岡政治・浅原重夫(松下電器)・岡田 明・山下久仁子・石原弘恵(大阪市大)
- J-013 白内障手術前後における視認性変化 ……◎齋藤大輔・斎藤恵一(電機大)・納富一宏(神奈川工科大)・斎藤正男(電機大)
- LJ-002 反転を伴うトラッキング課題における学習とその転移 ……○小堀 聡(龍谷大)
- J-014 積極的快適環境下における運転作業時の心身特性 ……○井口弘和(中京大)
- J-015 広視野映像システムに必要なフレーム周波数の検討 -横方向動体視力の視角依存性-
……………◎松尾康孝・江本正喜・菅原正幸(NHK 技研)
- J-016 画像特徴に基づくトリミング用メタデータの簡易抽出手法
……………◎沼田 誠・澤井里枝・大槻一博・有安香子・松村欣司・妹尾 宏・金次保明(NHK)

[文字入力とポインティング]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2Q会場(8号館2階 826教室) 座長 青木 恒(東芝)
- J-017 家庭内のディスプレイに用いる指差しポインターとマウスの比較評価
……………◎湯山一郎(宇都宮大)・滝浦重輝・沼田康昌(日本総研)
- J-018 Positional Mapping for Bangla Mobile Phone ……◎Kyaw Thu Ye・Monzur Morshed MD・浦野義頼(早大)
- LJ-003 マルチディスプレイ環境のためのタブレットの向きに連動するポインティング法
……………○小保昌樹・小坂真裕・今宮淳美(山梨大)
- J-019 入力動作を利用する拡大支援インタフェースの検討
……………◎渡邊優太・吉田裕史・山口 巧・芝 治也(高知高専)・島村和典(高知工科大)
- J-020 翻訳不適箇所指摘による翻訳リペア効率の改善効果 ……◎宮部真衣(和歌山大)・吉野 孝(和歌山大/NICT)
- J-021 加速度センサを利用した初心者向けマウスの提案 ……◎福井 悠(情報科学芸術大)
- J-022 パソコンの鍵盤で具体化した文字盤入力方式-百相鍵盤『き』- ……○越川和忠・宮川正弘(筑波技術大)

[動作理解・計測]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3P会場(8号館2階 822教室) 座長 朝倉 暢彦(金沢工大)
- LJ-004 フィールドを分割したインタレース画像を用いた瞬目自動計測法
……………◎阿部清彦(関東学院大)・大井尚一・大山 実(電機大)
- LJ-005 蛍狩りカメラを用いたアスリートの運動解析システムの提案
……………◎藤原孝幸(中京大)・室伏広治(中京大/ミズノ)・湯浅景元・興水大和(中京大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「LJ」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- LJ-006 似顔絵生成システム PICASSO-2 の性能評価と改良
◎徳田尚也・星野喬之・渡辺 隆・舟橋琢磨・藤原孝幸・輿水大和 (中京大)
- J-023 ハプティックデバイスを用いたスキル獲得に関する研究◎赤尾健介・大原茂之・濱本和彦 (東海大)
- J-024 Tensor Decomposition Framework for Recognizing an Unknown Person Action from Video Sequence Using Image Features
◎Acep Irawan (早大)
- J-025 (講演取消)

[ユーザインタフェース構築と応用]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3Q会場(8号館2階 826教室) 座長 三浦 元喜 (北陸先端大)
- J-026 仮想Linux環境を用いたネットワーク教育システムのための仮想ルータとGUIの実装◎上田拓実・井口信和 (近畿大)
- J-027 災害シミュレータへのタンジブルユーザインタフェースの適用◎小林和恵・柿崎竜人・成田篤信・平野光徳・加瀬一朗 (NTTコムウェア)・片田敏孝・桑沢敬行 (群馬大)
- J-028 UsiXMLに基づく情報機器ユーザインタフェースプロトタイプリングとユーザビリティ評価
◎樋口大河・堀内 聡・金井 理 (北大)
- J-029 UIの汎用化を可能にする制御プロトコル UICP の提案◎久原政彦・伊藤 誠 (中京大)
- J-030 肌に合う保養品のインターネット販売システム改善検討
◎武 金萍・野地 保・有野真史・リナズリン アブドルラーマン・水野浩孝 (東海大)
- J-031 医療情報共有システムにおけるリモートログイン環境の検討
◎有野真史・野地 保・平山 守・プティカルコット ジャルワン・渡部容子 (東海大)
- J-032 患者の積極的医療参加を目的とする医療支援システムの検討
◎有野真史・野地 保・北村浩之・リナズリン アブドルラーマン・武 金萍 (東海大)

[コミュニケーション (1)]

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4P会場(8号館2階 822教室) 座長 重信 智宏 (NICT)
- LJ-007 Visual Filler: 視覚刺激提示による伝送遅延状況下での円滑な遠隔対話の実現 西川猛司・◎川嶋宏彰・松山隆司 (京大)
- J-033 非言語情報を用いた医療面接インタラクション分析◎澤本祐一・神山祐一・平野 靖・梶田将司・間瀬健二 (名大)・勝山貴美子 (大阪府大)・山内一信 (藤田保健衛生短大)
- J-034 状況の異なる2者間での共身体インタラクション◎土屋直樹 (静岡大)
- J-035 幼児行動コーパスを用いた問題解決能力の獲得の検討
◎福島尚典・仲川 淳・石川翔吾・大谷尚史・山本 剛・桐山信也・竹林洋一 (静岡大)
- J-036 (講演取消)
- J-037 非言語コミュニケーションの分散協調モデル◎櫻井良伸・安藤敏彦 (仙台電波高専)

[コミュニケーション (2)]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5P会場(8号館2階 822教室) 座長 松田 昌史 (NTT)
- J-038 オフィス内共有機器とのかかわり合いに着目したユーザ属性分類の試み◎福本 徹 (国立教育政策研)
- J-039 メッセージバランスを表す指標を利用したグループコミュニケーション支援
◎溝渕昭二 (近畿大)・白石善明 (名工大)
- LJ-008 中心性の相関によるIRCユーザネットワークの分析
◎松澤智史 (東理大)・井出和典 (リコー)・山崎 誠・武田正之 (東理大)
- J-040 子供を対象とする音声対話インタフェースの検討◎田島大嗣・樽松 明・白井克彦 (早大)
- J-041 自動会話システムにおける背景画像による話題支援
◎原野雄規・徳永幸生 (芝浦工大)・米村俊一 (NTT)・大家 淳 (早大)
- J-042 言語グリッドを用いた多言語会議支援システムの要件
◎井出美奈 (和歌山大)・重信智宏 (NICT)・吉野 孝 (和歌山大)

[ロボット/アバタ HCI (1)]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6P会場(8号館2階 822教室) 座長 水口 充 (NICT)
- LJ-009 "No news is good news" 規準を利用した行動教示の学習◎田中一晶・左 祥・嵯峨野泰明・岡 夏樹 (京都工繊大)
- J-043 自律移動ロボットのための直接例示による対話動作の習得方法
◎長谷川高輔・大盛善啓・石井健太郎・今井倫太 (慶大)
- LJ-010 感性ロボットの表情変化による性格付け
◎柴田 寛 (名工大)・◎加納政芳 (中京大)・加藤昇平・中村剛士・伊藤英則 (名工大)
- LJ-011 ベイジアンネットワークを用いた感性会話ロボットのための対話者感情の推定法
◎趙 章植・加藤昇平 (名工大)・加納政芳 (中京大)・伊藤英則 (名工大)
- J-044 感性ロボットの感情空間を用いた表情変化によるインタラクション効果◎松井裕紀・柴田 寛 (名工大)・加納政芳 (中京大)・加藤昇平・中村剛士・伊藤英則 (名工大)
- J-045 遠隔コミュニケーションのための感性ロボットと人の表情対応付け
◎加納政芳 (中京大)・後藤みの理・加藤昇平・伊藤英則 (名工大)

[ロボット/アバタ HCI (2)]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7P会場(8号館2階 822教室) 座長 竹内 勇剛 (静岡大)
- J-046 仮想空間上のアバタを用いた遠隔相談対話支援に関する研究◎大西達也・矢島敬士 (電機大)
- LJ-012 ロボットの機能に気づかせるノンバーバルインタラクション
◎小林一樹 (関西学院大)・山田誠二 (国立情報学研)・北村泰彦 (関西学院大)
- J-047 アバタ表情リアルタイム制御のためのフェイシャルキャプチャシステム◎渡辺賢悟・宮岡伸一郎 (東京工科大)
- J-048 Puppet Enchanter II ~魔法のぬいぐるみを実現するインタフェース~◎志波 歩・松下宗一郎 (東洋大)
- J-049 ロボットから人に話しかけるための話しかけ判断モデルの構築
◎牛山 聡・松井和教 (早大)・村上 真 (東洋大)・白井克彦 (早大)

- J-050 手指によるロボットとのコミュニケーションにおける階層的制御 ……◎渡辺悟史・早瀬光浩・嶋田 晋 (中大)
 J-051 自律ロボットのしぐさが及ぼす行動理解のための基礎的調査 ……○小田桐良一 (園田学園女子大)
 J-052 日常的な対話における感情状態からの表情の生成 ……◎大島 康・森 大毅 (宇都宮大)
 LJ-013 人をインタラクティブアニメーションに引き込むロボットの演出要因-ロボットの向きと人の性格との関係-
 ……◎榎木博子 (ATR/神戸大)・篠沢一彦・萩田紀博 (ATR)

K 分野：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用 (第3分冊)

[教育工学 (1)]

- 9月5日 (水) 10:00～12:00 1R 会場 (8号館 2階 827教室) 座長 中村 直人 (千葉工大)
 LK-001 協調学習における没入型円卓場インタフェース ……◎林 佑樹・小尻智子・渡邊豊英 (名大)
 K-001 VLLA に基づくグループ協調学習におけるグループ活性化の考え方
 ……○藺田孝造・大山勝徳・武内 惇・藤本 洋 (日大)
 K-002 グループ協調学習における議事録によるグループ討議の活性化方式の一考察
 ……◎鈴木孝浩・藺田孝造・武内 惇・藤本 洋 (日大)
 K-003 コンテンツシェアラブルによる学習環境の試行 ……○香山瑞恵 (信州大)
 K-004 学習者の視点に基づく協調学習履歴の構造化 ……◎寛 将英・小尻智子・渡邊豊英 (名大)・山田武士・岩田具治 (NTT)
 K-005 学習成果自己点検システムの構築 ……○中原勝俊・川下智幸 (佐世保高専)

[教育工学 (2)]

- 9月5日 (水) 13:00～15:00 2R 会場 (8号館 2階 827教室) 座長 香山 瑞恵 (信州大)
 K-006 モバイル端末を活用した問題交換コミュニティサイトの構築 ……◎関 秀樹・遠西 学・中村直人 (千葉工大)
 K-007 グループ内相互評価機能によってグループ学習の活性化をはかる e-Learning System の開発と評価
 ……◎後閑奈々・赤倉貴子 (東理大)
 K-008 入学生の教科「情報」学習状況調査 ……◎柴田和聖・野木直人・若松輝彦・渡邊景子・中尾 剛 (いわき明星大)
 K-009 パスファインダーを用いた教員の ICT スキルの分析 ……○福本 徹 (国立教育政策研)・菊地秀文 (日黒区立東根小学校)
 K-010 音楽再生装置 iPod を用いた高専モノづくり情報技術教育の検討-LCA 環境評価-
 ……◎牧野俊昭・◎上野正博・永尾由起 (佐世保高専)
 K-011 精密板金加工品製造業用 e-Learning System の技能テスト機能による熟練技能者と非熟練技能者の差異分析
 ……◎下山 隆 (東理大)・白沢 勉 (小川製作所)・赤倉貴子 (東理大)

[マルチメディア・仮想環境基礎 (1)]

- 9月5日 (水) 15:30～17:30 3R 会場 (8号館 2階 827教室) 座長 上田 博唯 (京産大)
 K-012 映像とハプティックにおける臨場感の研究 ……◎岩城理規・石崎陽平・鉄谷信二 (電機大)
 K-013 3D キャラクタを用いたシナリオ可視化システム BunBunMovie の試作 ……◎松尾知哉・吉野 孝 (和歌山大)
 K-014 バーチャルスタジオにおけるカメラキャリブレーション高精度化の考察
 ……○大久保英彦・山内結子・三ッ峰秀樹・深谷崇史・井上誠喜 (NHK)
 K-015 赤外マーカーと色ヒストグラム類似値を利用したカメラワーク検出法の一考察
 ……○三ッ峰秀樹・山内結子・深谷崇史・大久保英彦・井上誠喜 (NHK)
 K-016 複数ロボットカメラによる対談番組の協調撮影実験 ……◎奥田 誠・津田貴夫・武藤一利・柳澤 齊・井上誠喜 (NHK)
 K-017 TVML 番組の自動制作手法の検討 ……◎金子浩之・浜口斉周 (NHK)・道家 守 (NHK エンジニアリングサービス)・
 林 正樹 (セガサミーメディア)・井上誠喜 (NHK)
 K-018 シナリオ記述言語を用いた映像制作環境の研究 ……◎石塚寿彦・松田 洋・新藤義昭 (日本工大)

[教育工学 (3)]

- 9月6日 (木) 10:00～12:00 4Q 会場 (8号館 2階 826教室) 座長 赤倉 貴子 (東理大)
 K-019 3D 偏光立体視システムを利用した地理情報教材 ……◎岸良 智・吉野大輔 (日大)・
 土田賢省 (東洋大)・上原慎也・野牧賢志・夜久竹夫 (日大)
 K-020 ユーザ適応型教材作成用オーサリングツールの設計
 ……◎阿部仁紀・藤原祥隆 (北見工大)・岡田信一郎 (茨城大)・前田康成・吉田秀樹 (北見工大)
 K-021 軌跡オブジェクトアノテーションを特長とするマルチメディア教材オーサリングシステム ……○阿倍博信 (三菱)・
 大樫仁司 (三菱電機インフォメーションシステムズ)・濱谷英次 (武庫川女子大)
 LK-002 MathML で記述された数式コンテンツ検索システムの構築 ……◎井口義秀・宮崎佳典 (静岡大)
 K-022 動画のアノテーション情報を利用した英会話学習支援システム ……◎日下大輔・堀 幸雄・今井慈郎 (香川大)
 LK-003 プログラミング初学者のための学習モデル RPRaS の提案 ……◎水谷晃三・赤羽根隆広・荒井正之・海上 隆 (帝京大)

[マルチメディア・仮想環境基礎 (2)]

- 9月6日 (木) 10:00～12:00 4R 会場 (8号館 2階 827教室) 座長 柳田 康幸 (名城大)
 K-023 領域分割に基づく類似画像検索の runlength 符号化による高速化
 ……◎金城賀真・小早川倫広・星 守・大森 匡 (電通大)
 LK-004 ハイトマップ及びノーマルマップを用いた擬似凹凸への力覚提示 ……脇田 航・◎三谷広志・井門 俊 (愛媛大)
 LK-005 景観の可視性を考慮したルート探索システムの提案 ……河野亜希 (埼玉大)・◎谷村孟紀 (京産大)・
 崔 楊 (埼玉大)・河合由起子 (京産大)・川崎 洋 (埼玉大)
 LK-006 データ放送におけるモーションキャプチャデータの表示手法の提案
 ……◎浦 正広 (名大)・山田雅之・遠藤 守・宮崎慎也 (中大)・安田孝美・横井茂樹 (名大)
 K-024 音楽セッションを目的としたコミュニティサイトの提案 ……◎鈴木茂樹・遠藤 守・山田雅之・宮崎慎也 (中大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- K-025 マルチプラットフォームに対応した入門者向けグラフィックスクラスの提案
◎岩瀬 亮・宮崎慎也・山田雅之・遠藤 守 (中京大)

[教育工学 (4) / 福祉情報工学 (1)]

9月6日 (木) 15:30 ~ 17:30 5Q 会場 (8号館2階 826教室) 座長 樋口 宜男 (立命館大)

- LK-007 未知文書からの母語話者 / 非母語話者に特徴的な表現の抽出
 ◎永田 亮・掛川淳一 (兵庫教育大)・宮井俊也・淀 雅昭・深田剛継・河合敦夫 (三重大)
- K-026 (講演取消)
- K-027 携帯電話を用いた授業支援システムの構築と運用
 ◎川幡拓矢・岡崎哲夫 (北海道工大)・遠藤大二 (酪農学園大)・山野孝則 (HBA)
- K-028 介護ロボット開発のための依頼開始場面の分析
 ◎丹羽仁史・秋谷直矩・Matthew Burdelski・久野義徳・山崎敬一 (埼玉大)
- K-029 高齢者見守りシステムの開発 ◎小田淳志・山中義太郎・東條直人・寺崎 肇 (三洋電機)
- K-030 会話ロボットを用いた高齢者のための Robot Assisted Activity の試み
 ◎荒木敦志・加納政芳・種田行男 (中京大)・小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)・井原一成 (東邦大)・清水太郎・木村憲次 (ビジネスデザイン研)・三宅なほみ・白水 始 (中京大)

[教育工学 (5)]

9月7日 (金) 10:00 ~ 12:00 6Q 会場 (8号館2階 826教室) 座長 小尻 智子 (名大)

- K-031 FPGA を用いたハードウェア・ソフトウェアトレードオフ実験◎石田光一・藁科 崇・田中清臣 (電通大)
- K-032 教育支援システム用ログシステムの設計◎根符寛之・藤原祥隆・前田康成 (北見工大)
- K-033 確率的推論を基礎とする学習者マップを利用した対面教育適応化法◎福島潤一郎・藤原祥隆・前田康成 (北見工大)
- K-034 アイマークレコーダを用いたeラーニングにおけるポインタ提示の有効性についての分析
 ◎安藤雅洋・永森正仁・Pokpong Songmuang・植野真臣 (電通大)
- K-035 項目反応理論を用いた信頼性のある能力評価システムの研究◎尾崎将範・濱本和彦・佐藤 実・野須 潔 (東海大)
- K-036 Design and Development of e-Testing Construction Support Agent
 ◎Pokpong Songmuang・Masahiro Ando・Masahito Nagamori・Maomi Ueno (電通大)

[福祉情報工学 (2)]

9月7日 (金) 13:00 ~ 16:00 7Q 会場 (8号館2階 826教室) 座長 中山 剛 (身体障害者リハビリテーション研)

- K-037 聴覚障害者のための携帯電話を用いたリアルタイム字幕提示システム
◎小林正幸・西川 俊・三好茂樹・石原保志 (筑波技術大)
- K-038 RFID タグ位置推定の視覚障害への応用◎巽 久行 (筑波技術大)・村井保之 (日本薬科大)・宮川正弘 (筑波技術大)
- K-039 力覚による認知地図創生の支援 - 視覚障害の歩行支援シミュレータ (HAWG) -
 ◎村井保之 (日本薬科大)・巽 久行・宮川正弘 (筑波技術大)
- K-040 3D 画像を用いた訓練の視知覚能力向上に及ぼす効果◎松本敏明・縄手雅彦 (島根大)
- K-041 歩行リハビリ支援システムの制作 ◎奥田伸二・久原政彦・伊藤 誠 (中京大)・古川 進 (山梨大)・佐藤 久 (山梨県障害者相談所)
- K-042 ひとりにさせないデジフォトフレーム◎西村優佳里・松下宗一郎 (東洋大)
- K-043 注意障害をもつ人のコンピュータ操作に及ぼす色および音の刺激の効果◎藤川浩一・森本大資・縄手雅彦 (島根大)
- LK-008 XML を活用した分散福祉情報共有方式の提案と試作◎服部 哲・田畑那晃 (神奈川工科大)

L 分野：ネットワーク・セキュリティ（第4分冊）

【大規模・広域ネットワークシステム】

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1S会場(8号館4階 841教室) 座長 長谷川明生(中京大)
- L-001 モバイル環境における効率的情報検索システム ……◎福田宏見・長坂康史(広島工大)
- L-002 大規模ストレージシステム向けのボリューム設計方法の提案
……………◎水野 潤・田中 徹・田口雄一・山本政行・佐藤雅英・兼田泰典(日立)
- L-003 加速器科学仮想組織におけるグリッド環境自動監視・診断システム ……◎藤井峰夫・長坂康史(広島工大)・
渡瀬芳行・佐々木節・岩井 剛(高エネルギー加速器研)
- L-004 グリッドシステムにおけるコンピューティングリソース割り当て手法へのRTT導入の有効性の検証
……………◎小山 敦・長坂康史(広島工大)
- LL-001 広域ネットワークにおけるフロー解析に基づく脅威検出法 ……◎下田晃弘・後藤滋樹(早大)
- LL-002 WDM ネットワークにおける負荷分散光波長パス設定方式 ……◎永井慎介・山口実靖・浅谷耕一(工学院大)

【ネットワーク・ロボット】

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1T会場(8号館4階 842教室) 座長 篠沢 一彦(ATR)
- L-005 公開鍵基盤に基づくロボットの認証及びアクセス制御手法の提案 ……◎三宅一正(豊田高専)
- L-006 インプラントセンサネットワークにおけるマイクロロボットの自律的位置推定
……………◎古林広之・下餅原輝頭・濱上知樹(横浜国大)
- L-007 レーザーセンサを用いたテンプレートマッチングによる移動ロボットの制御
……………◎栗田高裕・安部憲広・田中和明(九工大)
- L-008 動画像とレーザレンジセンサによる移動ロボットの自己位置推定 ……◎日浦一彰・信原卓弥・清水 優(中京大)
- L-009 連結型飛行船群を用いた局所センサネットワークの構築 ……◎信原卓弥・日浦一彰・清水 優・伊藤 誠(中京大)
- L-010 (講演取消)

【ネットワークアプリケーション (1)】

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2S会場(8号館4階 841教室) 座長 梶田 将司(名大)
- L-011 イーサネットフレームによるオブジェクト間通信
……………◎平中幸雄(山形大)・伊藤大視(東北大)・市川直樹(アルフ)・武田利浩(山形大)
- LL-003 メールゲートウェイにおけるバウンスメール発生の抑制法とその評価 ……◎梶田秀夫・落合 優(京都工繊大)
- LL-004 マルチホームネットワークにおける電子メールシステムの高信頼化運用手法
……………◎山井成良(岡山大)・土居正行(ACCESS)・岡山聖彦(岡山大)・中村素典(国立情報学研)
- LL-005 迷惑メールの解析 ……◎長谷川明生(中京大)・山口榮作(愛知県大)・鈴木常彦(中京大)
- L-012 (講演取消)
- L-013 グレイリストイングとベイジアンフィルタの組合せによるスパムメールフィルタリング
……………小池隆司(ヤフー)・◎佐藤 直(情報セキュリティ大)

【ネットワークアプリケーション (2)】

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3S会場(8号館4階 841教室) 座長 吉田 和幸(大分大)
- L-014 DNSの危機的状況 ……◎鈴木常彦(中京大)
- L-015 DNSによるインシデント拡散検知 ……◎紅谷知輝・鈴木常彦(中京大)
- L-016 Webプロキシネットワークシステムにおけるノード自律協調型負荷分散方式
……………◎市木良和・鈴木 優・川越恭二(立命館大)
- L-017 Webアプリケーションの保守性向上を目指したモニタリング技術の提案 ……◎中村友洋・小島 剛(日立)
- L-018 マルチエージェントに基づく分散型e-Learningシステムにおけるバックアップと障害復旧
……………◎木下俊吾・本村真一・川村尚生・菅原一孔(鳥取大)
- LL-006 分散型e-Learningシステムにおける学習コンテンツ管理機能 ……◎倉持一生・本村真一・川村尚生・菅原一孔(鳥取大)

【セキュリティシステム】

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4S会場(8号館4階 841教室) 座長 三宅 優(KDDI研)
- L-019 携帯電話網を用いた公開鍵交換システム ……◎坂本千鶴・Giuseppe de Maruco・多々内允晴(豊田工業大)
- L-020 IDベース暗号を利用した電子カルテシステムにおける鍵管理方式の提案
……………◎四ツ柳健太・高橋 修・宮本衛市(はこだて未来大)
- L-021 電子透かしを用いた著作権侵害防止システム ……◎磯部博行・吉富康成(京都府大)
- L-022 仮想マシンモニタにおけるデバイスドライバ安全性向上に関する提案 ……◎藤澤一樹・橋本正樹・宮本久仁男・
金 美羅(情報セキュリティ大)・辻 秀典(情報技研)・田中英彦(情報セキュリティ大)
- L-023 受動的なOS特定法にみる、通信サービス品質改善の可能性に関する一考察
……………◎山口榮作(愛知県大)・鈴木常彦・長谷川明生(中京大)
- L-024 IT全般統制のための職務分掌検証方式 ……◎森田陽一郎・中江政行・小川隆一(NEC)

【分散システムとP2P】

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5R会場(8号館2階 827教室) 座長 梶田 秀夫(京都工繊大)
- L-025 Regression Based Execution Time Estimation for Scheduling in Distributed Computing Systems
……………◎Buyanmunkh Volodya・Hidenori Nakazato・Abhay Ghatpande(早大)
- L-026 検疫ネットワークの分散ダウンロードについての研究
……………◎林 碩(早大)・黒石光雄(インターネットイニシアティブ)・中里秀則・浦野義頼(早大)
- LL-007 OS資源ビューの仮想化を用いた分散システムテストベッド ……◎西川賀樹(東大)・大山恵弘(電通大)・米澤明憲(東大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- L-027 P2P 環境のためのロバスタな索引管理方式◎由利 誠・能登谷淳一・草刈良至・笠井雅夫 (秋田県大)
 L-028 分散型ネットワーク座標系における座標決定の高速化◎木浦正博・廣安知之・三木光範 (同志社大)
 LL-008 意味情報インデックスを用いた P2P 型分散検索手法の実現◎土屋 健・吉永浩和・小柳恵一 (早大)

[ネットワーク・セキュリティ]

9月6日(木) 15:30～17:30 5S 会場 (8号館4階 841教室) 座長 小川 隆一 (NEC)

- L-029 JXTA による暗号化マルチキャスト通信◎田島陽平・小林孝史 (関西大)
 L-030 セキュア情報共有に向けたドメイン仮想化方式◎佐々木貴之 (NEC)
 L-031 偽装応答を用いた scan 攻撃抑制システムの提案
◎児玉清幸・◎大塚賢治 (大分大)・南 浩一 (システム計画研)・吉田和幸 (大分大)
 L-032 統計処理トラフィックを用いた DoS 攻撃検知
◎張 振 (千葉工大)・渡辺一平 (インターネットイニシアティブ)・宮内 充 (千葉工大)
 L-033 C&C セッション分類によるボットネットの検出手法の一検討◎阿部義徳・田中英彦 (情報セキュリティ大)
 L-034 自己組織化マップを用いた異常検知についての一検討◎柿本圭介 (情報セキュリティ大)

[ネットワークの品質評価と QoS 制御]

9月7日(金) 10:00～12:00 6R 会場 (8号館2階 827教室) 座長 地引 昌弘 (NEC)

- L-035 IEEE802.11e における VoIP の通信品質評価
◎森田慎吾・飯村智也 (早大)・北原 亮 (NTT ドコモ)・後藤滋樹 (早大)
 L-036 無線 LAN におけるビット誤り率に基づく動的パケット長制御の性能評価◎森 隆幸・山口実靖・浅谷耕一 (工学院大)
 L-037 相対エントロピーを使用した CBR 度評価関数◎榎本 正 (NEC 通信システム)
 L-038 パケット欠落に対するリアルタイム予測制御に関する研究◎周ギョウ玲・大原茂之・濱本和彦 (東海大)
 LL-009 最低帯域保証のための適応スケジューリングアルゴリズム
◎青木 健・田邊 造 (諏訪東理大)・川端信吾 (情報工房)・松江英明 (諏訪東理大)
 LL-010 トラフィックバランスを考慮した適応的な通信品質保証制御◎田邊 造・青木 健・井之丸大雄 (諏訪東理大)・
 川端信吾 (情報工房)・古川利博 (東理大)・松江英明 (諏訪東理大)・辻井重男 (情報セキュリティ大)

[暗号・要素技術]

9月7日(金) 10:00～12:00 6S 会場 (8号館4階 841教室) 座長 鈴木幸太郎 (NTT)

- L-039 携帯電話を用いた電子印鑑システムの改良と出席通知システムへの適用実験
◎吉見貴彦 (NEC ソフト)・野口健一郎 (神奈川大)
 L-040 ハードウェア実装された XOR 演算部に対する DPA 手法◎辻 洋平・岩井啓介・黒川恭一 (防衛大)
 L-041 超増加性を持たない非線形ナップザック暗号◎宇田浩司 (岡山理大)・桐山明人 (フロム・ソフトウェア)・
 岩崎彰典 (岡山理大)・仲川勇二 (関西大)
 L-042 暗号アルゴリズム識別手法の提案◎吉田 剛・河内清人・藤井誠司 (三菱)
 L-043 (講演取消)
 L-044 NIST SP800-22 を用いた RPG の検定◎岡田芳明 (東理大)

[ネットワークの管理と監視]

9月7日(金) 13:00～16:00 7R 会場 (8号館2階 827教室) 座長 山井 成良 (岡山大)

- L-045 Sifting through Monitored Data: the Difficulties and the Workaround◎Kazuhide Koide・Masahiro Nagao・
 Satoshi Utsumi (東北大)・Glenn Mansfield Keeni (Cyber Solutions Inc.)・Norio Shiratori (東北大)
 L-046 ホームゲートウェイを用いたリンクレイヤトポロジ管理方式の提案
◎荒井大輔・吉原貴仁・井戸上彰・堀内浩規 (KDDI 研)
 L-047 Security Policy Advertisement と IPsec VPN Convergence を実現する IKE Negotiation 拡張
◎平河内竜樹 (ネットワンシステムズ)
 L-048 トラフィックパターンを用いた通信速度予測◎出石大志・阿部淳也・堀 幸雄・今井慈朗 (香川大)
 L-049 インターネットに接続された装置を IP アドレス毎に評価する手法に関する一提案
◎山口榮作 (愛知県大)・鈴木常彦・長谷川明生 (中京大)
 LL-011 ジッタおよびパケットロスによる DF 値への影響◎渡邊岳彦・伊藤智子・中村 誠・小河原成哲 (NTT コムウェア)
 L-050 ASP 型高信頼マルチキャストファイル配信システムに関する検証と考察
◎遠藤雅和・大久保成隆・吉田英邦・藤井徹也 (NTT コミュニケーションズ)
 L-051 テーブルオーバレイ方式によるセキュア VLAN 分析システム◎園田健太郎・松田勝志 (NEC)

[認証]

9月7日(金) 13:00～16:00 7S 会場 (8号館4階 841教室) 座長 加藤 岳久 (東芝ソリューション)

- L-052 認可を必要とするシングルサインオンシステム◎牧野浩之・廣安知之・三木光範 (同志社大)
 L-053 大学のユーザ認証システムの統合 -大阪教育大学の場合-◎宇土喬浩・松井聰治・佐藤隆士 (大阪教育大)
 L-054 携帯電話を利用した取引同期型ワンタイムパスワードトークン
◎石田夏樹・◎佐々木伸也・堤 俊之 (日立ソフトウェアエンジニアリング)
 L-055 メール送信ワンタイムパスワードを用いた安全なログインシステムの開発◎梅田知宏 (豊田高専)
 L-056 打鍵署名を利用したパスワード認証の強化について◎山村直也・城治ラシキア (中京大)
 L-057 ニューラルネットワークを用いた日本語入力によるキーストロークダイナミクス解析
◎佐村敏治 (明石高専)・西村治彦 (兵庫県大)
 L-058 ネットワークモデル上の結託攻撃に対する電子指紋の安全性◎鈴木一実・草刈良至・能登谷淳一・笠井雅夫 (秋田県大)
 LL-012 虹彩認証のための生体検知に関する研究◎兼松真志・高野博史・中村清実 (富山県大)

M 分野：ユビキタス・モバイルコンピューティング（第4分冊）

[コミュニティ形成と情報共有]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1U会場(8号館4階 843教室) 座長 宗森 純(和歌山大)
- M-001 投票による信頼度情報を付加したアドホックなコミュニティ形成システムの提案 ……◎水戸祐介・高井昌彰(北大)
- M-002 場所の近接性を考慮した自律的情報交換手法 ……◎大西雅宏・高田秀志(立命館大)
- M-003 街中における地図を用いた情報交換の可視化手法 ……◎野口尚吾・高田秀志(立命館大)
- M-004 他者の評価を考慮した情報の自律的交換手法 ……◎玉井祐輔・高田秀志(立命館大)
- M-005 個人用情報端末間の公開ブックマーク自律的編纂方式の提案 ……◎伊東寛修・高田秀志(立命館大)
- M-006 文書クラスタリングを用いたコミュニティ抽出 ……◎寺本やえみ・隈井裕之・宮田辰彦・森本康嗣(日立)

[アドホック・ネットワーク]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1V会場(8号館4階 844教室) 座長 内藤 克浩(三重大)
- M-007 グループの生存性を考慮したアドホックネットワークにおける一筆書きプロトコル ……◎大石淳也・朝倉宏一・渡邊豊英(名大)
- M-008 アドホックネットワークにおけるノード負荷を考慮した高効率ルーティング手法の提案とその性能評価 ……◎金只圭司・長坂康史(広島工大)
- M-009 アドホックネットワークにおけるネットワークコーディング適用による信頼性の向上 ……◎嘉義智紀・高橋 修(はこだて未来大)
- LM-001 道路情報取得のための位置指定通信プロトコル ……◎小柳佑介・朝倉宏一・渡邊豊英(名大)
- M-010 転送リストを用いたフラディング方式の実証実験 ……◎板谷聡子・長谷川淳・近藤良久・Peter Davis・鈴木龍太郎・小花貞夫(ATR)

[分散処理]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2T会場(8号館4階 842教室) 座長 重野 寛(慶大)
- M-011 大規模疎結合分散システムにおける安定的性能確保のためのミドルウェアシステムの特性と評価 ……◎阪本憲司・吉田 誠(岡山理大)
- M-012 ミドルウェアを用いた広域的大規模疎結合分散システムにおける安定的性能確保のための負荷分散方式とその評価 ……◎阪本憲司・吉田 誠(岡山理大)
- M-013 フォールトトレラントのためのSWCNNの分散シミュレーションの実現 ……◎野本真吾・森 秀樹・上原 稔(東洋大)
- M-014 タイマを用いる分散システムにおける時間因果順序を保存した障害復旧方法 ……◎松本真治・樋口昌宏(近畿大)
- M-015 オープンソースグリッドによるCGの並列計算 ……◎田中堅一・上原 稔・森 秀樹(東洋大)
- M-016 階層型RAIDを用いた大規模仮想ディスクの構築 ……◎Erianto Chai・上原 稔・森 秀樹(東洋大)

[対話とコラボレーション]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2U会場(8号館4階 843教室) 座長 金子 聡(日本IBMサービス)
- M-017 プレゼンテーション形式の会議のための効率的なディスカッション支援システムの提案 ……◎平島大志郎・土井健司・勅使河原可海(創価大)
- M-018 GIGABOARD: リアルタイムな資料提示による会議進行支援システム ……◎西村圭亮・岡本昌之・坪井創吾・池谷直紀・長 健太・服部正典(東芝)
- LM-002 複合現実感による分散会議における映像音声配置の影響 ……◎野口康人・井上智雄(筑波大)
- M-019 グループの構成人数による対話と分析の検討 ……◎鈴木宣也(情報科学芸術大)
- M-020 実写映像による行動の受給表現の練習用補助教材の開発 ……◎大井川聡・赤塩公嗣・桑原明栄子・中野裕也・佐々木和郎・林 勝彦(東京工科大)
- M-021 学生のソフトウェア開発実習におけるコラボレーション支援に関する考察 ……◎栗原絃樹・松浦佐江子(芝浦工大)

[無線通信とセンサ]

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2V会場(8号館4階 844教室) 座長 藤野 信次(富士通研)
- M-022 異種無線アクセス環境におけるネットワークの動的構成手法についての一検討 ……◎野一色裕人・横田英俊(KDDI研)
- M-023 ヘテロジニアスな環境下でのリアルタイム通信におけるメディア同期方式 ……◎田坂和之・今井尚樹・磯村 学・井戸上彰(KDDI研)
- LM-003 WLANの伝搬損失特性に基づく信頼性を考慮したエリア推定方式 ……◎山田直治・磯田佳徳(NTTドコモ)
- LM-004 モバイルアドホックネットワークにおけるInterferenceを考慮したフレーム結合型ペーシング方式の提案 ……◎中村直毅・渡部修平・北形 元・白鳥則郎(東北大)
- M-024 センサネットワークにおけるセンシング密度のイベント適応方式の検討 ……◎大塚英悟・大島浩太・寺田松昭(農工大)
- M-025 広域分散センサノードのための統合通信基盤における拡張検索機能の提案 ……◎磯村 学・井戸上彰・堀内浩規(KDDI研)
- LM-005 アドホックネットワークにおける移動特性の定量化とデータ可用性への影響の検証 ……◎原 隆浩(阪大)

[ITS]

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3T会場(8号館4階 842教室) 座長 奥田 隆史(愛知県大)
- M-026 車々間通信向けMANETルーティングプロトコルの提案 ……◎加藤隆志・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-027 マルチエージェントシミュレーションによる局所通信型渋滞緩和モデルの評価 ……◎赤嶺有平・當間愛晃・遠藤聡志(琉球大)
- LM-006 車両移動経路のオンライン取得通信制御手法 ……◎滝川浩也・朝倉宏一・渡邊豊英(名大)
- M-028 高度道路交通情報配信方式における携帯電話網を用いた補完 ……◎南川敦宣・村松茂樹・横山浩之・西山 智(KDDI研)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- M-029 運転支援を目的とした車載カメラ画像からの交通信号機の視認性自動認識 ……◎木村文香・高橋友和(名大)・目加田慶人(中京大)・井手一郎・村瀬 洋(名大)・宮原孝行・玉津幸政(デンソー)
- LM-007 白線と視線誘導標の3次元位置を用いた道路構造の認識 ……◎清水彰一・藤吉弘巨・岩堀祐之(中部大)・酒井裕史(デンソー)・金出武雄(カーネギーメロン大)
- M-030 地図空間における特定時間内での到達可能エリアのグラフィカル表示 ……◎沢柳 佑・濱川 礼(中京大)

【情報共有とユーザ認証】

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3U会場(8号館4階 843教室) 座長 井上 智雄(筑波大/国立情報学研)
- LM-008 ネットワーク接続UIの認証レベルによるユーザビリティ評価 ……◎細田真道・嶋田郁子・神田嘉男・大竹孝幸・池田 敬(NTT東日本)
- M-031 Kerberosを用いたネットワーク認証システム ……◎中島麻衣子・原 元司(松江高専)
- M-032 PutItOnWebを用いた情報送信システムの構築 ……◎木村訓康・田村浩一郎(中京大)
- M-033 Webサービスにおけるパーソナルな情報の共有と蓄積 ……◎岡野真也・小岩秀和(エストコスモ)・後藤文太郎(北見工大)
- M-034 操作履歴に基づく順位付けを取り入れた多人数参加型電子ペット育成システム ……◎伊藤淳子・岩田望希・宗森 純(和歌山大)
- M-035 コミュニティ内のコミュニケーション履歴を活用したブログ投稿・閲覧システム ……◎徳永徹郎・山口 仁・吉田 誠・平野美貴(NTT)

【モバイル・アプリケーション】

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3V会場(8号館4階 844教室) 座長 渡邊 晃(名城大)
- M-036 携帯電話環境におけるコンテンツ同期配信システムの試作 ……◎森重賢二・大田忠親・新谷虎松(名工大)
- M-037 ルート推薦を含む三次元屋内ナビシステムに関するパイロットスタディ ……◎大隈隆史・興梠正克(産総研)・酒田信親(阪大)・蔵田武志(産総研)
- M-038 PlaceEngineによるCANDLE位置情報管理機能の設計 ……◎泉森達也・植田健太・佐藤健哉・小坂隆浩(同志社大)
- M-039 通信制約を考慮した携帯電話向けコンテンツ変換システムの試作 ……◎近藤圭佑・大田忠親・新谷虎松(名工大)
- M-040 GoogleMapsを利用したセンサ情報マッピングシステムの提案 ……◎松下知明・植田健太・佐藤健哉・小坂隆浩(同志社大)
- M-041 A Proposal on SIP Based Navigation System for Hospital ……◎Md.Humayun Kabir・亀山 渉(早大)

【ユビキタスネットワーク】

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4T会場(8号館4階 842教室) 座長 井上 雅裕(芝浦工大)
- M-042 暗号・ハッシュアルゴリズムの処理性能から導かれる、低コストネットワーク機器としての16ビットCPUの可能性 ……◎田中康之・土野春菜・米山清二郎・神明達哉(東芝)
- M-043 センサネットワークにおけるデータ取得制御機能の検証環境 ……◎細谷憲一・田中大祐・久保田稔(千葉工大)
- M-044 A Communication Protocol for Information Gathering over Wireless Sensor Network ……◎Wittaya Apirakviriyaa・相田 仁(東大)
- M-045 動的なフォーマット変換によるホームネットワークコンテンツ共有システム ……◎岩田貴弘・宮本啓生(日立)
- M-046 UPnPゲートウェイ高速化のためのキャッシュ方式 ……◎中村幸太・小川将弘・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-047 ホームネットワークに適したマルチチャネルアドホックネットワークの提案 ……◎西山和志・池田克夫(大阪工大)

【P2P】

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4U会場(8号館4階 843教室) 座長 植田 和憲(高知工科大)
- LM-009 P2Pネットワークのための分散ハッシュ型認証手法 ……◎武田敦志(東北文化学園大)・北形 元(東北大)・松島 悠(新日鉄ソリューションズ)・木下哲男・白鳥則郎(東北大)
- M-048 ネットワークDDoS攻撃に耐性を持つP2Pネットワーク ……◎川崎陽平・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- LM-010 複数キーワード検索に対応した分散ハッシュ型P2Pネットワーク ……◎佐藤一帆・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- LM-011 P2Pネットワークにおけるノード信頼性評価の効率化 ……◎吉田雄亮・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- M-049 スケールフリーP2Pネットワークにおけるハブの分散的検出と検索効率化 ……◎大塚 治(埼玉大)・畑中壮平(NEC ネット SI)・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- M-050 Peer-to-PeerにおけるPush型情報共有を介したクラスタリング ……◎安齋 嶺・寺田 実(電通大)

【ユビキタスアプリケーション】

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5T会場(8号館4階 842教室) 座長 河口 信夫(名大)
- M-051 ユビキタス環境向けプラットフォームLISPチップの開発 ……◎藤田直生・塚本昌彦(神戸大)
- M-052 ユビキタススクール実現への取り組み ……◎尾川正美(富士通/北陸先端大)・廣田多加治(富士通)・松澤照男(北陸先端大)
- M-053 ユビキタス場所情報システムに基づくキャンパスツアー ……◎紙名哲生(東大)・青木利憲(YRP)・小林真輔・越塚 登・坂村 健(東大)
- M-054 携帯端末におけるユーザ行動パターン動的モデル化手法のための評価システムの開発 ……◎上坂大輔・小林亜令・横山浩之・西山 智(KDDI研)
- M-055 センサネットワークによる地震被災者支援システムの研究 ……◎原山恭輔・矢内言典・井上雅裕(芝浦工大)
- M-056 プラント建設へのRFID応用技術-RFID応用写真管理システム ……◎羽鳥文雄・江幡伸一(日立プラントテクノロジー)

[モバイルとサービス]

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5U会場(8号館4階 843教室) 座長 竹下 敦 (NTTドコモ)
- M-057 格子結合網上のモバイルエージェントのための領域分割型メッセージ伝達法 ……○重井徳貴・宮島廣美(鹿児島大)
- LM-012 階層型 Mobile IPv6 における MAP ドメインを考慮したハンドオーバー時パケットロス低減手法
……………○川人直樹・山口実靖・浅谷耕一(工学院大)
- M-058 Anycast Address を用いたマルチホーミング ……○山下浩平・藤田直生・塚本昌彦(神戸大)
- M-059 MT システムを用いたセンシング情報に基づくユビキタス3状態識別システム
……………○木下浩平・藤田直生・塚本昌彦(神戸大)
- M-060 嗜好ベクトルの近似によるサービス享受条件の自動設定 ……○川成宗剛・山原裕之・原田史子・島川博光(立命館大)
- M-061 無線 LAN VoIP における通話品質保持手法の検討 ……○藤原直弘・相田 仁(東大)

[RFID・位置情報]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6T会場(8号館4階 842教室) 座長 北川 友宏(静岡大)
- M-062 XML 記述による RFID システム統合利用規格に関する研究 ……○野崎辰海・北村裕美・島村和典(高知工大)
- M-063 家庭向け RF タグシステムにおけるフィルタリング機能の提案 ……○近藤一則・江原正規・星 徹(東京工大)
- M-064 RFID タグとセンサを統合的に扱う API の提案と評価 ……○石山 慎・高橋 修・宮本衛市(はこだて未来大)
- M-065 アクティブ RFID 技術を用いた2点測位による移動体位置推定手法 ……○金子尚人・長坂康史(広島工大)
- M-066 携帯端末を用いた位置検出システム ALTI における個人軌跡特定手法 ……○岩本健嗣・横山浩之・西山 智(KDDI 研)
- M-067 過去の推定結果を用いた無線 LAN 端末位置推定手法の検討 ……○間瀬貴彦・平野 靖・梶田将司・間瀬健二(名大)

[無線ネットワークとプロトコル]

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6U会場(8号館4階 843教室) 座長 重安 哲也(広島国際大)
- M-068 アドホックネットワーク上のマルチキャストにおける動的負荷分散型の経路制御
……………澤村崇博・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- M-069 ワイヤレスメッシュネットワークにおける傾斜型クラスタを用いた経路制御
……………○清水公一(埼玉大)・澤村崇博(NEC 情報システムズ)・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
- M-070 片方向遅延を用いたトラフィックエンジニアリングアルゴリズムの適応性評価
……………○柏崎礼生(北大)・小林悟史・河合修吾・大石憲且(ネクステック)・高井昌彰(北大)
- M-071 SIP を用いた VPN 確立手法の提案 ……○岩崎哲弥・門脇恒平・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- M-072 Web サービスのセキュリティの研究 - WS-Security/SAML/XACML 適用の基礎実験 -
……………○武藤裕介(日立エスケイソーシャルシステム)・野口健一郎(神奈川大)
- M-073 効率的に中継センサを選択するネットワーク内集約方式の提案 ……○田中篤史・立川哲也・屋代智之(千葉工大)

[センサ・状況認識]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7T会場(8号館4階 842教室) 座長 岩崎 敦(九大)
- M-074 状況依存型検索のための検索状態引継方式の提案 ……○宮崎陽司・河野 泉(NEC)
- M-075 Spatial Querying for Video Retrieval from Smart Environments
……………○ Gamhewage de Silva・Toshihiko Yamasaki・Kiyoharu Aizawa(東大)
- M-076 接触物の順序関係における終始点に注目した環境非依存型行動検知 ……○近藤明宏・島川博光(立命館大)
- M-077 エリアでの行動推薦のための計画に基づくスケジューリング ……○木村将彦・渡辺 裕・原田史子・島川博光(立命館大)
- M-078 競合を解決するためのエリア内行動のスケジューリング ……○毛利有貴・原田史子・島川博光(立命館大)
- M-079 情報の抽象度変換による状況ごとのサービス提供 ……○渡辺 裕・島川博光(立命館大)
- M-080 個別化サービス提供のための行動認識における背景情報の活用
……………○森 浩佳・近藤明宏・山原裕之・原田史子・島川博光(立命館大)
- M-081 少数の負事例サンプリング行動ログを用いた行動パターンの洗練 ……○山原裕之・原田史子・島川博光(立命館大)

[ユビキタスフレームワーク]

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7U会場(8号館4階 843教室) 座長 北形 元(東北大)
- M-082 OSGi Framework を用いた SIP デバイス連携システムの提案 ……○高山洋史・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- LM-013 BPTEL 用いたユーザカスタマイズ型サービス合成システムの研究開発 ……○山登庸次・中野雄介・須永 宏(NTT)
- M-083 Knowledge Circulation Framework for Ubiquitous Communication Services : Development and Evaluation
……………○ Shintaro Imai(東北大)・Atsushi Takeda(東北化学園大)・Takuo Suganuma・Norio Shiratori(東北大)
- M-084 メタデータを利用した Java 分散システムアーキテクチャの提案
……………○石田匠平・門脇恒平(同志社大)・早川裕志(九大)・小坂隆浩・佐藤健哉(同志社大)
- LM-014 高精細全方位動画配信システムのためのサーバの設計
……………○上谷 巧・西尾佳祐・岩井儀雄・長原 一・谷内田正彦(阪大)
- M-085 全方位画像に対応したストリーミング再生プレイヤーの開発 ……○西尾佳祐・岩井儀雄・長原 一・谷内田正彦(阪大)

N 分野：教育・人文科学(第4分冊)

[授業支援方法論]

- 9月5日(水) 10:00～12:00 1W会場(8号館4階 845教室) 座長 田中 雅章(鈴鹿短大)
- N-001 パス図を用いた学習者のモチベーション構造の分析 ……○土肥紳一・宮川 治・今野紀子(電機大)
- N-002 学習計画を用いた理解困難箇所の同定による講義改善の促進 ……○奥井善也・田口 浩・原田史子・島川博光(立命館大)
- N-003 体験型学習運営における指導者支援機構の検討とシステムの構築
……………○松村健児・黒岩文介(福井大)・高橋 勇(北里大)・小高知宏・小倉久和(福井大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

- N-004 講義ビデオの振り返りによる学習を促進する方法:ゼミ選択活動との連動から ……○白水 始・遠藤 守・高橋和弘(中京大)
 N-005 (講演取消)
 N-006 タブレット PC を利用した行動記録・分析支援ツール:ROG: Reflective Observation Grab による教室での学習活動の評価
 ……○土衛衛治郎・尾関智恵・三宅なほみ(中京大)・田中真一(ジェンアークス)

【情報教育支援システム (1)】

- 9月5日(水) 13:00～15:00 2W会場(8号館4階 845教室) 座長 紅林 秀治(静岡大)
- LN-001 コンピュータ操作確認システム ……○森田直樹(東海大)・田畑 忍(皇學館大)・高瀬治彦・北 英彦(三重大)
 N-007 キーストローク単位による日本語タッチタイピングの熟達度の分析 ……○佐村敏治(明石高専)・西村治彦(兵庫県大)
 N-008 実験キットとシミュレータを連携させた教材開発と評価
 ……○宍戸倫歩・相川直幸・西田保幸(日大)・森 幸男(サレジオ工業専門学校)
 N-009 システム制御のシンクライアント型学習支援システム ……○古賀雅伸・岸田和也・矢野健太郎(九工大)
 N-010 教育用ロボットを導入した授業支援システムの試作と検証 ……○後藤友美(熊本大)・森田 徹・多賀 太(久留米大)
 N-011 名古屋工業大学における Moodle の構築と運用
 ……○伊藤宏隆・舟橋健司・中野智文・内匠 逸・松尾啓志・大貫 徹(名工大)

【図式・マルチメディアの利用】

- 9月5日(水) 15:30～17:30 3W会場(8号館4階 845教室) 座長 立田 ルミ(獨協大)
- N-012 教科「情報」におけるリモートセンシングデータによる情報実験
 ……○新地辰朗(宮崎大)・築地宏文(宗像市立大島小学校)・秋 裕基(宮崎大)
 N-013 3次元CADを用いた「からくりペーパーラフト」の試作実験 ……○大浦麻衣・棚橋純一(中京大)
 N-014 個別指導時に教員から与えられる動きある図式の再生
 ……○森 昭憲・石原 俊・田口 浩・原田史子・島川博光(立命館大)
 N-015 ゲーム環境を用いた図形学習支援システムの開発 ……○新井智也・伊藤 誠(中京大)
 N-016 視覚的理解を促すグラフアルゴリズム・デモシステムの開発 ……○稲垣 宏(豊田高専)
 N-017 車メカニズムのアニメーションと動作実現を題材とした3次元CADと機構解析CAEの連携学習実験
 ……○山中友貴(中京大)・藤本光志(インクスエンジニアリング)・棚橋純一(中京大)

【学習者支援環境】

- 9月6日(木) 10:00～12:00 4V会場(8号館4階 844教室) 座長 高岡 詠子(千歳科技大)
- LN-002 英語学習者の英文読解時間に統語的要因が及ぼす影響 ……○小谷克則(関西外語大/NICT)・吉見毅彦(龍谷大/NICT)・九津見毅・佐田いち子(シャープ)・井佐原均(NICT)
 LN-003 英語学習者の英文読解能力推定のための読解時間予測法 ……吉見毅彦(龍谷大/NICT)・小谷克則(関西外語大/NICT)・九津見毅・佐田いち子(シャープ)・井佐原均(NICT)
 LN-004 多様な問題形式に対応する問題集データ記述方式 ……○小島一秀(大阪外語大)
 N-018 e-ラーニングでの複数のドリル型教材による意欲維持 ……○佐藤玲美・川澄正史(電機大)
 N-019 教育用オープンコンテンツの作成とその管理システムについて ……○桐山和彦(鳥羽商船高専)・白石啓一(詫間電波高等専門学校)・原 元司(松江高専)・山本喜一(OpenEdu プロジェクト)・本間啓道(奈良高専)・白濱成希(北九州高専)・岡田 正(津山高専)
 LN-005 学校給食センターを活用した食育ネットワークの構築
 ……○佐々木淳・古川恵理奈・山田敬三・田中 充・船生 豊(岩手県大)

【情報教育支援システム (2)】

- 9月6日(木) 15:30～17:30 5V会場(8号館4階 844教室) 座長 坂東 宏和(桜美林大)
- N-020 インタラクティブアートプログラミング教育プログラム ……○辻合秀一(富山大)
 N-021 多数の採点項目によるCプログラミング実技試験の自動採点 ……○石原 俊・田口 浩・島川博光(立命館大)
 N-022 プログラミング演習における答案診断のためのプロファイル生成システムの実現 ……○岩間信介・高橋直久(名工大)
 N-023 Type Training System for Text Input Device on Cellular Phone ……○飯倉道雄・吉岡 亨・樺澤康夫(日本工大)
 N-024 携帯電話型文字入力装置によるかな入力練習システムの試作 ……○吉岡 亨・飯倉道雄・樺澤康夫(日本工大)
 LN-006 仮想環境ソフトウェアに基づくネットワークトラブルシューティング実習環境提供システムの評価
 ……○立岩佑一郎・安田孝美・横井茂樹(名大)

【プログラミング教育】

- 9月7日(金) 10:00～12:00 6V会場(8号館4階 844教室) 座長 西田 知博(大阪学院大)
- N-025 プロジェクトマネジメント大学教育の実践と評価 ……○井上雅裕(芝浦工大)
 N-026 データ構造に関する理解度把握のための動きある図式を用いたテスト手法
 ……○稲葉大祐・田口 浩・原田史子・島川博光(立命館大)
 N-027 プログラミング技術の習得に有用な動きある図式の管理と再利用 ……○田口 浩・原田史子・島川博光(立命館大)
 N-028 (講演取消)
 N-029 初心者教育用プログラミング環境に関する一考察 ……○桑原 悟(新潟国際情報大)

【デジタル知財・人文系応用】

- 9月7日(金) 13:00～16:00 7V会場(8号館4階 844教室) 座長 亀山 渉(早大)
- N-030 権利継承を実現するコンテンツ・エディタにおける権利管理方式の提案 ……○王 元綱・関亜紀子・亀山 渉(早大)
 N-031 宅内ネットワークにおけるPKIベースDRMの一提案 ……○堀 吉宏(三洋電機)・小出哲久・岩田 彰(名工大)
 N-032 (講演取消)
 N-033 電子創作物の証拠保全手法に関するフレームワーク ……○市川祐輔(早大)
 N-034 ETSSに基づくスキルマネジメントに関する研究 ……○富田絢子・大原茂之・濱本和彦(東海大)

- N-035 XMLによる歴史の知識基盤表現◎松井正志・中平勝子・三上喜貴(長岡技科大)
 N-036 娯楽制作物におけるポストモダン要素の検討-日本におけるポストモダン小説の受容の物語構造分析を通して
◎金子沙織・高田明典(フェリス女学院大)

○分野：情報システム(第4分冊)

[システムのプロセス&モデリング]

- 9月6日(木) 15:30~17:30 5W会場(8号館4階 845教室) 座長 岩田 祐一(NTT東日本)
 O-001 UMLモデリング能力と他因子との関係性の実験的検証○松本正雄・平野修也(九産大)
 LO-001 人間系のビジネスプロセスにおける回付ルート自動生成方式○五十嵐政志・小池賢一・茂木 強(三菱)
 LO-002 アスベクト指向による開発プロセス記述の実現検証○上野浩一郎・茂木 強(三菱)
 O-002 デメテルの法則に基づくクラス設計支援-Eclipse plug-in機能としての実装-
◎千葉亮太・橋浦弘明・古宮誠一(芝浦工大)
 O-003 デザインパターンの実行可能UMLによる記述-分散システム用パターンによる試行-
武笠寛幸・Nurul Azma Zakaria・松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)
 O-004 ARISとBPMNの比較とBPMNへの機能追加の提案◎綿貫克彦・片岡信弘(東海大)

[情報システムを支える情報技術]

- 9月7日(金) 10:00~12:00 6L会場(21号館5階 2155教室) 座長 富澤 眞樹(前橋工科大)
 O-005 方面の分類を考慮した路線バス時刻表の自動生成について◎年岡和徳・川村尚生・菅原一孔(鳥取大)
 O-006 カー・シェアリング・システムにおける乗車方法割当
◎上杉健太郎(名大)・向 直人(東理大)・池崎正和・渡邊豊英(名大)
 LO-003 グラフ構造に基づくコミュニティ抽出手法◎高橋 篤・荒井幸代・須貝康雄(千葉大)
 O-007 MANACOによる地域観光情報観測手法の提案
○堀井 洋・林 正治(北陸先端大)・堀井美里(金沢大)・吉田武稔(北陸先端大)
 O-008 Webサイトにおける項目反応理論を用いたおすすめコンテンツの提示◎橋間智博(兵庫県大)
 O-009 画像処理を用いた店舗内の顧客の商品選定時における態度の認識手法の一考察
◎堀 隆之・大谷 淳(早大)・榎 順(千葉商科大)

[オフィス情報システム]

- 9月7日(金) 10:00~12:00 6W会場(8号館4階 845教室) 座長 福田 洋治(愛知教育大)
 O-010 情報システムへのオープンソースソフトウェア導入に関するガイドライン策定
◎大木安紀・大久保隆夫・田中英彦(情報セキュリティ大)
 O-011 大規模スパムフィルタと実験環境の構築手法の提案◎佐藤一道・脇田 建(東工大)
 O-012 迷惑メールフィルタリングアルゴリズムの評価用メールセット◎鈴木貴史・白石善明(名工大)・溝渕昭二(近畿大)
 O-013 PC上での活動履歴をウェブ上に集約するシステムの運用◎近藤秀樹・三宅芳雄(中京大)
 O-014 Webサーバー機能を持つ多機能コンソールの開発について◎和谷優一・川村尚生・菅原一孔(鳥取大)

[社会と情報システム]

- 9月7日(金) 13:00~16:00 7W会場(8号館4階 845教室) 座長 金田 重郎(同志社大)
 O-015 PBL(Project Based Learning)による社会人に対する情報戦略策定の教育○戸沢義夫(産業技術大)
 O-016 ベンチャー起業立地戦略論における情報格差○大友邦久(高知工科大)
 O-017 (講演取消)
 LO-004 デジタルデバイドの評価指標についての一提言◎上嶋智大・中平勝子・三上喜貴(長岡技科大)
 LO-005 視覚障害者向け案内システムの実証的評価○深澤紀子・水上直樹・松原 広・土屋隆司(鉄道総研)
 O-018 アクティブ型ICタグを利用した身障者等の移動円滑化促進システム
○菅野勇紀(日本データサービス)・長野 章(はこだて未来大)
 O-019 RFIDを利用した再生医療向け細胞情報管理システム
○坪倉徹哉・茅花 徹・岩山太輔(日立プラントテクノロジー)・
 彦坂真人(日立プラントシステムエンジニアリング)・本望 修(札幌医科大)

※このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2007年12月31日時点で32歳以下)

※講演番号の分野の前に「L」が付いているものは、情報科学技術レターズ掲載論文です。

IPSJ：(社) 情報処理学会
 ISS：(社) 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ
 HCG：(社) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ

FIT 委員名簿

FIT 推進委員会

IPSJ 委員長 中島秀之 (はこだて未来大)
 ISS 委員長 末永康仁 (名大)
 IPSJ 委員 村山優子 (岩手県大), 田中二郎 (筑波大), 今井 浩 (東大), 星 徹 (東京工科大)
 ISS 委員 松居辰則 (早大), 大隈隆史 (産総研), 大和淳司 (NTT), 亀井俊男 (NEC)
 HCG 委員 深山 篤 (NTT)
 実行委員長 末永康仁 (名大/FIT2007), 木戸出正継 (奈良先端大/FIT2008)
 プログラム委員長 山下雅史 (九大/FIT2007), 阿草清滋 (名大/FIT2008)

FIT2007 実行委員会

委員長 末永康仁 (名大)
 幹 事 中島 浩 (京大/IPSJ), 大隈隆史 (産総研/ISS)
 会計幹事 村山優子 (岩手県大/IPSJ), 加藤義幸 (三菱/ISS)
 IPSJ 委員 梅谷俊治 (電通大), 中挾知延子 (東洋大), 落合真一 (三菱), 住吉貴志 (日立), 関谷貴之 (東大), 鈴木卓治 (国立歴史民俗学博物館), 今井 浩 (東大)
 ISS 委員 鈴木 優 (立命館大), 鍋島英知 (山梨大), 横田康成 (岐阜大), 鷺見和彦 (三菱), 内海 章 (ATR), 井原雅行 (NTT コムウェア), 岩崎 敦 (九大), 岩田祐一 (NTT 東日本), 山下雅史 (九大), 松居辰則 (早大)
 HCG 委員 朝倉暢彦 (金沢工大)
 委員 (現地) 輿水大和 (中京大), 磯 直行 (中京大)

FIT2007 プログラム委員会

委員長 山下雅史 (九大)
 幹 事 今井 浩 (東大/IPSJ), 松居辰則 (早大/ISS)
 IPSJ 委員 岸田和明 (慶大), 伊藤孝行 (名古屋工大), 関嶋政和 (産総研), 向川康博 (阪大), 日本正憲 (日本 SGI), 水口 充 (NICT), 竹下 敦 (NTT ドコモ), 山下博之 (JST), 松永賢次 (専修大), 中島 浩 (京大)
 ISS 委員 宮崎修一 (京大), 赤石美奈 (東大), 飯田全広 (熊本大), 山本和英 (長岡技科大), 三宅 優 (KDDI 研), 大隈隆史 (産総研)
 HCG 委員 宮崎慎也 (中京大)

FIT2007 担当委員

IPSJ 委員 堀田一弘 (電通大), 櫻井鉄也 (筑波大), 山本里枝子 (富士通研), 西崎真也 (東工大), 並木美太郎 (農工大), 中村 宏 (東大), 小松 聡 (東大), 有次正義 (群馬大), 岸田和明 (慶大), 乾健太郎 (奈良先端大), 中挾知延子 (東洋大), 住吉貴志 (日立), 後藤真孝 (産総研), 伊藤孝行 (名古屋工大), 伊藤毅志 (電通大), 向川康博 (阪大), 日本正憲 (日本 SGI), 橋本真幸 (KDDI 研), 水口 充 (NICT), 関谷貴之 (東大), 地引昌弘 (NEC), 金子 聡 (日本 IBM サービス), 竹下 敦 (NTT ドコモ), 大内一成 (東芝), 重野 寛 (慶大), 千田浩司 (NTT), 西田知博 (大阪学院大), 鈴木卓治 (国立歴史民俗学博物館), 山下博之 (JST), 松永賢次 (専修大), 久保田浩司 (NTT-AT), 木下俊之 (東京工科大), 常盤拓司 (東大), 関嶋政和 (産総研), 落合真一 (三菱)
 ISS 委員 横田康成 (岐阜大), 檜垣泰彦 (千葉大), 内海 章 (ATR), 山本和英 (長岡技科大), 安里 彰 (富士通研), 宮崎修一 (京大), 鍋島英知 (山梨大), 草刈圭一郎 (名大), 鈴木 優 (立命館大), 鷺見和彦 (三菱), 北神正人 (千葉大), 和久屋寛 (佐賀大), 赤石美奈 (東大), 速水 悟 (岐阜大), 赤倉貴子 (東理大), 森 健策 (名大), 岩田祐一 (NTT 東日本), 飯田全広 (熊本大), 榊原祥介 (東工大), 横矢直和 (奈良先端大), 吉野 孝 (和歌山大), 井原雅行 (NTT コムウェア), 神田崇行 (ATR), 岩崎 敦 (九大), 三宅 優 (KDDI 研)
 HCG 委員 竹内勇剛 (静岡大), 朝倉暢彦 (金沢工大), 宮崎慎也 (中京大), 樋口宜男 (立命館大)

FIT2007 現地実行委員会 * 所属はすべて中京大学

委員長 輿水大和
 副委員長 長谷川純一
 幹 事 磯 直行
 委 員 秦野やす世, 伊藤秀昭, ラシキア城治, 鈴木常彦, 濱川 礼, 青木公也, 三宅なほみ, 諏訪正樹, 土屋孝文, 白水 始, 棚橋純一, 伊藤 誠, 興膳生二郎, 宮崎慎也, 山田雅之, 遠藤 守, 藤原孝幸, 長谷川明生, 目加田慶人, 加納政芳, 瀧 剛志

このたびの FIT 開催にあたりましては、中京大学様より豊田キャンパスを会場として無償提供頂き誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。

FIT 推進委員会